



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。

PROBOX



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	14
検索のしかた	15
イラスト目次	16

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	26
安全なドライブのために	28
シートベルト	30
SRS エアバッグ	35
排気ガスに対する注意	41
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	42
チャイルドシート	43
1-3. ハイブリッドシステム	
ハイブリッドシステムの	
特徴	60
ハイブリッドシステムの	
注意	64
1-4. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	70

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	72
計器類	77
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	81

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	94
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	
(フロントドア・リヤドア) ...	97
バックドア	101
3-3. シートの調整	
フロントシート	105
リヤシート	106
ヘッドレスト	112
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	114
インナーミラー	116
ドアミラー	118
アンテナ	120
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	121

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	126
荷物を積むときの注意	137

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	138
EV ドライブモード	142
トランスミッション	144
方向指示レバー	148
パーキングブレーキ	149

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	150
AHB（オートマチック ハイビーム）	154
リヤフォグランプスイッチ	158
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	160
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	163

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	165
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....	169
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	178
LTA（レーントレーシング アシスト）	191
LDA（レーンディパーチャー アラート）	197
PDA（プロアクティブ ドライビングアシスト）	203
発進遅れ告知機能	210
RSA（ロードサイン アシスト）	212
レーダークルーズ コントロール	216
クルーズコントロール	227
クリアランスソナー	232
PKSB（パーキングサポート ブレーキ）	241
パーキングサポートブレーキ （前後方静止物）	247
バックモニター	250
運転を補助する装置	260

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	268
寒冷時の運転	270

5 室内装備・機能

5-1. エアコン・デフォグガーの使い方	
オートエアコン	274
シートヒーター	280
5-2. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧	282
・フロントルームランプ・	
リヤルームランプ	283
5-3. 収納装備の使い方	
収納装備一覧	284
・センタートレイ	
(ドリンクホルダー付)	286
・マルチホルダー	288
・インパネトレイ	291
・開閉式	
ワイドフリーラック	292
・センターボックス	292
・カップホルダー・	
ボトルホルダー	293
・オープントレイ・	
ポケット・小物入れ	295
5-4. その他の室内装備の使い方	
その他の室内装備	297
・サンバイザー	297
・アクセサリースOCKET・	
アクセサリ	
コンセント	298
・充電用 USB Type-C	
端子	300
・インパネテーブル	302
・コートフック	304
ステアリングスイッチ	305

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた	
外装の手入れ	308
内装の手入れ	312
6-2. 簡単な点検・部品交換	
ボンネット	314
ガレージジャッキ	317
ウォッシャー液の補給	318
タイヤについて	319
タイヤ空気圧について	323
エアコンフィルターの	
交換	325
駆動用電池冷却用吸入口の	
清掃	328
ワイヤレスキーの電池交換	331
ヒューズの点検・交換	334
電球 (バルブ) の交換	337

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	350
非常点滅灯 (ハザードランプ)	351
発炎筒	352
車両を緊急停止するには	354
水没・冠水したときは	356
車中泊が必要なときは	357

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	358
警告灯がついたときは	365
警告メッセージが 表示されたときは	370
パンクしたときは	379
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	390
補機バッテリーが あがったときは	391
オーバーヒートしたときは	397
スタックしたときは	401

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	404
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	409
--------------------------	-----

8-3. フリー／オープンソース ソフトウェア

フリー／オープンソース ソフトウェア情報	416
-------------------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	418
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	421
アルファベット順さくいん	422
五十音順さくいん	424

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 11 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

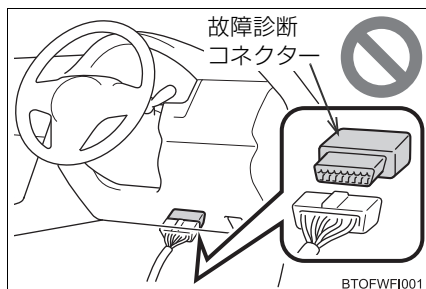
サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、補機バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータに記録されるデータ ※¹

※¹ グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数／電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含まれます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方のカメラ画像）※²

※² 車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

● 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車はToyota Safety Senseにより車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- ハイブリッドシステム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Senseによって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信など）があります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

 知識

車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。

ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO₂ 排出量の低減が見込まれます。持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL:<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

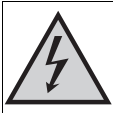
QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

本書の見方



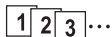
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

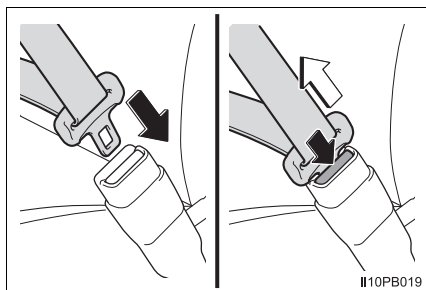
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

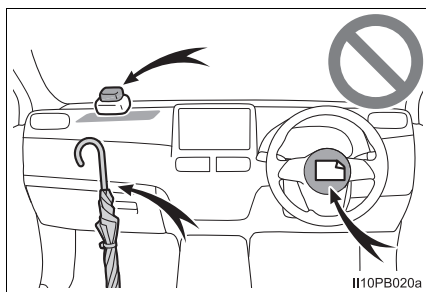
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



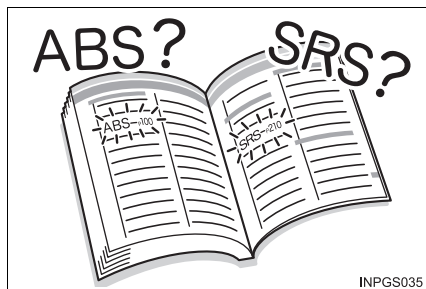
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

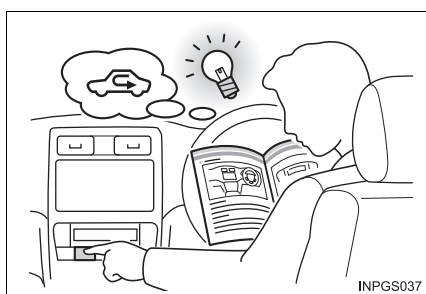
■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん424
- ・ アルファベット順
さくいん422



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次16



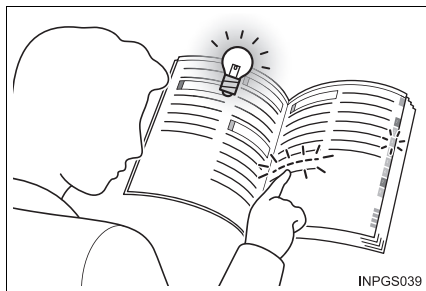
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)418
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)421



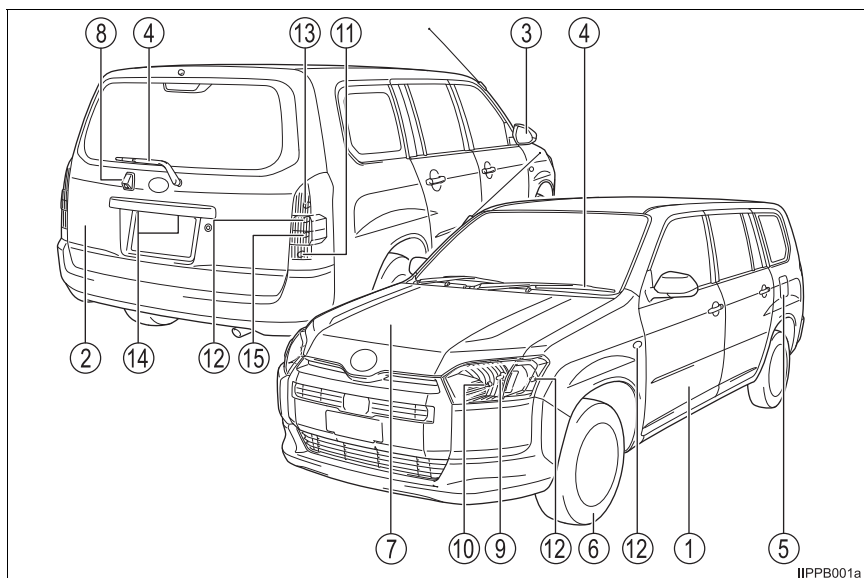
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



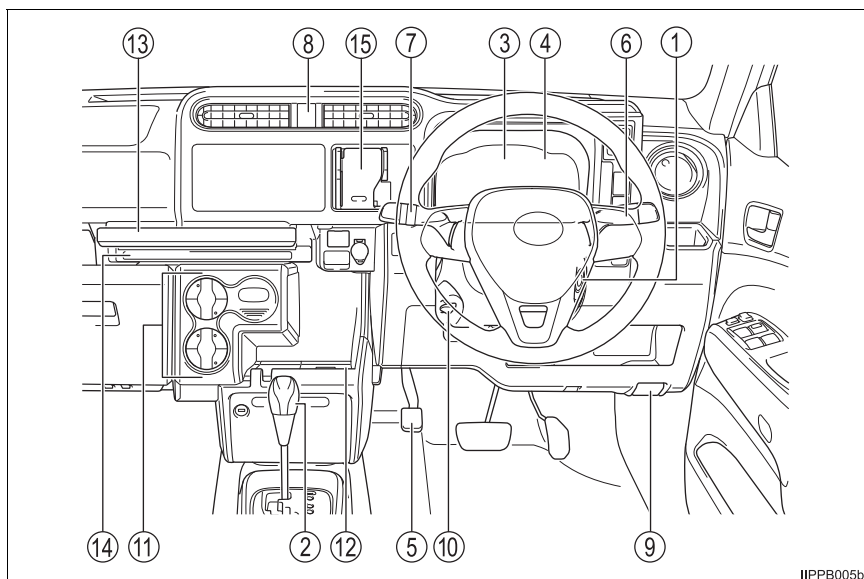
- ① ドアP. 97
 - 施錠／解錠P. 97
 - ドアガラスの開閉P. 121
 - 警告メッセージP. 99
- ② バックドアP. 101
 - 施錠／解錠P. 101
 - 警告メッセージP. 99
- ③ ドアミラーP. 118
 - 鏡面の角度調整P. 118
 - ミラーの格納P. 119
 - 曇りを取る（ミラーヒーター）★P. 276
- ④ ワイパーP. 160, 163
 - 冬季の注意P. 270

- ⑤ 給油口.....P. 165
 給油方法.....P. 165
 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 404
- ⑥ タイヤ.....P. 319
 サイズ・空気圧.....P. 407
 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 270
 点検・ローテーション.....P. 319
 パンク時の対処.....P. 379
- ⑦ ボンネット.....P. 314
 開け方.....P. 314
 エンジンオイル.....P. 404
 オーバーヒート時の対処.....P. 397
- ⑧ カメラ（バックモニター）★.....P. 250

走行に関わる外装のランプバルブ （交換要領：P. 337, ワット数：P. 408）

- ⑨ ヘッドランプ.....P. 150
- ⑩ 車幅灯.....P. 150
- ⑪ リヤフォグランプ★.....P. 158
- ⑫ 方向指示灯.....P. 148
 緊急ブレーキシグナル.....P. 260
- ⑬ 制動灯／尾灯.....P. 150
 ヒルスタートアシストコントロール.....P. 260
- ⑭ 番号灯.....P. 150
- ⑮ 後退灯
 シフトポジションを R にする.....P. 144

■ インストルメントパネル



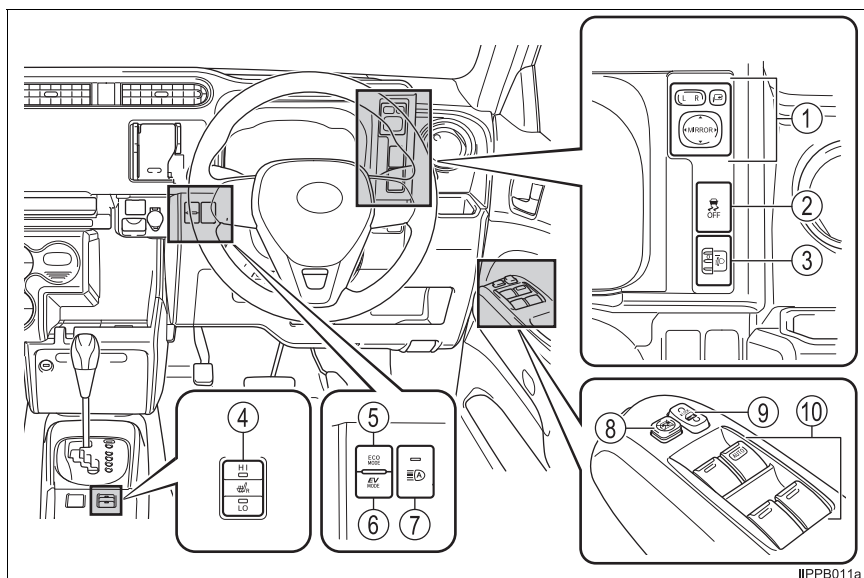
IIPPB005b

- ① **パワースイッチ** **P. 138**
 ハイブリッドシステムの始動・位置の切りかえ P. 138
 ハイブリッドシステムの緊急停止 P. 354
 ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P. 390
- ② **シフトレバー** **P. 144**
 シフトポジションの切りかえ P. 144
 けん引時の注意 P. 358
 シフトレバーが動かないときの対処 P. 146
- ③ **メーター** **P. 77**
 見方・明るさの調整 P. 77, 88
 警告灯／表示灯 P. 72
 警告灯点灯時の対処 P. 365

④	マルチインフォメーションディスプレイ	P. 81
⑤	パーキングブレーキ	P. 149
	かける・解除する	P. 149
	冬季の注意	P. 271
	警告ブザー	P. 149
⑥	方向指示レバー	P. 148
	ランプスイッチ	P. 150
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯	P. 150
	リヤフォグランプ★	P. 158
⑦	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 160, 163
	使い方	P. 160, 163
	ウォッシャー液の補給	P. 318
⑧	非常点滅灯スイッチ	P. 351
⑨	ボンネット解除レバー	P. 314
⑩	ハンドル位置調整レバー	P. 114
⑪	オートエアコン	P. 274
	操作方法	P. 274
	リヤウインドウガラスの曇り取り (リヤウインドウデフォグガー)	P. 276
⑫	センタートレイ (ドリンクホルダー付)	P. 286
⑬	インパネテーブル	P. 302
⑭	インパネトレイ	P. 291
⑮	マルチホルダー	P. 288

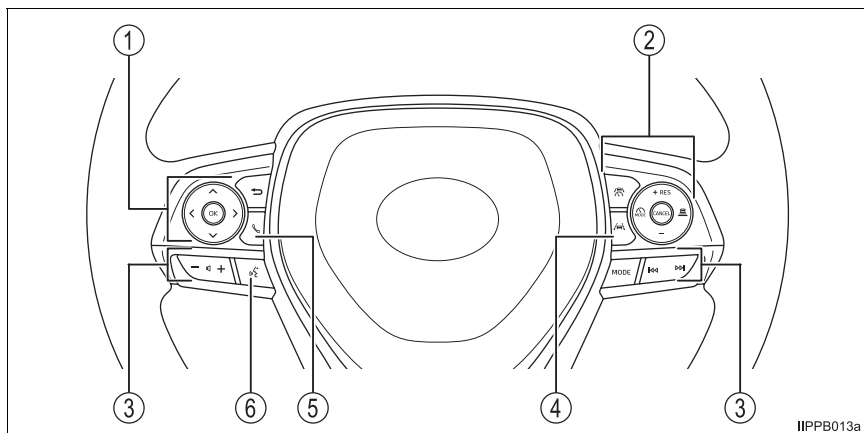
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■スイッチ類



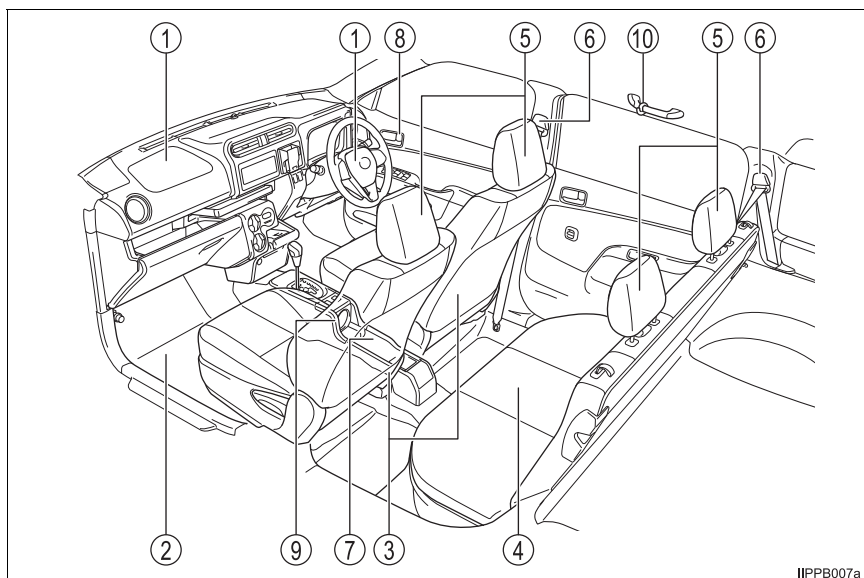
IIPB011a

- ① ドアミラースイッチP. 118
- ② VSC OFF スイッチP. 261
- ③ 手動光軸調整ダイヤル.....P. 152
- ④ シートヒータースイッチ★.....P. 280
- ⑤ エコドライブモードスイッチ.....P. 145
- ⑥ EV ドライブモードスイッチP. 142
- ⑦ オートマチックハイビームスイッチ.....P. 154
- ⑧ ウインドウロックスイッチP. 122
- ⑨ ドアロックスイッチP. 98
- ⑩ パワーウインドウスイッチP. 121



- ① メーター操作スイッチ.....P. 82
- ② クルーズコントロールスイッチ.....P. 219, 228
 - レーダークルーズコントロール.....P. 216
 - クルーズコントロール.....P. 227
- ③ オーディオスイッチ.....P. 305
- ④ LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ.....P. 194
- ⑤ 電話スイッチ.....P. 305
- ⑥ トークスイッチ.....P. 305

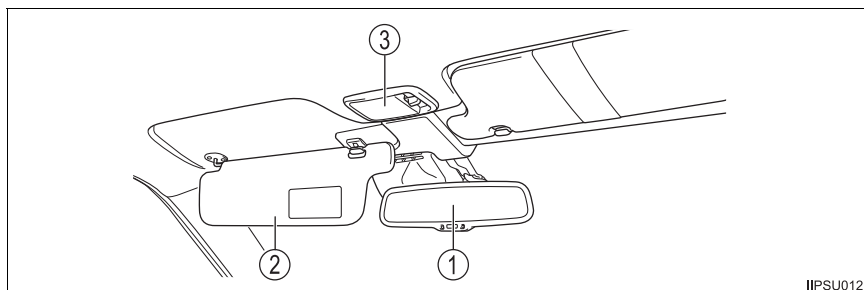
■ 室内



IIPB007a

- | | |
|----------------------|--------|
| ① SRS エアバッグ | P. 35 |
| ② フロアマット | P. 26 |
| ③ フロントシート | P. 105 |
| ④ リヤシート | P. 106 |
| ⑤ ヘッドレスト★ | P. 112 |
| ⑥ シートベルト | P. 30 |
| ⑦ センターコンソールトレイ | P. 295 |
| ⑧ ロックレバー | P. 98 |
| ⑨ カップホルダー | P. 293 |
| ⑩ コートフック | P. 304 |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- ① インナーミラーP. 116
- ② サンバイザー ※¹P. 297
- ③ ルームランプ ※²P. 282

※¹ : やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(→ P. 46)



※² : 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に.....	26
安全なドライブのために	28
シートベルト.....	30
SRS エアバッグ.....	35
排気ガスに対する注意	41
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	42
チャイルドシート	43
1-3. ハイブリッドシステム	
ハイブリッドシステムの	
特徴	60
ハイブリッドシステムの	
注意	64
1-4. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	70

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

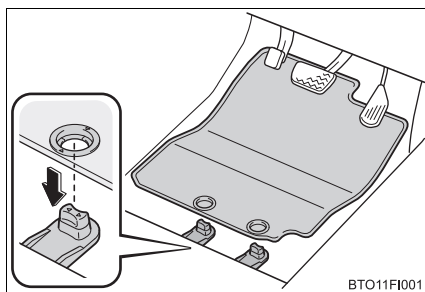
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

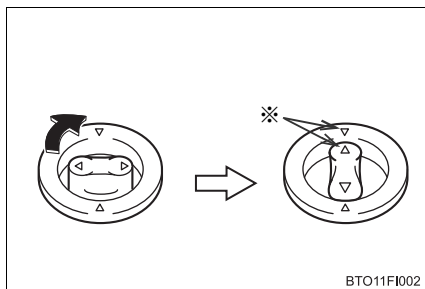
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

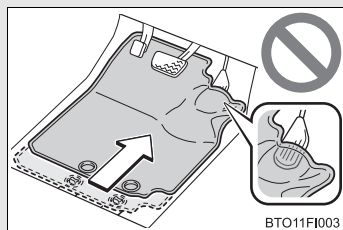
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

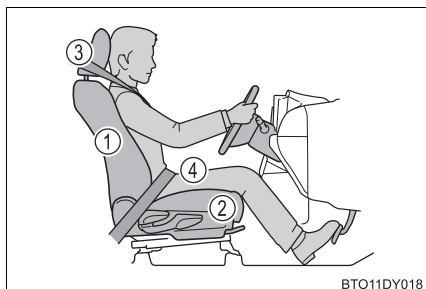


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 105）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 105）
- ③ 分割式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 112）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 30）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 30）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 43）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 116, 118）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

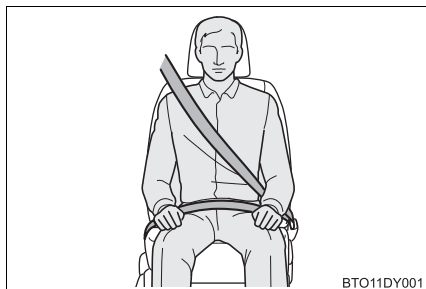
シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

◆ 3 点式シートベルト

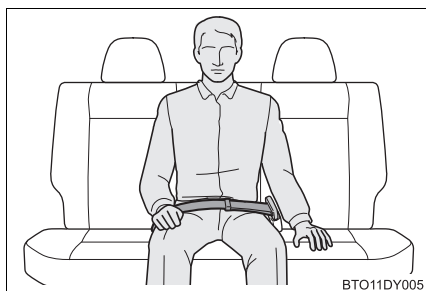
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



BTO11DY001

◆ 2 点式シートベルト

- ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させ、ベルトの長さを調整する
- 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

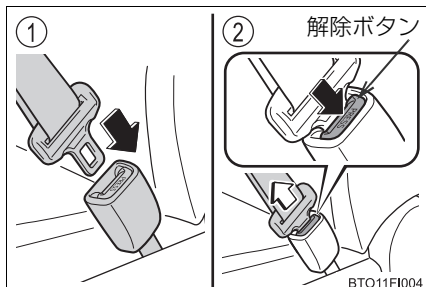


BTO11DY005

着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

はずした 2 点式シートベルトを使用しないときは、プレートバックルにはめておいてください。



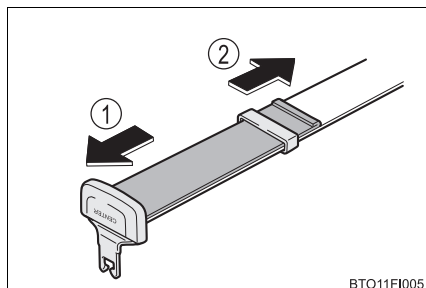
BTO11FI004

シートベルトの長さ調整 (2 点式シートベルト)

① 伸ばす

② 縮める

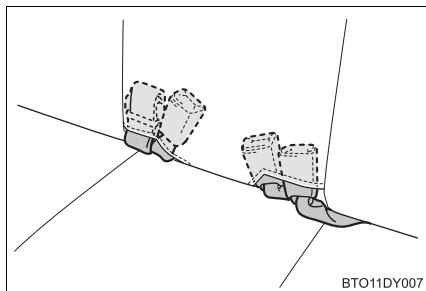
着用時は、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着するようにベルトの長さを調整してください。



BTO11FI005

格納のしかた (リヤ席)

シートベルトを使用しないときは、ポケットに格納しておくことができます。

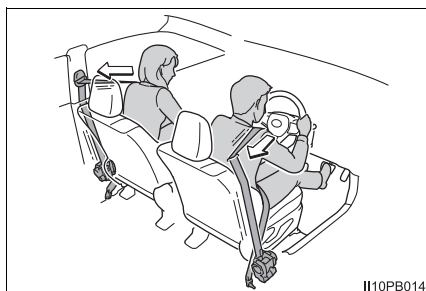


BTO11DY007

シートベルトプリテンショナー (フロント席)

前方から強い衝撃を受けたとき、フロント席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を保ちます。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



II10PB014

 知識**■ シートベルトロックの解除方法（3 点式シートベルト）**

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→ P. 43）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 30）

■ シートベルトプリテンショナーについて（フロント席）

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

！ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

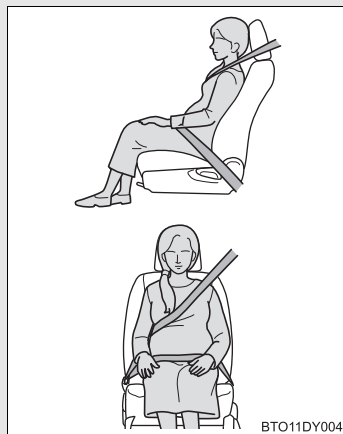
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤシートベルトを格納ポケットの中に押し込んだ状態で使用しない

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 30)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



BTO11DY004

 警告**■ 疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 30)

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

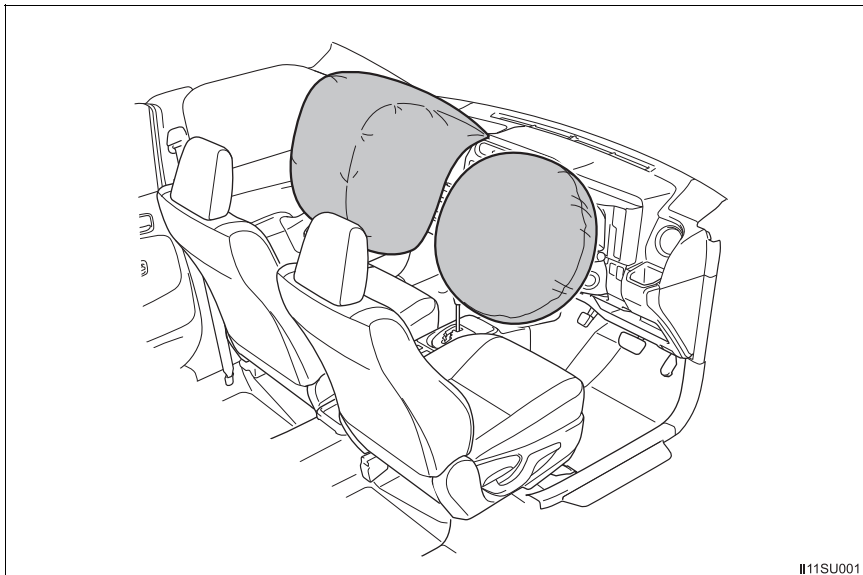
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロントSRSエアバッグ(運転席SRS エアバッグ／助手席SRS エアバッグ)

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

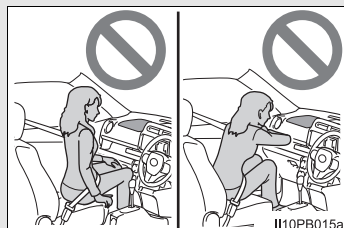
警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 43)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

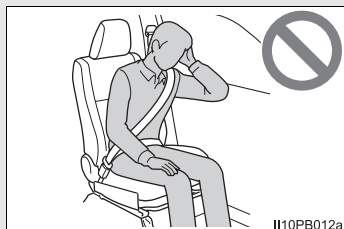


- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



警告**■SRS エアバッグについて**

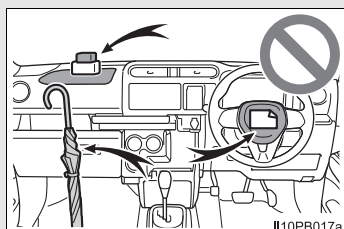
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

 警告**■改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●次の部品周辺の修理・取りはずし・改造

- ・ ハンドル
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

●次の部品やその周辺の修理・改造

- ・ フロントフェンダー
- ・ フロントバンパー

●次の部品、または装置の取り付け

- ・ グリルガード
- ・ 除雪装置
- ・ ウインチ

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識

■ SRS エアバッグが作動すると

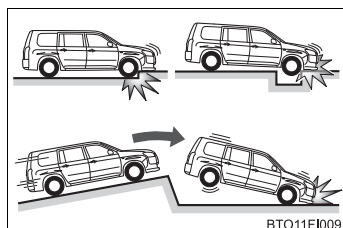
- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグ近辺の部品の一部などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→ P. 65）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→ P. 260）
- 室内灯が自動で点灯します。（→ P. 283）
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→ P. 351）

■ 正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみが作動する場合があります。

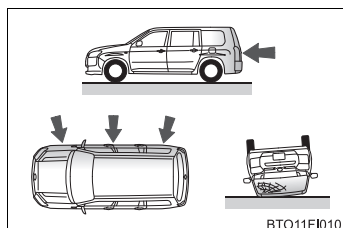
■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

フロント SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。



■SRS エアバッグが作動しないとき

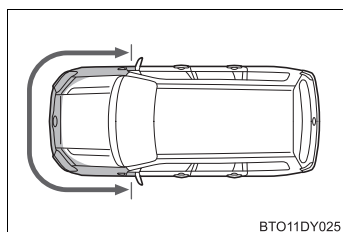
- フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。



■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 43)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター (→ P. 99) ・ウィンドウロックスイッチ (→ P. 122) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→ P. 43)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

目次

知っておいていただきたいこと	43
チャイルドシートを使用するときは	45
シート位置別チャイルドシートの適合性について	48
チャイルドシートの取り付け方法	56
・シートベルトで固定する	56

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 48)

 警告**■ お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。（→ P. 48）本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

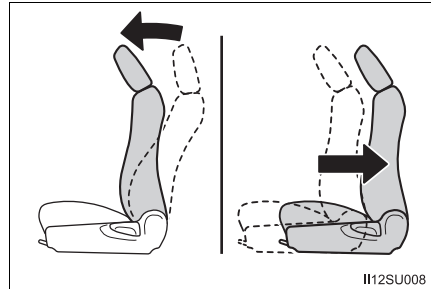
■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



● シートをいちばんうしろにさげる

● シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整する

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



II10PB001

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

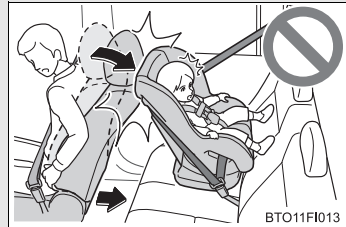
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



BTO11F1014

！ 警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 50）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

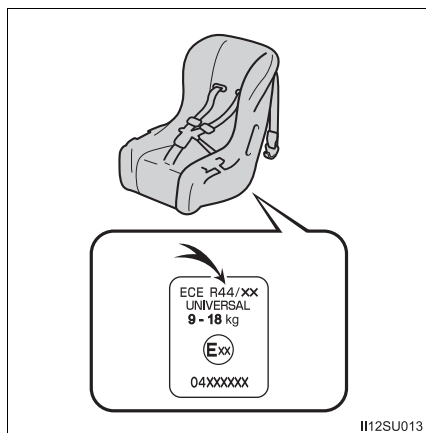
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

UN(ECE) R44 認可マーク※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



II12SU013

※¹ UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

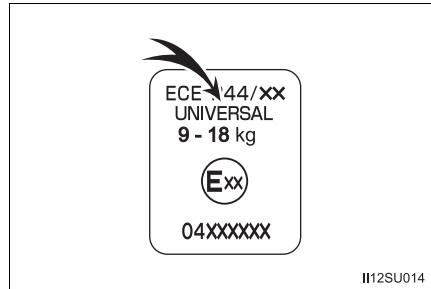
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

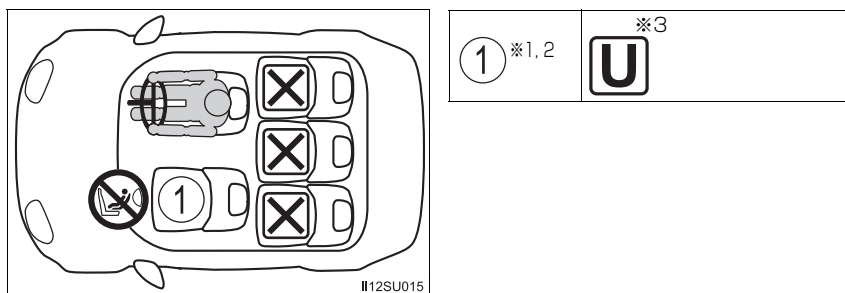
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（I 準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性

▶ クッション固定式リヤシート装着車



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



チャイルドシートの取り付けに適していません。

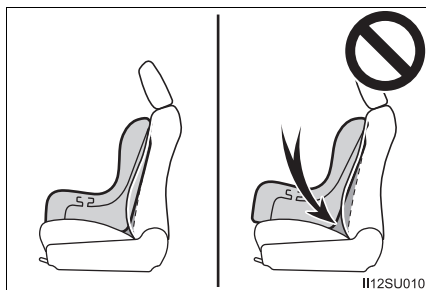


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※¹ シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

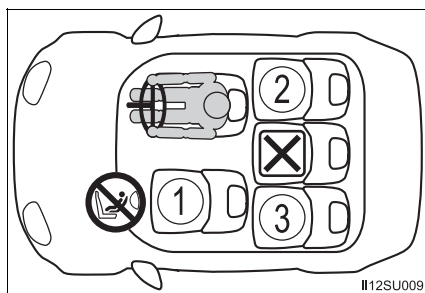
※² 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※³ チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

▶ クッション引き起こし式リヤシート装着車



① ※1, 2, 3	※4 U
② ※3	U
③ ※3	U



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



チャイルドシートの取り付けに適していません。

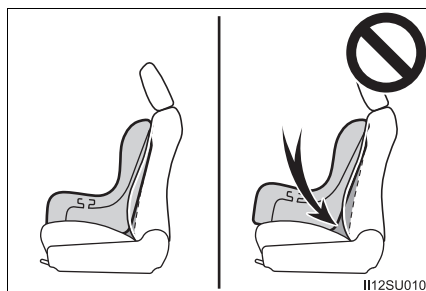


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

▶ クッション固定式リヤシート装着車

着座位置	
シート位置の番号	①
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

▶ クッション引き起こし式リヤシート装着車

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 56

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

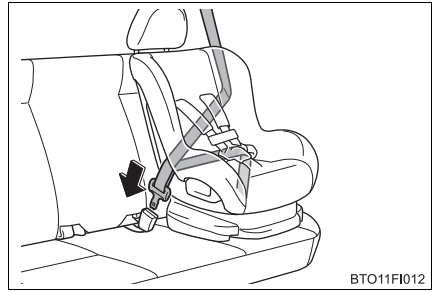
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 49、50）

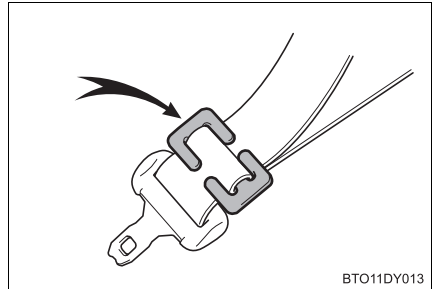
- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 45）
- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 112）

- 3 チアイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートを保ックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チアイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチアイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 4 チアイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



- 5 取り付け後はチアイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 58）

■ チアイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチアイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チアイルドシートが跳ね上がることがあります。

チアイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

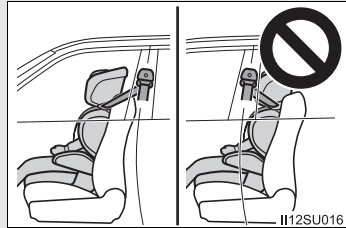
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
- リアシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

！ 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

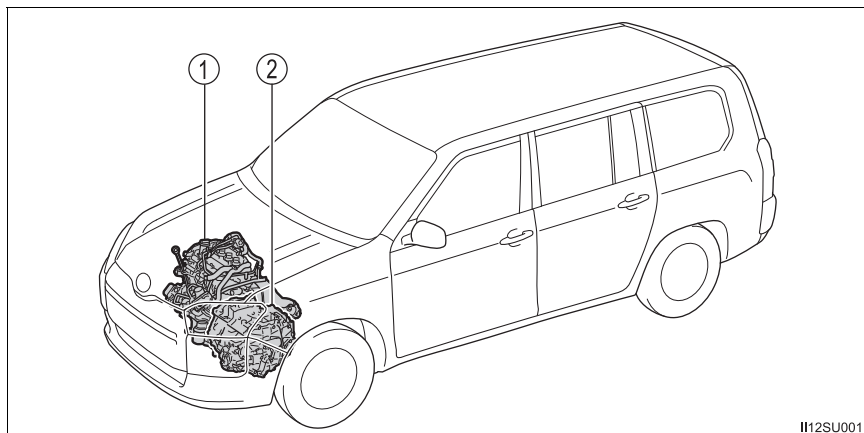
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 62）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

□ 知識

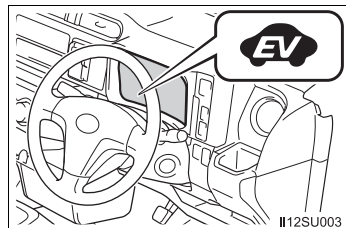
■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているとき、EV インジケーターが点灯します。



■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。

ただし、次のいずれかの状態では自動停止しないことがあり、燃費が低下する場合があります。＊

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき
- 急加速・急減速をくり返したとき
- 長時間のハイブリッドシステム作動をくり返したとき
- 長い下り坂を走行したとき
- 駆動用電池冷却用吸入口の吸入口カバーにほこりがつまっているとき
・ メンテナンス・点検警告灯が点灯したとき：→ P. 329

■ 駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→ P. 393

■ 補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。

自動停止しない状態が 2～3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえるリヤシート下部および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時にリヤシート下部から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート下部（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

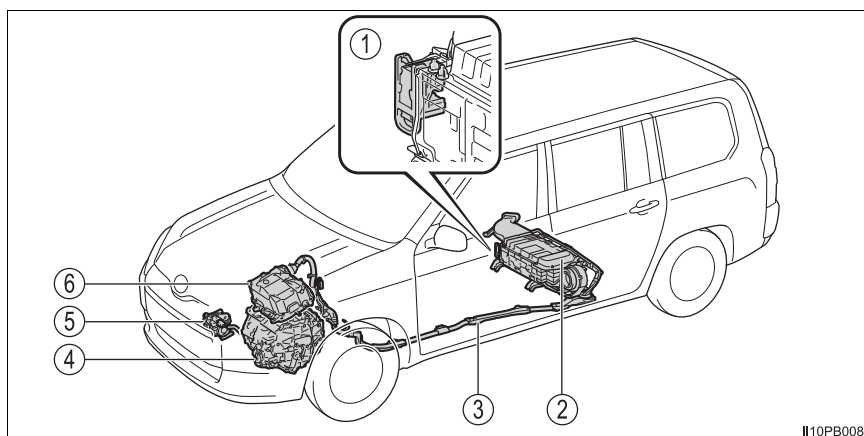
また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約520V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため ⚠ 表示を含んだラベルが貼付されています。



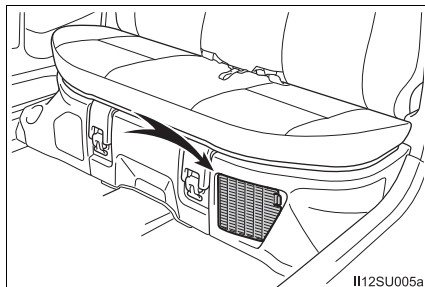
イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|------------------|-----------------|
| ① サービスプラグ | ④ 電気モーター |
| ② 駆動用電池 | ⑤ エアコンコンプレッサー |
| ③ 高電圧ケーブル（オレンジ色） | ⑥ パワーコントロールユニット |

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート下部（左側）には駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

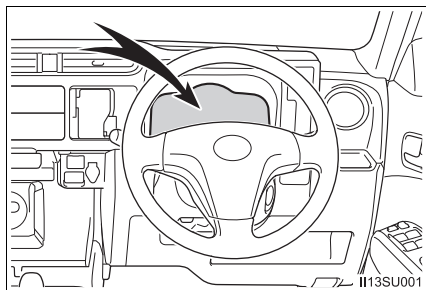
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動的に警告灯が点灯します。

警告灯はメーター内に点灯されます。

表示された警告灯の対処方法に従ってください。(→ P. 365)



知識

■警告灯が点灯したとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯(→P. 368)が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。(給油量の目安は車両水平状態で約 7.4L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください)

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部(遠距離通信)において、受信時に雑音が入る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

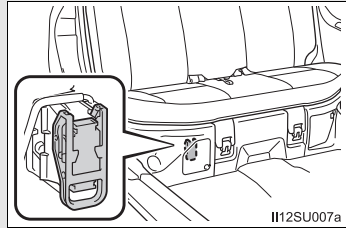
この車両は、ECE100(バッテリー電気車両安全)に基づいた水素排出量に適合しています。

！ 警告

■ 高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 358）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険です。始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

 警告**■ 駆動用電池について**

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
 - ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 駆動用電池について**

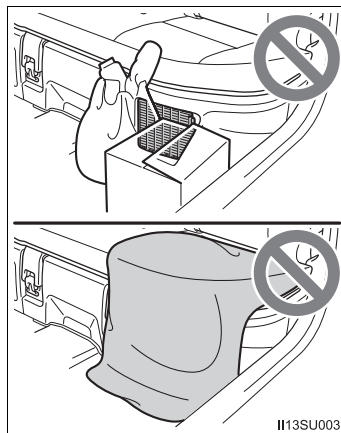
駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

■ 駆動用電池冷却用の吸入口について

- シートカバーや荷物などで吸入口をふさがないでください。

駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



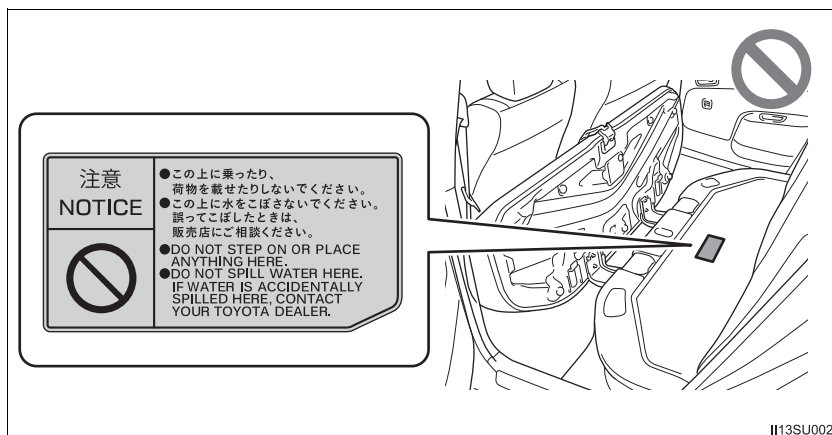
II13SU003

- 吸入口が目づまりしないよう、定期的に清掃してください。(→ P. 328)
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

■ リヤシート下のラベルについて (クッション引き起こし式シート)

リヤシート下に駆動用電池が搭載されています。

ラベルが貼ってある面に足を乗せたり、荷物を置くなどして荷重をかけたり、水をこぼしたりしないでください。駆動用電池の過熱または故障の原因につながるおそれがあります。



II13SU002

イモビライザーシステム

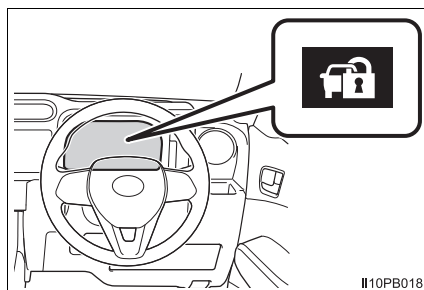
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

キーをパワースイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーをパワースイッチに挿し込むとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

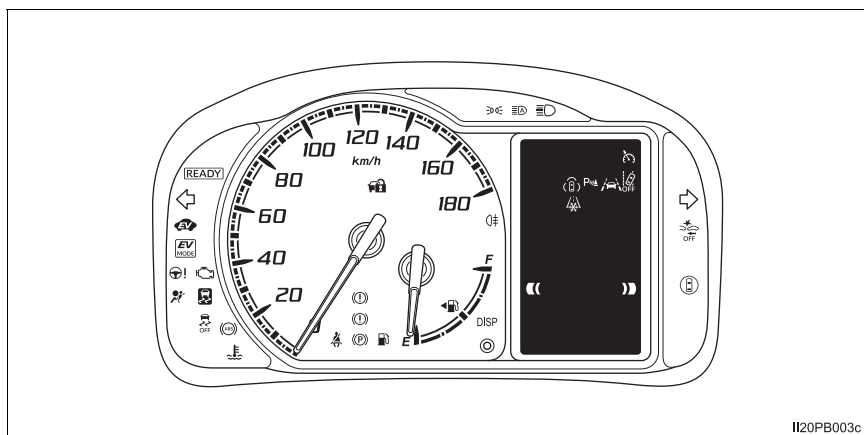
2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	72
計器類	77
マルチインフォメーション ディスプレイ	81

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



II20PB003c

警告灯

システム異常などを警告します。

※1



ブレーキ警告灯
(→ P. 365)

(赤色)

※2



充電警告灯 (→ P. 365)

※2



油圧警告灯 (→ P. 365)

※1



エンジン警告灯
(→ P. 365)

※1



SRSエアバッグ／
プリテンショナー警告灯
(→ P. 365)

※1



電子制御ブレーキ警告灯
(→ P. 368)

(黄色)

※1



スリップ表示灯
(→ P. 366)



フロント席シートベルト
非着用警告灯 (→ P. 368)



燃料残量警告灯
(→ P. 368)

※1



ABS & ブレーキアシスト
警告灯 (→ P. 366)

※1  (赤色／黄色)	パワーステアリング警告灯 (→ P. 366)	 (黄色)	レーダークルーズ コントロール表示灯 (→ P. 367)
 (赤色)	高水温警告灯 (→ P. 365)	 (黄色)	LTA 表示灯 (→ P. 366)
 (黄色)	PDA 表示灯 (→ P. 366)		ハイブリッドシステム 過熱警告灯 (→ P. 368)
※1 	クリアランスソナー OFF 表示灯 (→ P. 367)	※2 	ペダル誤操作警告灯 (→ P. 367)
 (黄色)	クルーズコントロール 表示灯 (→ P. 367)	※1 	PCS 警告灯 (→ P. 366)
 (黄色)	AHB 表示灯 (→ P. 366)	 (黄色)	LDA 表示灯 (→ P. 366)
	駆動用電池残量低下警告灯 (→ P. 368)	※1 	運転支援情報表示灯 (→ P. 367)

※1 作動確認のためにパワースイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 148)



ハイビーム表示灯
(→ P. 151)



尾灯表示灯 (→ P. 150)



パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 149)



(緑色／
黄色
[点滅])

LDA 表示灯 (→ P. 202)



(緑色／
白色／
黄色
[点滅])

LTA 表示灯 (→ P. 196)



(黄色)

LDA OFF 表示灯
(→ P. 202)



クリアランスソナー検知
表示灯★ (→ P. 232)



VSC OFF 表示灯
(→ P. 262)



クリアランスソナー OFF
表示灯 (→ P. 233)



EV ドライブモード表示灯
(→ P. 142)



PCS 警告灯 (→ P. 178)



EV インジケーター
(→ P. 61)



(緑色) AHB 表示灯 (→ P. 154)



READY インジケーター
(→ P. 138)



スリップ表示灯
(→ P. 261)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



運転支援情報表示灯
(→ P. 243)



制動灯表示灯
(→ P. 76)



PDA 表示灯 (→ P. 208)



クルーズコントロール
表示灯 (→ P. 228)



低温表示灯 (→ P. 77)



ECO MODE 表示灯
(→ P. 145)



セキュリティ表示灯
(→ P. 70)



レーダークルーズ
コントロール表示灯
(→ P. 219)



リヤフォグランプ表示灯★
(→ P. 158)

※1 作動確認のためにパワースイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

※3 システムが OFF のときに点灯します。

※4 システム作動時に点滅します。

※5 外気温が約 3℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ クリアランスソナー OFF 表示灯について

クリアランスソナー検知表示灯がある車両（→ P. 232）は、クリアランスソナー機能の ON / OFF の状態に関わらずシフトレバーを R にすると消灯します。

■ 制動灯表示灯について

ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

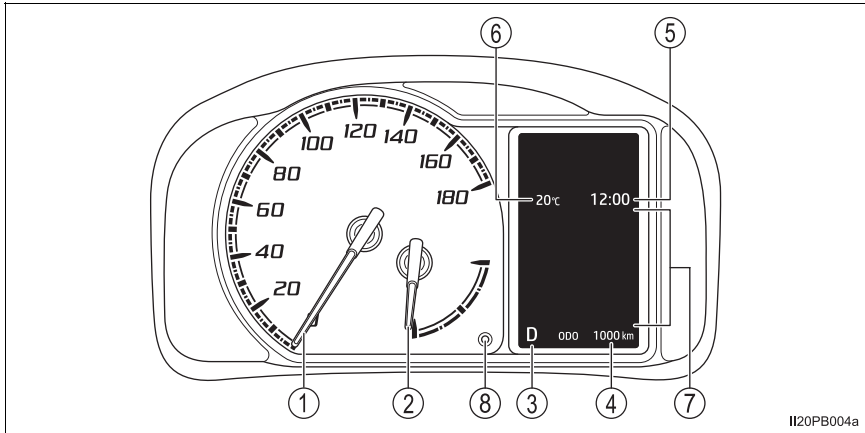
ABSやSRSエアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを“ON”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 注意

■ ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 365）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 397）

計器類



① スピードメーター

車両の走行速度を示します。

② 燃料計

燃料残量を示します。

③ シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 144)

④ オドメーター／トリップメーターディスプレイ

オドメーター：

走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：

リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けことができます。

メーター照度：

メーター照度を表示します。

⑤ 時計

→ P. 78

⑥ 外気温表示

外気温度を -40°C ～ 60°C の間で表示します。

⑦ マルチインフォメーションディスプレイ

- ・ 走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 81)
- ・ システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。(→ P. 370)

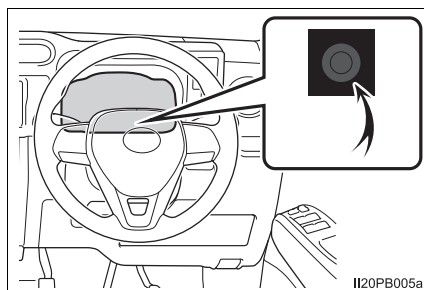
⑧ 表示切りかえボタン

→ P. 78

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。

- ・ トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。
- ・ メーター照度表示中に押し続けると、メーター照度を調整できます。



II20PB005a

時計の調整

マルチインフォメーションディスプレイの  から、時計の設定を変更できます。

■ 分を 00 にする

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して “時計:00” を選択する

メーター操作スイッチの OK スイッチを押すごとに分を 00 に合わせることができます。

- 0 ～ 29 分は切り下げられます。
(例えば、1 : 00 ～ 1 : 29 は 1 : 00 になります。)
- 30 ～ 59 分は切り上げられます。
(例えば、1 : 30 ～ 1 : 59 は 2 : 00 になります。)

■ 詳細設定

- 1 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して “時計:00” を選択する
- 3 メーター操作スイッチの OK スイッチを長押しする
- 4 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して変更したい項目を選択する
- 5 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して表示内容を変更する
次の内容を変更することができます。
 - 12 時間表示 / 24 時間表示
 - 時
 - 分

知識

■ メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが “ON” のとき

■ メーター照度の切りかえについて

車幅灯が点灯・消灯すると、メーターの明るさが切りかわります。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれのメーターの明るさを調整できます。

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

トリップメーターがリセットされます。

■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料補給量が少量（約 5L 以下）の場合、表示が更新されないことがあります。燃料補給の際はパワースイッチを“LOCK”にしてください。万一、パワースイッチを“LOCK”にせず燃料補給した場合、表示が更新されないことがあります。

注意

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

マルチインフォメーションディスプレイ

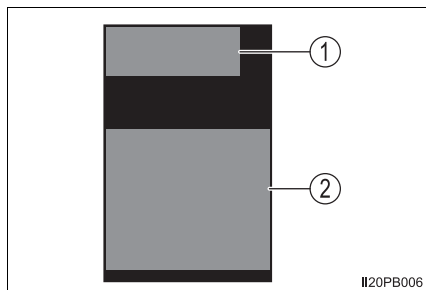
ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

① 走行支援システム表示エリア

運転支援機能情報表示以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- ・ LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 191）
- ・ LDA（レーンディパーチャーアラート）（→ P. 197）
- ・ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→ P. 203）
- ・ RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 212）



② コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの〈または〉を押すとメニューアイコンが表示されます。



走行情報表示

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 82）



運転支援機能情報表示

運転支援システムの作動状況を表示します。（→ P. 86）



車両情報表示

エネルギーモニターや燃費の情報などを表示します。



設定

メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。（→ P. 88）



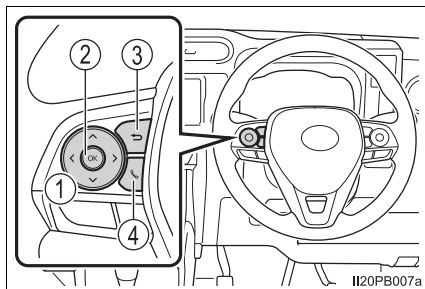
警告メッセージ表示

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。
(→ P. 370)

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① **</>**: メニューの切り替え・ページ送り・カーソル移動
▲/▼: 表示項目の切り替え・ページ送り・カーソル移動
- ② 短押し: 決定
 長押し: リセット／詳細項目表示
- ③ ひとつ前の画面に戻る
- ④ 電話の発着信・履歴表示



ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。
 詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

走行状態表示

■ 表示項目

- 車速表示／航続可能距離
- 燃費グラフ
- ハイブリッドシステムインジケーター／エコアクセルガイド／エコジャッジ

■ 車速表示／航続可能距離

- 車速表示
- 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。表示される数値は参考として利用してください。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。

① リセット間平均燃費

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

② 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

③ 平均燃費

燃料残量による走行可能な距離を表示します。表示される数値は参考として利用してください。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

メニューアイコンの  から「燃費グラフ」で選択した燃費が表示されます。表示できる項目は次のとおりです。

● 始動後平均燃費

ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示します。

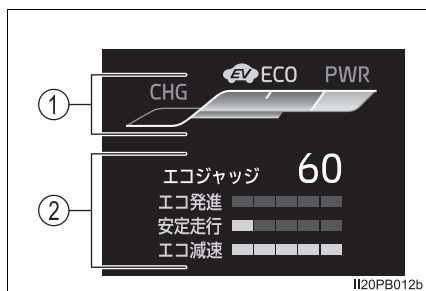
● 給油後平均燃費

給油後の平均燃費を表示します。



■ ハイブリッドシステムインジケーター／エコアクセルガイド／エコジャッジ

- ① ハイブリッドシステムインジケーター／エコアクセルガイド
- ② エコジャッジ



● ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。

① チャージエリア

回生 ※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

② ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア

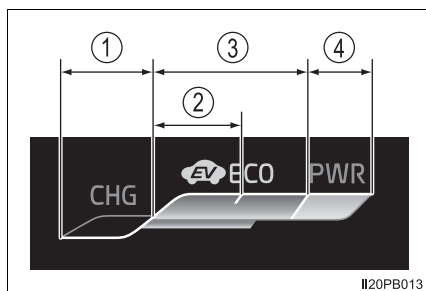
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

④ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転（環境に配慮した走行）の範囲を超えている状態を示します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。



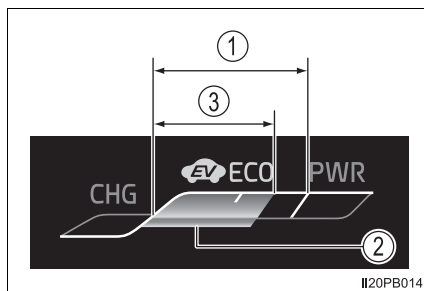
● エコアクセルガイド

① エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

② アクセルペダル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリア内に白色のバーで表示されます。



この表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

③ 現状のアクセルペダル操作

エコエリア内では緑色でゾーン表示されます。

アクセルペダル操作を示す表示が、白色のバー表示をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。

● エコジャッジ

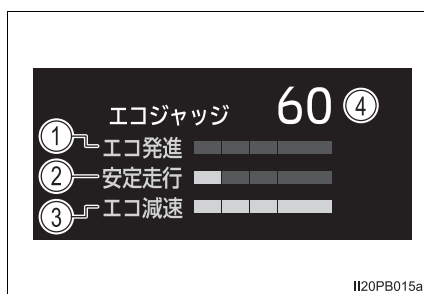
なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。

① エコ発進の状況

② 安定走行の状況

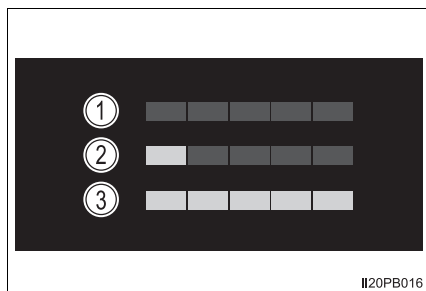
③ エコ停車の状況

④ 採点結果



● 表示の見方

- ① 未評価
- ② 低い
- ③ 高い



- ・ 発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。
- ・ エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

運転支援機能情報表示

■ 運転支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 191）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→ P. 197）
- レーダークルーズコントロール（→ P. 216）
- クルーズコントロール（→ P. 227）
- RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 212）

車両情報表示

■ 表示項目

- ドライブインフォメーション
- エネルギーモニター

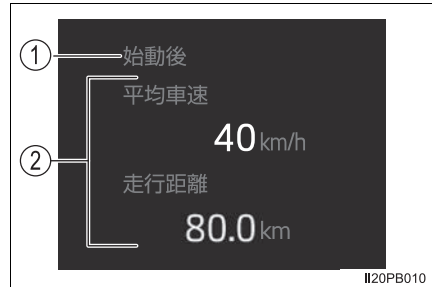
■ ドライブインフォメーション

「ドライブインフォ項目選択」の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に2つ、表示させることができます。

各情報の内容は、「ドライブインフォタイプ」の設定（始動後・リセット間）との組み合わせによって変化します。（→ P. 409）

表示される情報は、参考としてご利用ください。

- ① ドライブインフォタイプ
- ② ドライブインフォ項目



● 始動後 ※

- ・ 平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示
- ・ 走行距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示
- ・ 走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

● リセット間 ※

- ・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示
- ・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示
- ・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示

※ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの OK を長押しします。

■ エネルギーモニター

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

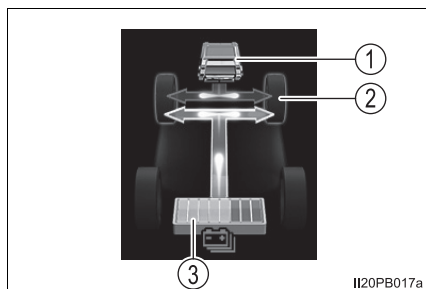
エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

橙：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき



II20PB017a

① エンジン

② フロントタイヤ

③ 駆動用電池

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

設定

■ 設定変更のしかた

- ① メーター操作スイッチの ◀ または ▶ で  を選択する。
- ② メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して、設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動する。

機能の ON / OFF やブザー音量などを設定する項目では、OK を押すたびに機能の ON / OFF、または調整値が切りかわります。

機能の作動内容を変更できる項目では、OK を押し続けることで、設定画面を表示できます。設定画面が表示されたら、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定します。

- ③ 設定が完了したら、メーター操作スイッチの ↩ を押す

■ 設定を変更できる機能（メーター表示）

- 言語
表示される言語を選択することができます。
- 単位
燃費単位を選択することができます。
- EV インジケーター
EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。
-  デジタル車速
デジタル車速表示の作動・非作動を切りかえることができます。
 - ・ ハイブリッドシステムインジケーター
エコアクセルガイドの表示・非表示を選択することができます。
(→ P. 409)
 - ・ 燃費グラフ
平均燃費の表示を始動後／リセット間／給油後から選択することができます。(→ P. 409)
-  表示コンテンツ
エネルギーモニターの表示・非表示を選択することができます。
 - ・ ドライブインフォタイプ
始動後／リセット後から選択することができます。
 - ・ ドライブインフォ項目
1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。
- 今回の走行
今回の走行結果をドライブインフォ／エコジャッジから選択することができます。(→ P. 409)
- マルチインフォメーションディスプレイの消灯
マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。
再度表示させるにはいずれかのメーター操作スイッチを押してください。
- 初期化
メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→ P. 409

■ クリアランスソナー（→ P. 233）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

クリアランスソナーの作動／非作動を変更することができます。

クリアランスソナー検知表示灯がある車両（→ P. 232）は、シフトレバーが R のときは、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切りかえることができません。

● 音量

クリアランスソナーの作動時のブザー音量を変更することができます。



知識

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

■ ハイブリッドシステムインジケータの作動条件

次のときにハイブリッドシステムインジケータが表示されます。

- READY インジケータが点灯しているとき
- シフトレバーが D または B のとき

■ エコアクセルガイド／エコジャッジについて

- 走行条件や環境によって評価点は変化します。そのため、燃費とリンクしない場合があります。
- ハイブリッドシステムインジケータが作動していないときは、エコアクセルガイド／エコジャッジは作動しません。

■ 今回の走行結果表示について

ハイブリッドシステムを停止すると、ハイブリッドシステムを始動したときからの走行データを一覧で表示します。ドアをロックすると画面は消えます。

走行結果が表示されているあいだに、いずれかのドアを開けても、開いているドアの表示は行われません。

■液晶ディスプレイについて

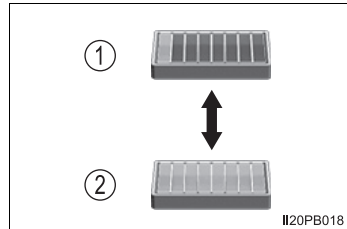
→ P. 80

■駆動用電池の残量表示について

駆動用電池の残量に応じて、表示が 8 段階に変化します。

- 表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

- ① 少ない
- ② 多い



⚠ 警告

■エコジャッジについて

エコジャッジは目安として利用してください。必ず交通状況に合わせ、周囲の安全に注意して運転してください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

- 安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、走行中は画面を見続けしないでください。
- ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあります。

 注意**■ 低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

各部の操作**3**

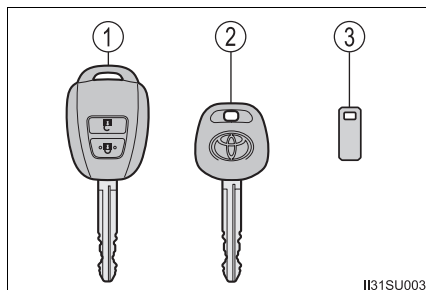
3-1. キー	
キー	94
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア (フロントドア・リヤドア)	97
バックドア	101
3-3. シートの調整	
フロントシート	105
リヤシート	106
ヘッドレスト	112
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	114
インナーミラー	116
ドアミラー	118
アンテナ	120
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	121

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。

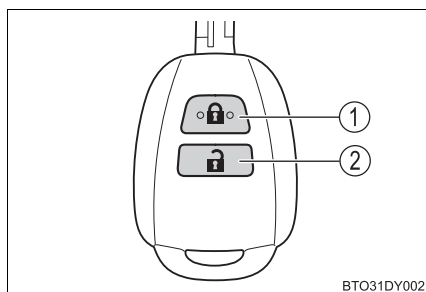
- ① ワイヤレスリモコン付き
マスターキー
- ② スペアキー
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。

- ① ドアの施錠 (→ P. 97)
- ② ドアの解錠 (→ P. 97)



 知識

■ 航空機に乗るときは

航空機にワイヤレスキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。
次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ ワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった

■ 電池の交換方法

→ P. 331

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■ キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

 注意**■キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■キー取り扱いの注意

ワイヤレスキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

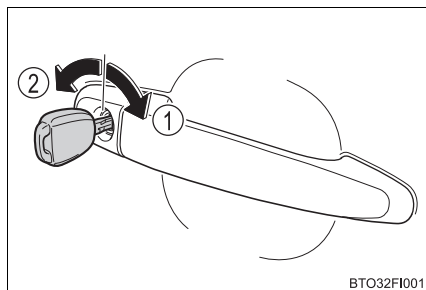
- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。
- 認証ラベルをはがさないでください。認証ラベルのないものの使用は禁止されています。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外からの施錠・解錠

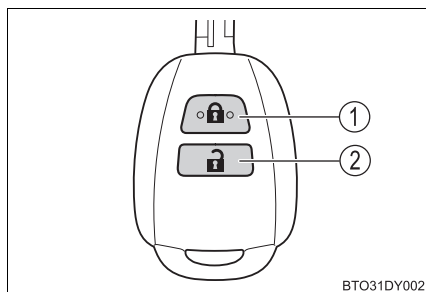
◆ キー

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ワイヤレスリモコン

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する



知識

■ 作動の合図

ワイヤレスリモコンでのドアの施錠・解錠を非常点滅灯の点滅で知らせます。
(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ ワイヤレスリモコンの作動条件

- 周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約 1m まで近付いて操作してください。
- パワースイッチにキーが挿し込まれている場合は、ワイヤレスリモコンが作動しません。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

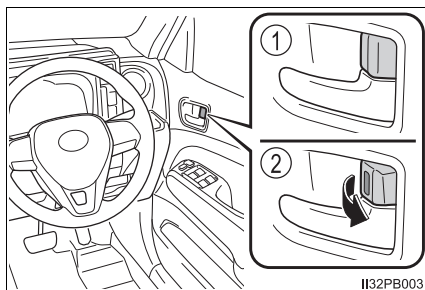
ワイヤレスリモコンでの解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

車内からの施錠・解錠

◆ ロックレバー

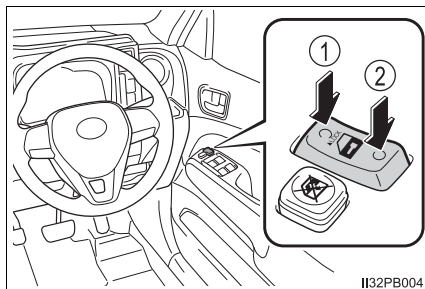
- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。



◆ ドアロックスイッチ

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

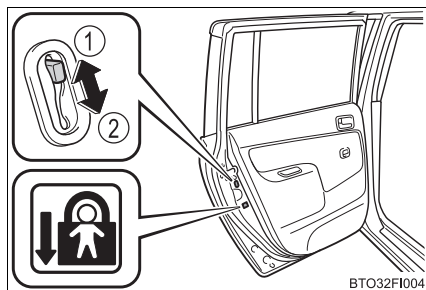
キーがパワースイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

チャイルドプロテクター

施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、リヤドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■マルチインフォメーションディスプレイにドアが開いているメッセージが表示されたときは

いずれかのドアが確実に閉まっていません。各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。全ドアを確実に閉めてください。

■ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

● 次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- ・ ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき
- ・ 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
- ・ 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ・ ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ・ 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ・ ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき
- ・ リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■リヤシートリマインダー機能

- リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを“LOCK”にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
 - ・リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した
 - ・ハイブリッドシステムが始動している状態でリヤドアを開閉したただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。
- リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。
- リヤシートリマインダー機能作動時に施錠すると、施錠の合図（→ P. 98）に加えて、非常点滅灯が 3 回点滅し、ブザーが 9 回吹鳴します。
- リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。（→ P. 414）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

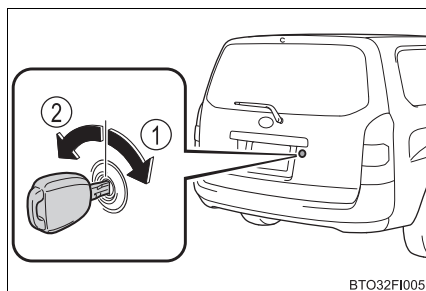
バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠、および開けることができます。

車外からの施錠・解錠

◆ キー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する



◆ ワイヤレスリモコン

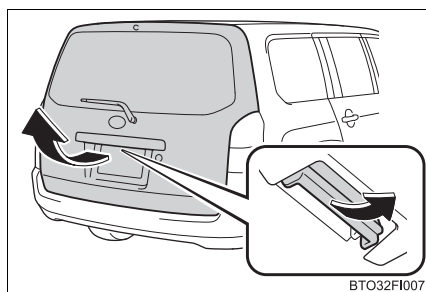
→ P. 97

車内からの施錠・解錠

→ P. 98

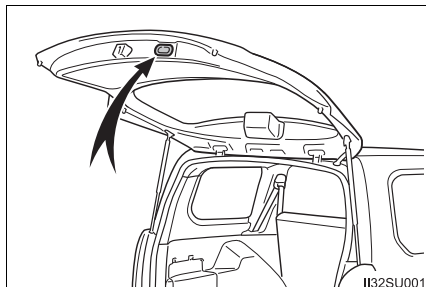
バックドアを開けるには

バックドアハンドルを引いて、バックドアを持ち上げる



バックドアを開めるときは

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

**警告****■走行中の警告**

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

！ 警告**■ バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

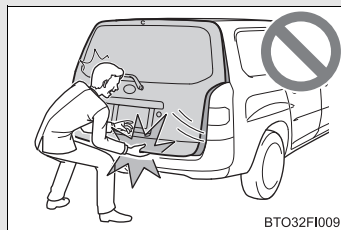
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

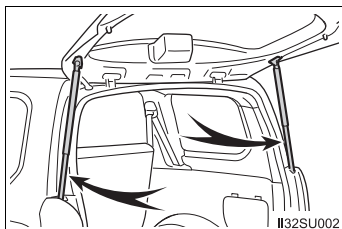


- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

⚠ 注意**■ ダンパーステアについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

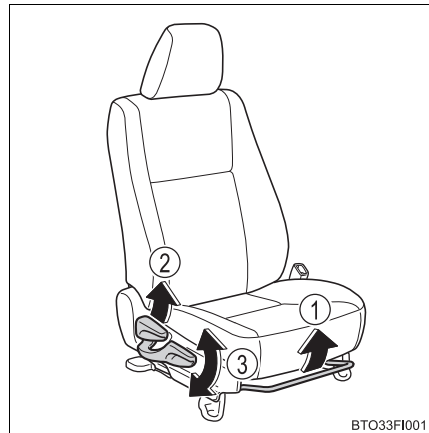
- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)



⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

■ リヤシートの背もたれを前に倒して使用するとき (クッション引き起こし式リヤシート装着車)

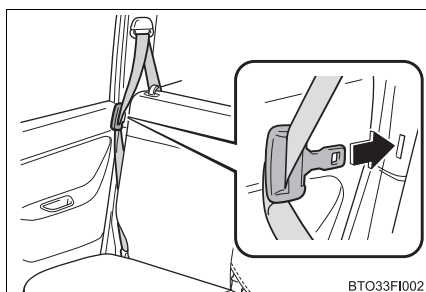
正しい運転姿勢がとれないなどでフロントシートをさらにうしろに下げたい場合は、リヤシートのクッションを取りはずしてください。(→ P. 108)

リヤシート

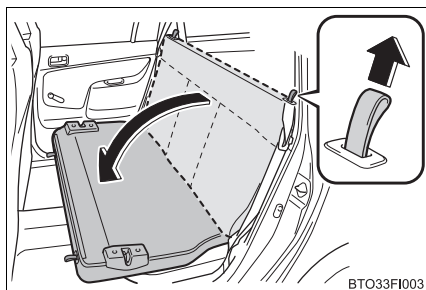
リヤシートは、背もたれを前に倒して折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す（クッション固定式シート）

- 1 フロントシートを前方に移動させる（→ P. 105）
リヤシートの背もたれを倒したときに、あたらないようにします。
- 2 左右席シートベルトのバックルと中央席シートベルトを格納する（→ P. 31）
- 3 左右席シートベルトのプレート
をベルトハンガーに格納する



- 4 シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒す

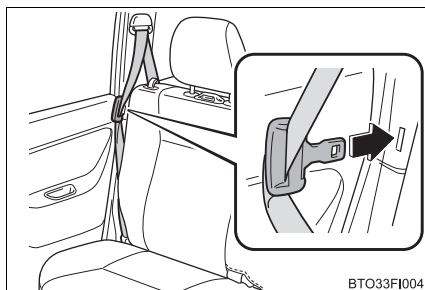


■ 背もたれをもどすときは

左右席シートベルトのプレートがベルトハンガーに格納されていることを確認してから、背もたれを起こしてロックしてください。

背もたれを前に倒す（クッション引き起こし式シート）

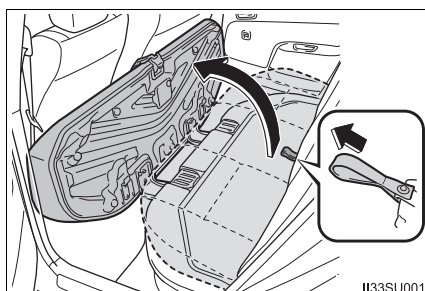
- 1 フロントシートを前方に移動させる（→ P. 105）
リヤシートのクッションを引き起こしたときに、あたらないようにします。
- 2 左右席シートベルトのバックルと中央席シートベルトを格納する（→ P. 31）
- 3 左右席シートベルトのプレート
をベルトハンガーに格納する



- 4 ヘッドレストをはずす（→ P. 112）

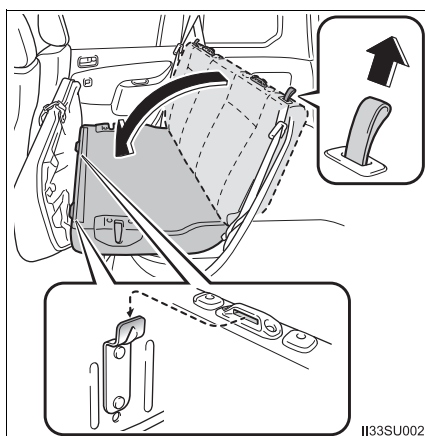
- 5 ストラップを持ったままクッションを引き起こす

クッションに手をかけず、ストラップを引いてクッションを引き起こしてください。



- 6 シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒す

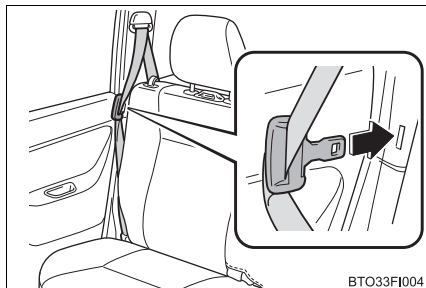
背もたれのホルダーがクッションのフックに固定されていることを確認してください。



■ クッションを取りはずすときは

必要に応じてクッションを取りはずすことができます。

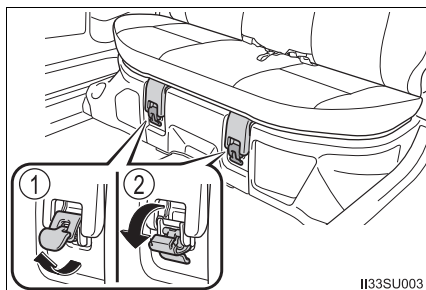
- 1 フロントシートを前方に移動させる (→ P. 105)
リヤシートのクッションを引き起こしたときに、あたらないようにします。
- 2 左右席シートベルトのバックルと中央席シートベルトを格納する (→ P. 31)
- 3 左右席シートベルトのプレートをベルトハンガーに格納する



- 4 ヘッドレストをはずす (→ P. 112)

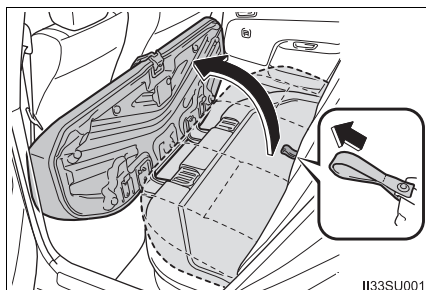
- 5 クッションヒンジ部のロックをはずす

- ① レバーを引き上げる
- ② フックをはずす

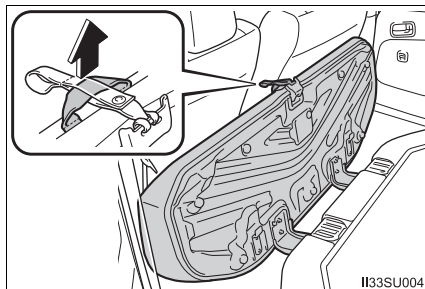


- 6 ストラップを持ったままクッションを引き起こす

クッションに手をかけず、ストラップを引いてクッションを引き起こしてください。

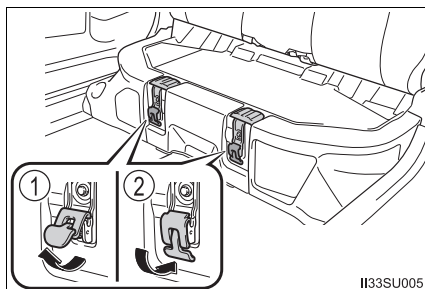


- 7 バンドを持ってクッションを引き上げ、取りはずす
ストラップではなく、バンドを持って引き上げてください。

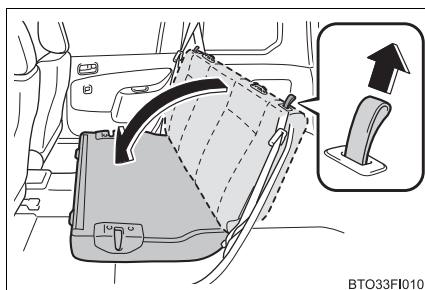


- 8 クッションヒンジ部をロックする

- ① フックをかける
- ② レバーを下げる



- 9 シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒す



■ 背もたれをもどすときは

左右席シートベルトのプレートがベルトハンガーに格納されていることを確認してから、背もたれを起こしてロックしてください。

■ 取りはずしたクッションを取り付けるときは

- 1 ヒンジ部のロックをはずす
- 2 クッションを取り付ける
- 3 ヒンジ部をロックする

 警告**■ 背もたれを倒すときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に操作をしない
- 安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 操作前に、周囲の安全を確認する
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

**■ クッションの引き起こし・取りはずしについて
(クッション引き起こし式シート)**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- クッションの引き起こしは、必ずストラップを持って行う
- クッションを取りはずした状態でリヤ席に乗車しない
- 取りはずしたクッションの上に座ったり、ものを置かない

■ シートをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後・上下に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートベルトを背もたれやクッションに挟み込まないようにする
- クッション引き起こし式シート：ヘッドレストをもとどおりに取り付ける

 注意**■ リヤシート下のラベルについて（クッション引き起こし式シート）**

→ P. 69

■ 背もたれを倒して荷物を積むときは（クッション引き起こし式シート）

必ずクッションを引き起こすか取りはずしてください。

クッションを引き起こさず、背もたれを倒すだけで荷物を積むと、シートが破損するおそれがあります。

■ 取りはずしたクッションを保管するときは（クッション引き起こし式シート）

再度取り付けて使用することができるように、なくしたり、破損させたりしないでください。

■ 車検の際は（クッション引き起こし式シート）

クッションを取り付けて検査を受ける必要があります。

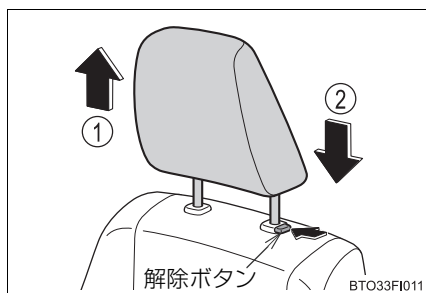
ヘッドレスト★

調整のしかた（フロントシート）

① 上げる

② 下げる

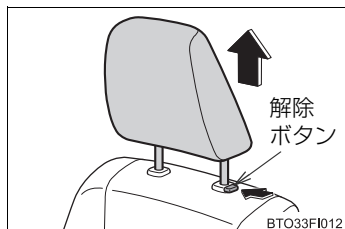
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。

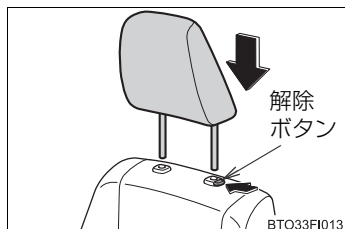


■ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、固定される位置まで押し下げます。

フロントシート：

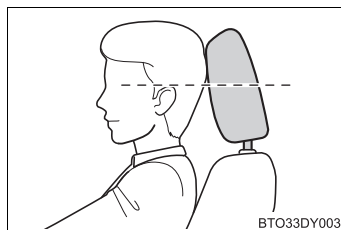
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

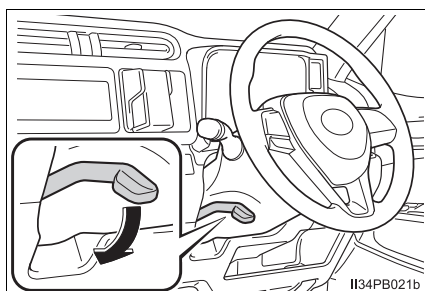
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

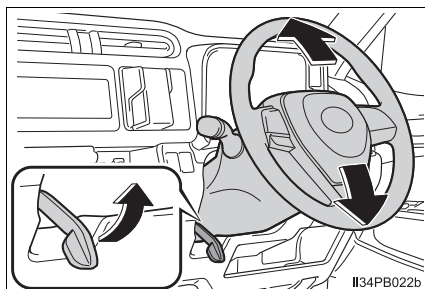
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



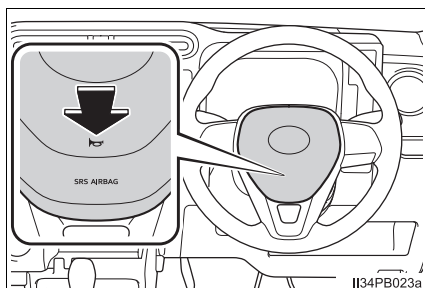
- 2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



 知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。

 警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

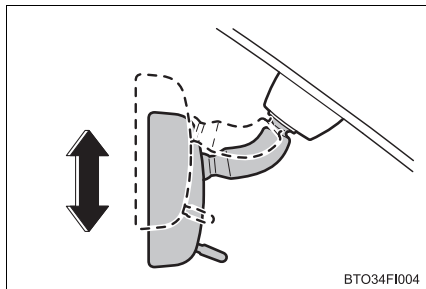
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

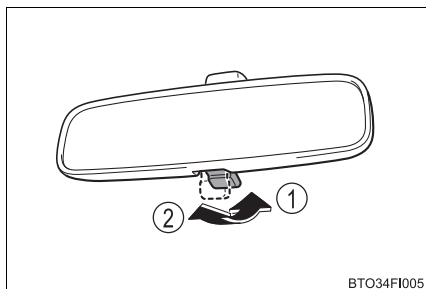


防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



▶ 自動防眩ミラー

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

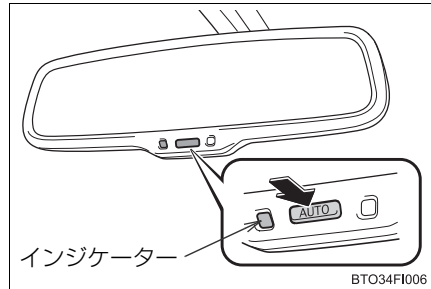
自動防眩機能の切り換え

ON / OFF

ON のときはインジケータが点灯します。

パワースイッチを“ON”にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能がONになっています。

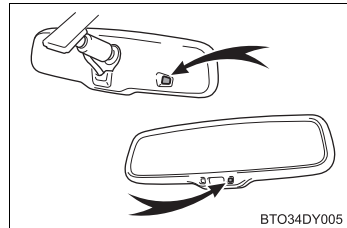
ボタンを押すと OFF になりインジケータが消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

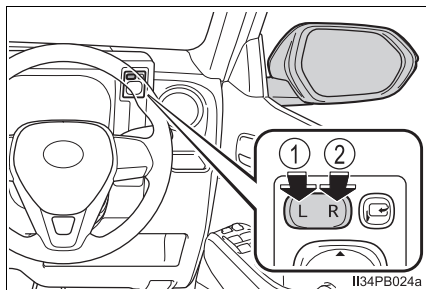
■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

調整のしかた

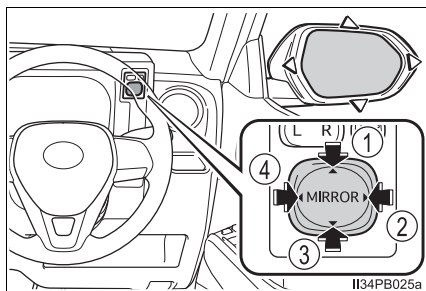
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

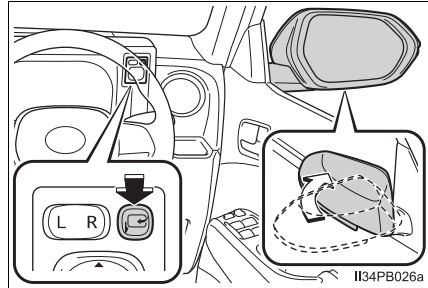
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ACC” または “ON” のとき

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 276）

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

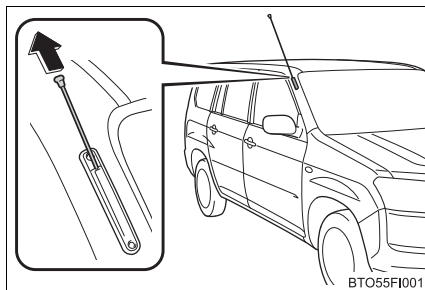
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

アンテナ

ラジオ使用時は、いっぱいまで引き出してください。



⚠ 注意

■ アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機で洗車するとき

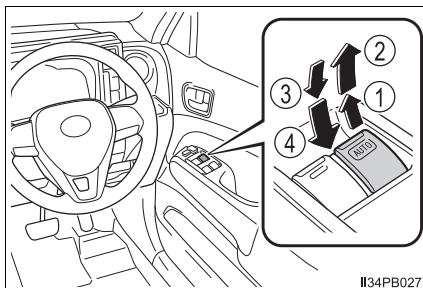
パワーウィンドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

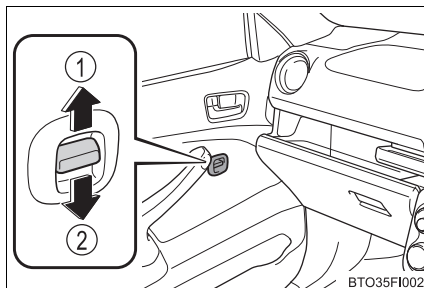
スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

▶ 運転席



- ① 閉める
- ② 自動全閉
(運転席ドアガラスのみ) ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開
(運転席ドアガラスのみ) ※

▶ 運転席を除く

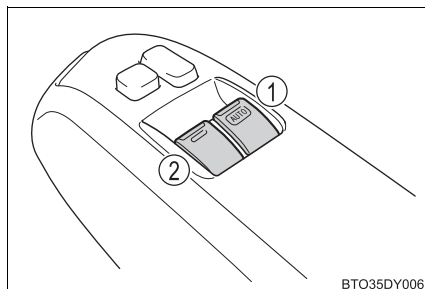


- ① 閉める
- ② 開ける

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

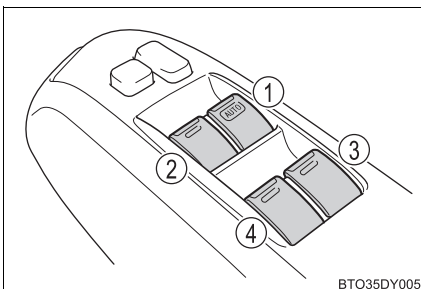
■ 運転席スイッチ

▶ 前席パワーウィンドウ装着車



- ① 運転席ドアガラススイッチ
- ② 助手席ドアガラススイッチ

▶ 前席+後席パワーウィンドウ装着車

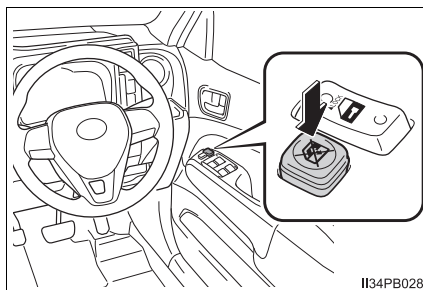


- ① 運転席ドアガラススイッチ
- ② 助手席ドアガラススイッチ
- ③ 後席右側ドアガラススイッチ
- ④ 後席左側ドアガラススイッチ

ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ 挟み込み防止機能（運転席ドアガラス）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

 警告

次のことを必ずお守りください。

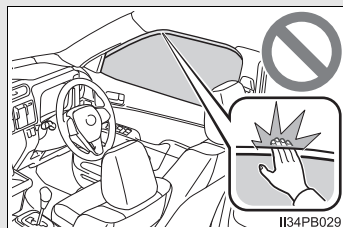
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するときは

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 122）

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはパワースイッチを“LOCK” にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席ドアガラス）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	126
荷物を積むときの注意	137

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	138
EV ドライブモード	142
トランスミッション	144
方向指示レバー	148
パーキングブレーキ	149

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	150
AHB（オートマチック ハイビーム）	154
リヤフォグランプスイッチ ..	158
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	160
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	163

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	165
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	169
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	178
LTA（レーントレーシング アシスト）	191
LDA（レーンディパーチャー アラート）	197
PDA（プロアクティブ ドライビングアシスト）	203
発進遅れ告知機能	210
RSA（ロードサイン アシスト）	212
レーダークルーズ コントロール	216
クルーズコントロール	227
クリアランスソナー	232
PKSB（パーキングサポート ブレーキ）	241
パーキングサポートブレーキ （前後方静止物）	247
バックモニター	250
運転を補助する装置	260

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	268
寒冷時の運転	270

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 138

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 144)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 149)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。(→ P. 144)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 149)、シフトレバーを P にする (→ P. 144)
- 3 パワースイッチを“LOCK”にしてハイブリッドシステムを停止する
- 4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

- ・ Rに切りかえたとき※
- ・ PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

 知識**■ 上り坂発進について**

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 260)

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を抑えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→ P. 268)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったるので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ ドライブスタートコントロールについて

- TRC の作動を停止 (→ P. 262) すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。(→ P. 262)
- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。(→ P. 409)
 - ・ パワースイッチを“ON”にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
 - ・ 後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

■ 運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 354を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 144)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやハイブリッドシステムの異常など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンプレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンプレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがP または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあります。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを開閉式ワイドフリーラックなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあります。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあります。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあります。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。

ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また、制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 注意**■運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 379を参照してください。

 注意**■冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良
- ハイブリッドシステムの異常

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席・リヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- リヤシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積みすぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

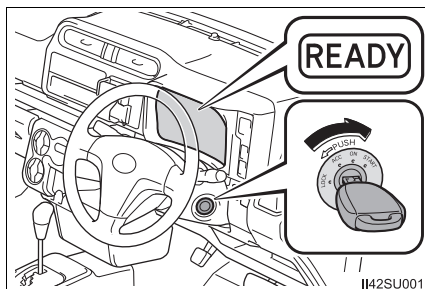
これらはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドルの操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

ハイブリッドシステムを始動するには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 4 パワースイッチを“START”の位置にまわす

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅または消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、エンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、エンジンは自動で始動・停止します）

パワースイッチの位置の切りかえ

① “LOCK” (OFF)

シフトレバーがPのとき、キーを抜き挿しできます

② “ACC”

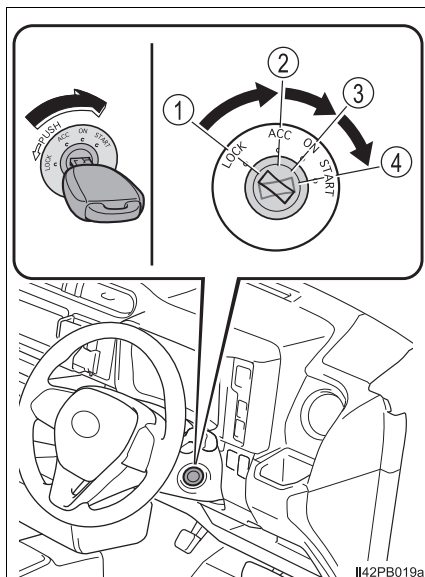
アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

③ “ON”

すべての電装品が使用できます。

④ “START”

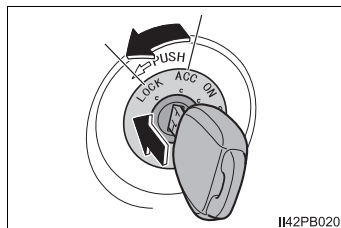
ハイブリッドシステムが始動できます。



 知識

■ キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



■ ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 63

■ 外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケータの点滅時間が長くなる場合があります。READYインジケータが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ 万一、READYインジケータが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケータが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 390

■ ハイブリッドシステムが始動しないときは

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 70) トヨタ販売店へご連絡ください。
- シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P以外の位置にするとハイブリッドシステムを始動することができない場合があります。

■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、パワースイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

 警告**■ハイブリッドシステムを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はパワースイッチを“LOCK”にしないでください。

緊急時、走行中にハイブリッドシステムを停止したい場合には“ACC”にしてください。ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→ P. 354)

 注意**■補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

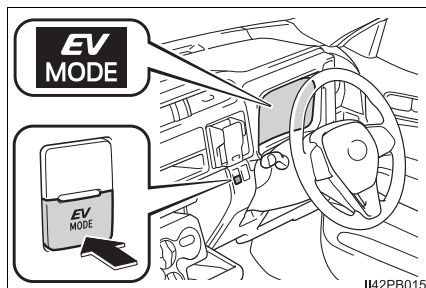
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードのON / OFFを切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■ EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴ります。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
マルチインフォメーションディスプレイに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 81）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

● 駆動用電池の充電量が低下したとき

マルチインフォメーションディスプレイに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 81）

● 車速が高いとき

● アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EV モードに現在切りかえできません」と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EV モードが解除されました」と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。

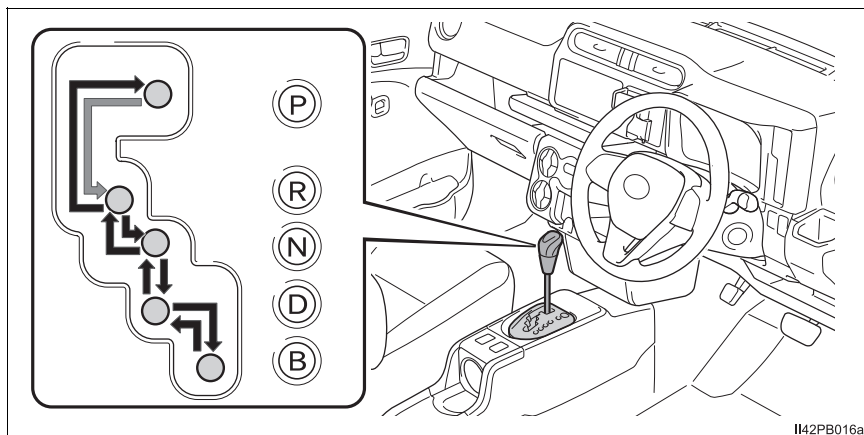
！ 警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置が作動していないときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



← パワースイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	坂道や急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

エコドライブモードの選択

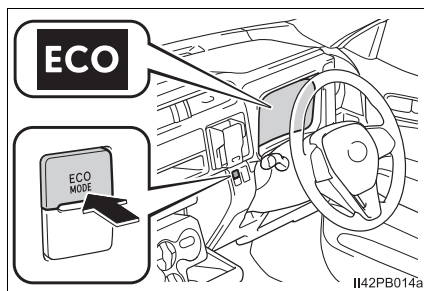
通常にくらべてアクセルペダルの踏みこみに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房・冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを押して、エコドライブモードの ON / OFF を切りかえる

スイッチを押すと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。

エコドライブモードが ON の状態は、パワースイッチを OFF にしても記憶されています。



知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 127

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチが“ON”でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

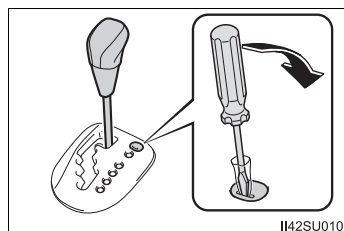
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

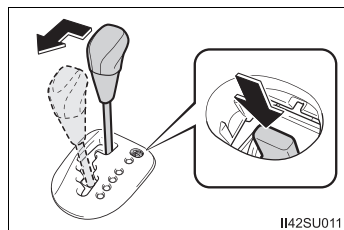
- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 パワースイッチを“LOCK”にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■ エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房・冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。(→ P. 278) 空調の効きをより良くしたいときは、設定温度や風量を調整するか、またはエコドライブモードを解除してください。

 警告**■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジnbr레이크力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

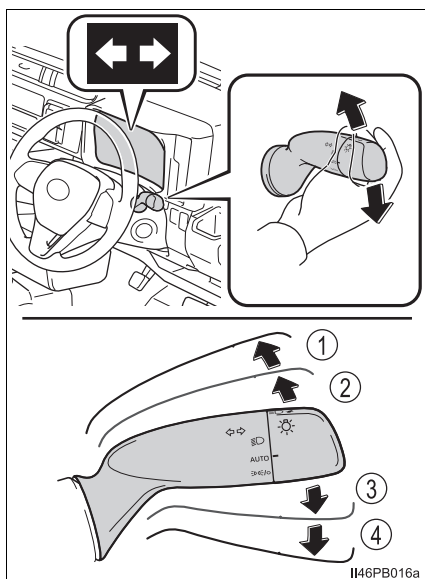
 注意**■ 駆動用電池の充電について**

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

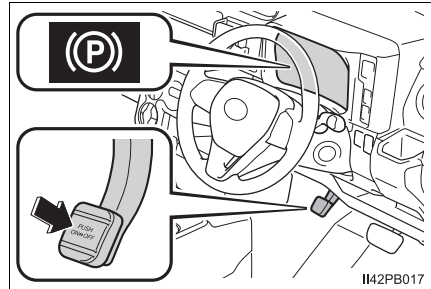
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■ 駐車するとき

→ P. 126

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 271

⚠ 注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

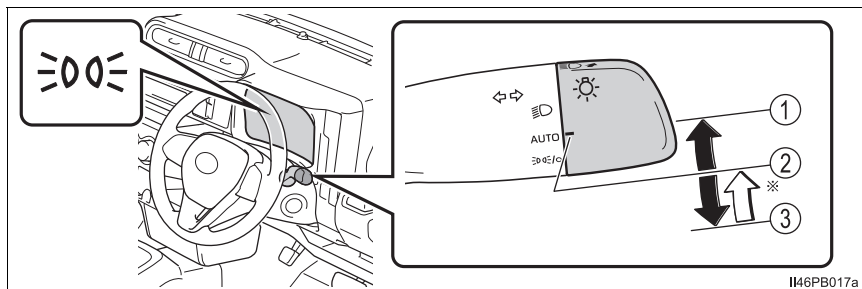
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTOの位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
① 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② AUTO※ ¹	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

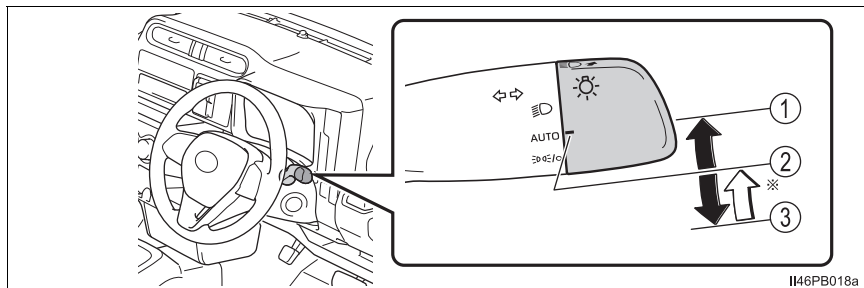
※¹ 操作するたびに、② AUTOによる点灯状態と③  による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② AUTOによる点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

☀ スイッチを③ OFF の位置で 2 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に① OFF か③ OFF の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを③ OFF の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③ OFF	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

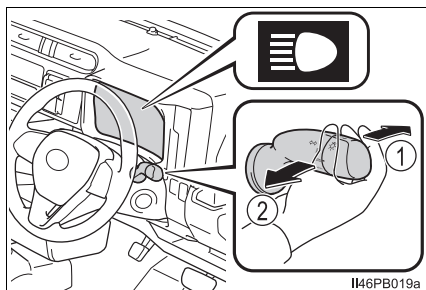
ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時、ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

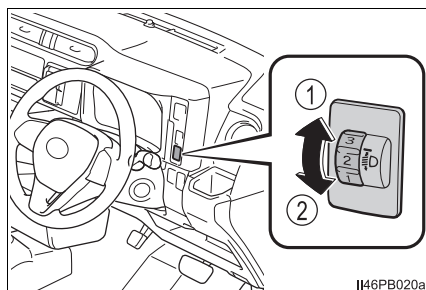
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転者	ラゲージルーム満載時	3

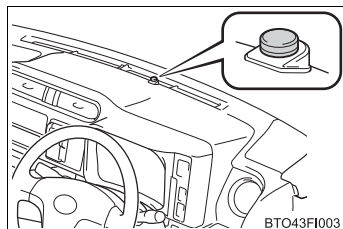
知識

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウィンドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを“ACC”または“LOCK”にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてから  または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチにキーが挿さっていない状態でヘッドランプ・尾灯が点灯している場合、運転席ドアを開けるとランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ 節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが“LOCK”の状態ではヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約20分後にすべてのランプが自動消灯します。

次のいずれかを行った場合、節電機能は解除されます。

- パワースイッチを“ON”にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 409)

注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

！ 警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

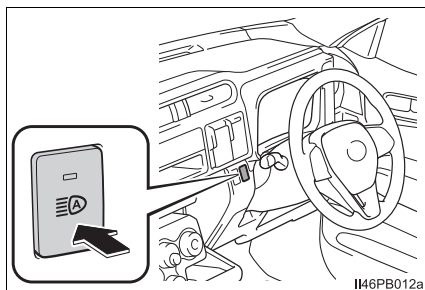
■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 170

オートマチックハイビームを使うには

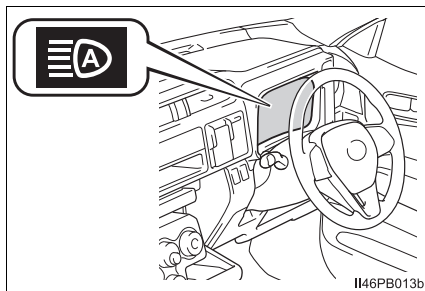
- 1 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



- 2 ランプスイッチをAUTOまたは  にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



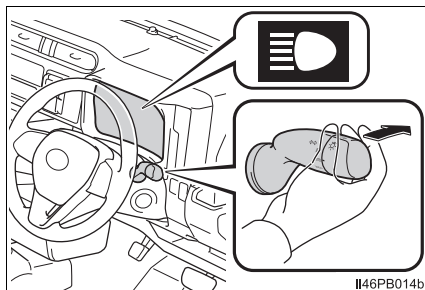
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



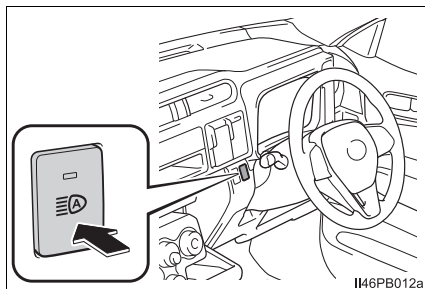
II46PB014b

■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。



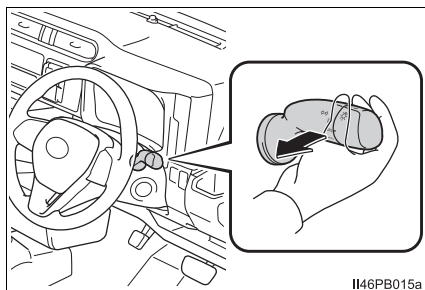
II46PB012a

一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



II46PB015a

 知識**■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件**

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・ 車速が約 30km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がない
- ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・ 車速が約 25km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方車両がランプを点灯している
- ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・ 車両が割り込んできたとき
- ・ 他車が前方を横切ったとき
- ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
- ・ 前方車両が無灯火のとき
- ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 175

- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両との車間距離
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
 - ・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
 - ・ システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 170
 - ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 175

リヤフォグランプスイッチ★

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

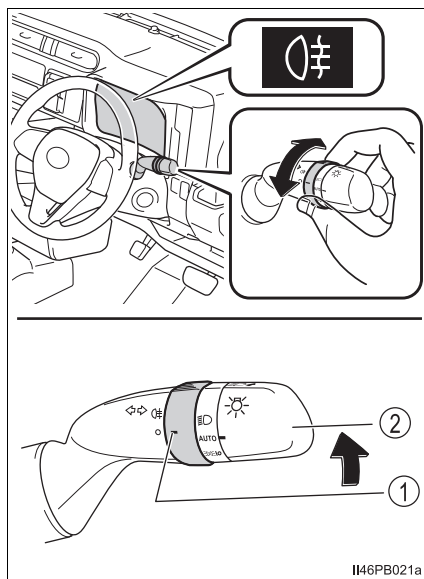
操作のしかた

① ○ 消灯する

②  点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■点灯条件

- ヘッドランプが点灯しているときに使用できません。
- リヤフォグランプが点灯しているときにヘッドランプを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。
- リヤフォグランプが点灯しているときに車幅灯が消灯すると、リヤフォグランプも消灯します。

■リヤフォグランプについて

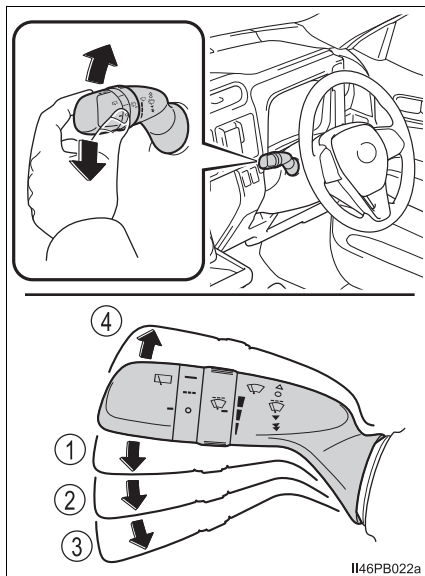
- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

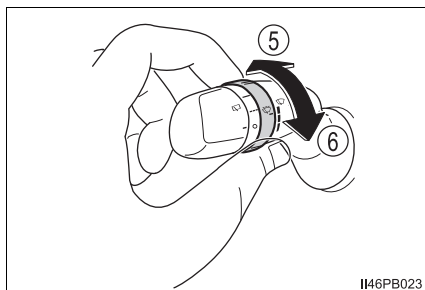
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

- ①  間欠作動
- ②  低速作動
- ③  高速作動
- ④  一時作動

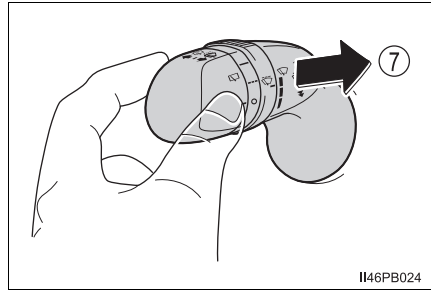


間欠作動  を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。
（間欠時間調整式ワイパー装着車）

- ⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



- ⑦ ウォッシャー液を出す()
レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ 車速による作動への影響

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。(間欠ワイパーの作動頻度が最大に調整されているときは、低速作動を続けます)

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ フロントウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

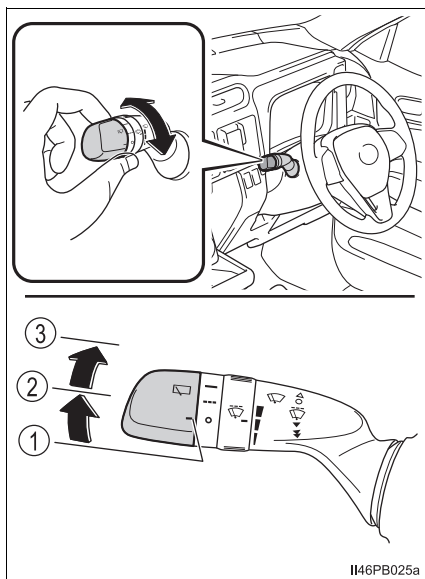
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）★

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

操作のしかた

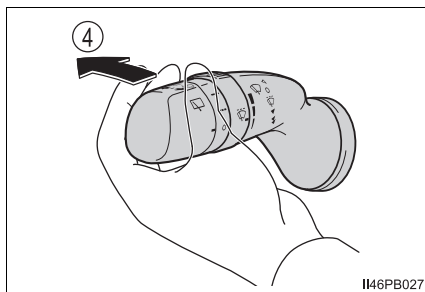
次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーまたはウォッシャーが作動します。

- ① ○ 停止
- ② --- 間欠作動
- ③ — 通常作動



- ④  ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

■ リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトレバーを R に入れるとリヤワイパーが 1 回作動します。

■ カスタマイズ機能

リバース連動機能などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 409)

 注意

■ リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

バッテリーあがりを防止するためにエンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- すべてのドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを“LOCK”にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

 警告**■給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

- 喫煙しないでください。

- 給油口にノズルを確実に挿入してください。

- 継ぎ足し給油をしないでください。

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

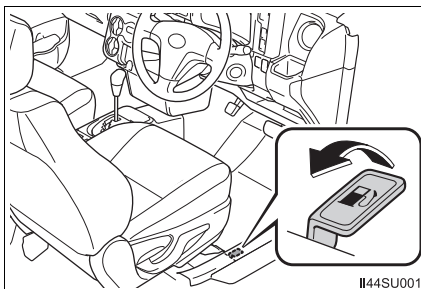
次のような状態になるおそれがあります。

- ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
- ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ガソリンエンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

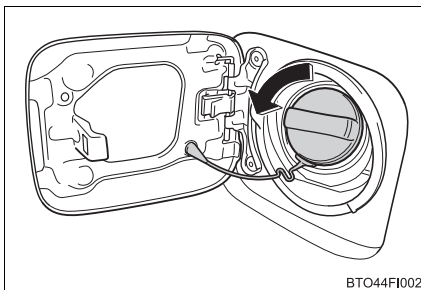
給油口の開け方

- 1 オープナーを引き上げて、給油扉を開ける



II44SU001

- 2 キャップをゆっくりまわして開ける

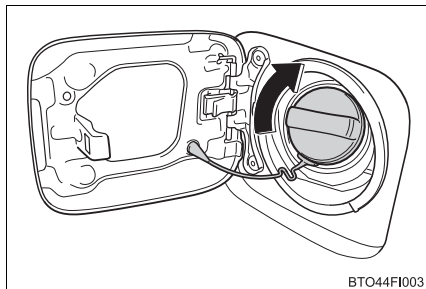


BTO44FI002

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がする
までまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少し
もどります。



BTO44FI003

⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。
対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

 警告**■ システムを OFF にする必要があるとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

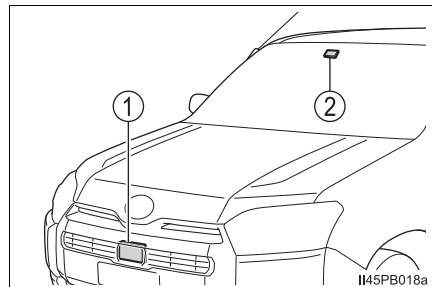
- AHB（オートマチックハイビーム）
→ P. 154
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
→ P. 178
- LTA（レーントレーシングアシスト）
→ P. 191
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
→ P. 197
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
→ P. 203
- 発進遅れ告知機能
→ P. 210
- RSA（ロードサインアシスト）
→ P. 212
- レーダークルーズコントロール
→ P. 216
- クルーズコントロール
→ P. 227

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

- ① 前方レーダー
- ② 前方カメラ



警告

■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

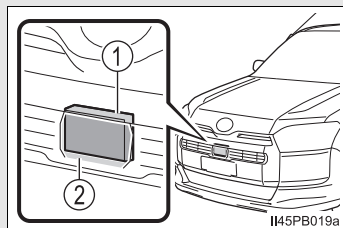
●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。

① レーダー

② レーダー専用カバー



●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への衝撃を避ける

レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ・レーダーを脱着や交換したとき
- ・フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ヒーター機能付レーダー専用カバーについて★

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性がある場合、システムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

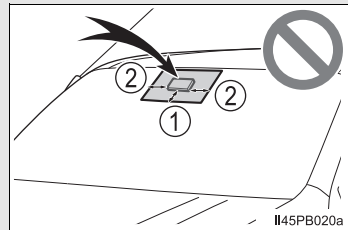
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

① 約 4cm

② 約 4cm



- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せず
に交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

！ 警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

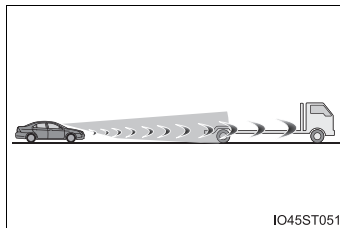
フロントウインドウガラスが曇る可能性があるときシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

 知識

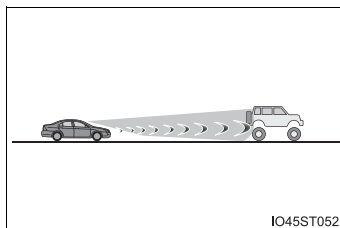
■ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき
- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
 - ・ トンネル
 - ・ トラス橋
 - ・ 砂利道
 - ・ 轍のある雪道
 - ・ 壁
 - ・ 大型トラック
 - ・ マンホール
 - ・ ガードレール
 - ・ 鉄板
- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

- 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- 対象車両の位置がずれているとき
- 対象車両に雪や泥などが付着しているとき
- 次のような道路を走行しているとき
 - ・ 急なカーブや曲がりくねった道
 - ・ 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
 - ・ 左右に傾きのある道
 - ・ 路面に深いわだちがある道
 - ・ 整備されていない荒れた道
 - ・ 起伏や段差が多い道路
- ハンドル操作が不安定なとき
- 車線内での自車の位置が一定でないとき
- 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
- ホイールアライメントがずれているとき
- 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

- カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
- カーブに対して進入速度が過度に高いとき
- 駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき
- 駐車場内を走行するとき
- 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき
- 風が強いとき

■車線を検知できないおそれがあるとき

- 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
- 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき
- 同一車線上に複数の白線があるとき
- 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
- 車線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

- 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時
- VSC、TRC等の安全システムが作動時
- VSC、TRC等の安全システムがOFFのとき

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。
- システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。
どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増してください。

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 179）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 190）

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・安全にお使いいただくために：→ P. 169

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

- システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 170

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。(機能によって、作動対象が異なります)

- 車両
- 自転車 ※
- 歩行者
- 自動二輪車 ※
- 壁

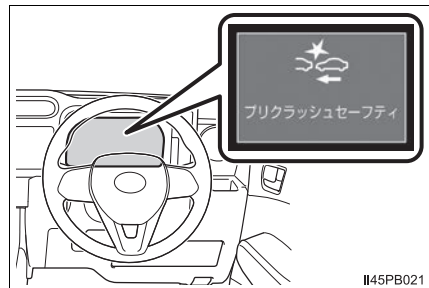
※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

機能一覧

■ 衝突警報

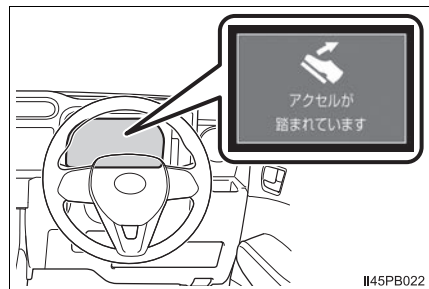
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



II45PB021

アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



II45PB022

■ ブリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ ブリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

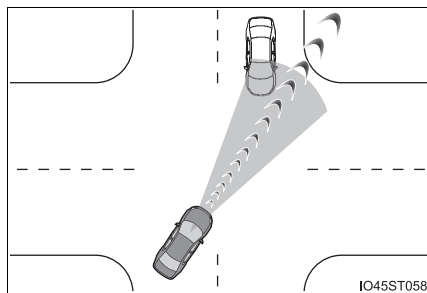


■ 交差点衝突回避支援（右左折）

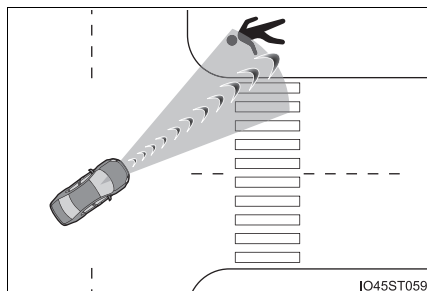
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車／対向自動二輪車の進路を横切るとき



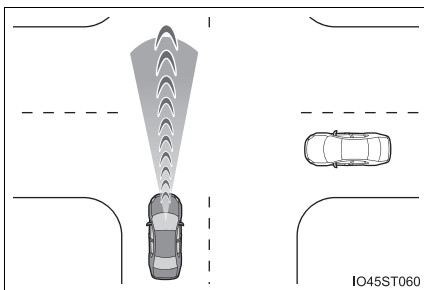
- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに図で示すアイコンとメッセージを表示します。



 警告**■プリクラッシュブレーキについて**

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
 - ・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
 - ・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。
 - ・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

 知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 80km/h

● ブリクラッシュブレーキ

作動対象	自転車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

ブリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、ブリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

● 緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自転車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

● 交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自転車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	-	約 5 ～ 40km/h
自転車	約 5 ～ 30km/h	-	約 5 ～ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h

●交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60km/h	・ 自車速度以下 ・ 約40km/h以下	約 5 ～ 60km/h

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

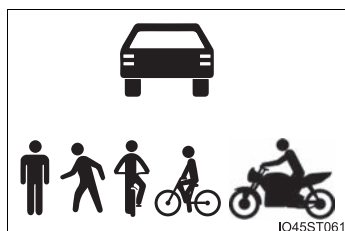
- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

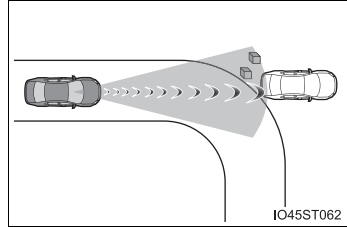
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



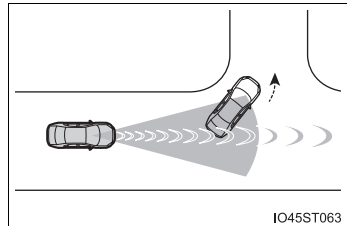
■衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

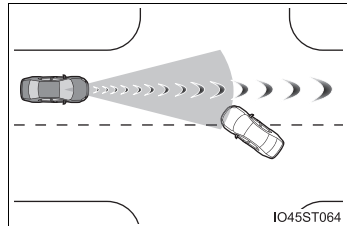
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・ カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



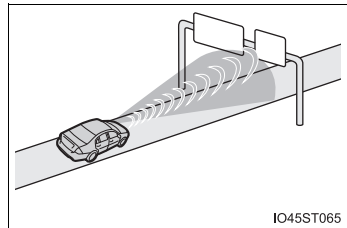
- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき

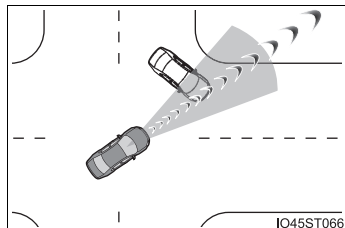


- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

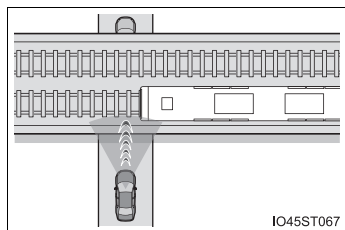


- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車車が自車の前方を通過したとき

- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通りようとしたとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車／対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



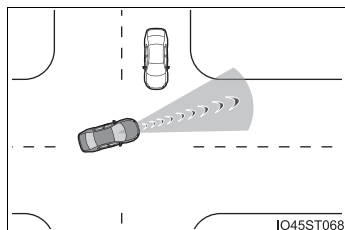
- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 道路上方／下方を移動するものがあるとき



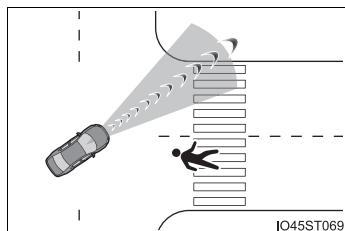
■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
 - ・ 自車や作動対象がふらついているとき
 - ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
 - ・ 作動対象に急接近したとき
 - ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
 - ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
 - ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
 - ・ 作動対象が複数重なっているとき
 - ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
 - ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
 - ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
 - ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
 - ・ 斜めを向いている前方車両に近付いたとき

- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- ・ 歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 右折中に、対向車／対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくる



- ・ 交差点で出会い頭に大型トラック／けん引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
- ・ 作動対象に近づきすぎたとき
 - ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
 - ・ 対向車がいるとき

- 上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
 - ・ ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
 - ・ 壁が傾いていたり、高さが低いとき
 - ・ 壁がポールなど幅の狭いもののとき
 - ・ 壁が生垣など草木のとき
 - ・ 壁に路面などが映りこんでいるとき
 - ・ 自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

- PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 409)
パワースイッチが“ON”になるとシステムは ON になります。
 - システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
 - カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。(→ P. 409)
 - 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。
- 「 (遅い)」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。
- レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が「 (早い)」のタイミングで作動します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

- 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

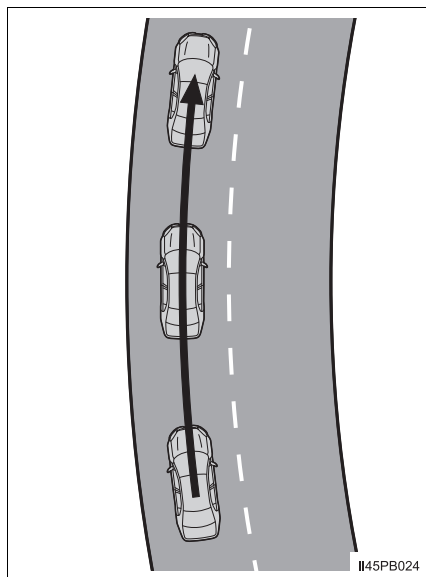
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないときLTAは作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

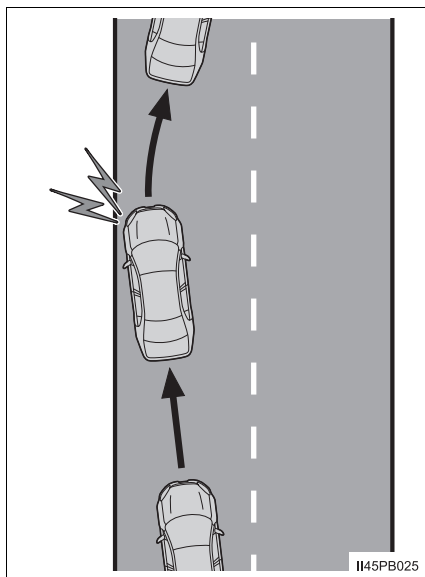
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



- 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



⚠ 警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

 知識

■ 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- システムが車線を認識しているとき、または先行車/周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールが作動しているとき
- 車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急カーブを走行していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→ P. 200）が行われていないとき
- 車線中央付近を走行しているとき

■ 機能の一時解除

- 機能の作動条件（→ P. 193）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。
- 機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■ LTA 中の車線逸脱警報について

- LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。
- 車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

- 手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

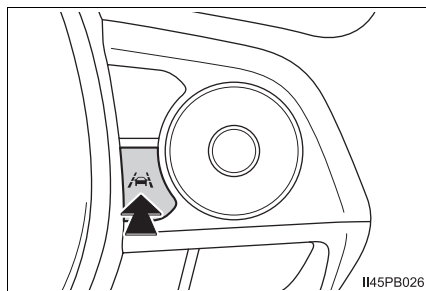
■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

システムの ON / OFF を変更する

LTA の ON / OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

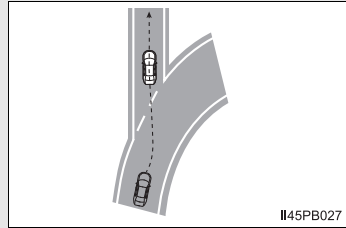


警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 175
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→ P. 177
- システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 170

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 白色	 灰色／白色	 灰色	LTA がスタンバイ中
 緑色	 緑色	 緑色	LTA が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

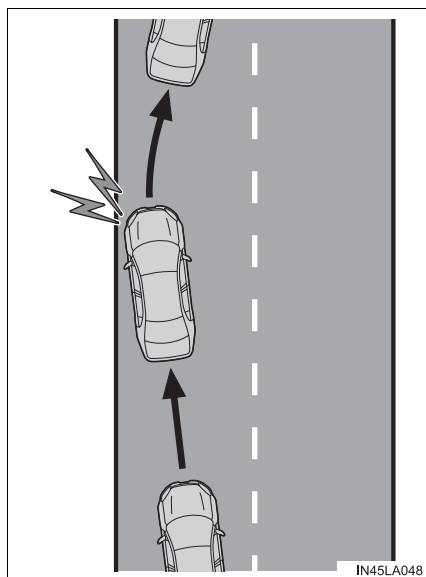
※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

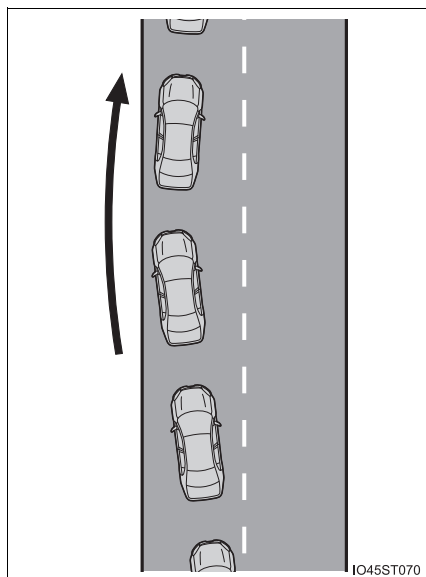


■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路 ※ から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

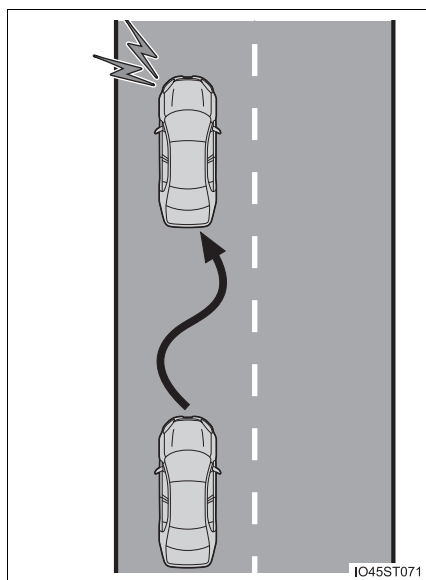
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

- ※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



 警告**■ LDA をお使いになる前に**

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 知識**■ 各機能の作動条件****● 車線逸脱警報／抑制機能**

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。
対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。（カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき）
- ・ システムが車線または走路 ※ を認識しているとき（車線または走路 ※ が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ VSC または TRC を OFF にしていないとき

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 199）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

- 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。
- 走路[※]がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。
- 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。
- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態だとシステムが判断したとき

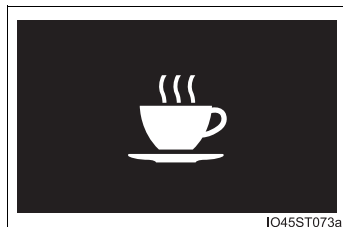
ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



LDA の設定を変更する

- LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 409)
- カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。(→ P. 409)

警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→ P. 177
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 175
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→ P. 177
- システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 170

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色 点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している
 黄色 点滅	 黄色 点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→ P. 204）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→ P. 206）

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 175
- システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 170

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト (OAA)	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	・ 歩行者 ・ 自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないように、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。 ハンドルの支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	・ 歩行者 ・ 自転車運転者 ・ 駐車車両
減速アシスト (DA)	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	・ 先行車 ・ 自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト (SA)	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし

 知識

■ システムの作動車速

- 道路を横断する作動対象に対する支援
約 30km/h ～ 60km/h
- 道路脇の作動対象に対する支援
約 30km/h ～ 60km/h
- 先行車に対する減速支援
約 20km/h 以上
- カーブに対する減速支援
約 20km/h 以上
- 信号のある交差点に対する右左折時の減速支援
約 30km/h ～ 80km/h (信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき)
- 車線に対する操舵支援
約 10 ～ 140km/h

■ システムの作動が停止するとき

- 次のときシステムは作動を停止します
 - ・ レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
 - ・ PCS が OFF のとき
 - ・ システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→ P. 177
 - ・ シフトポジションが P、R または N のとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用していないとき
- 次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します
 - ・ 車速が約 15km/h 以下のとき
 - ・ 周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき
- 次のときシステムは作動を停止する場合があります
 - ・ 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
 - ・ 作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
 - ・ 車線が検出できなくなった場合
 - ・ ブレーキ操作を行った場合
 - ・ アクセル操作を行った場合
 - ・ 一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
 - ・ 方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき (信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く)

 警告**■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P. 177
- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき
- 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき

 警告

- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自転車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m 以下、または約2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき
（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）
ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約4m以上あるとき
- 車線幅が約2.5m以下のとき
- ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ったからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→ P. 409）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→ P. 409）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切りかえないと表示されません。

表示	意味
	・ 白色：作動対象監視中 ・ 緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	・ 道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している ・ 操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

 知識

■ 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

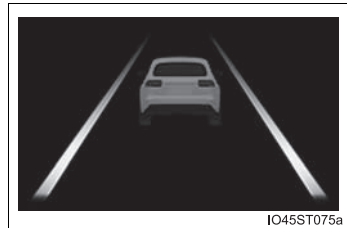


- 道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■ 先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。



発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかかったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■ 作動条件

次の条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき

■ 発進遅れ告知機能が正しく作動しないおそれがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 175

■ 先行車が発進していなくても告知する場合があります

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 信号機が青にかわっていても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識したとき
- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ているとき
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識したとき
- 日照条件などにより、正しく自転車対象の信号機を判別できないとき

システムの ON / OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 409)

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。(→ P. 409)

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラを使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSAは、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行います。支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■RSAを使用してはいけない状況

- システムをOFFにする必要があるとき：→ P. 170

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 175

ディスプレイ表示機能

- 前方カメラによって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。
- 複数の道路標識を表示できます。

車の仕様によっては表示される標識が制限される場合があります。

知識

■標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わりを示す補助標識を認識したとき

■表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- 補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき
- 工事などの通行規制区間に標識があるとき
- 標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

- 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとしてシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

 知識

■ 告知機能の作動条件

● 速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- ・ 最高速度を表示しているとき

● 車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
- ・ 進入禁止標識の間を通過するとき

● 赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- ・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
- ・ 一定以上の減速がないとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
- ・ 先行車がないとき

■ 告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

● 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。

- ・ 右左折等により標識が検知できないとき
- ・ 信号機が矢印信号のとき
- ・ 信号機が点滅信号のとき
- ・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
- ・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
- ・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
- ・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
- ・ 停止線に対し信号機が遠くにあるとき
- ・ 交差点間の距離が近いとき

- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
 - ・ 標識が通常とは異なる大きさのとき
 - ・ 標識や信号機が多数あるとき
 - ・ 自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
 - ・ 作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
 - ・ 信号機の灯色が黄色のとき
 - ・ 信号機が矢印信号のとき
 - ・ 予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

- 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。



最高速度



はみ出し通行禁止



車両進入禁止



転回禁止



一時停止



赤信号

RSA の設定を変更する

- RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→ P. 409)

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→ P. 223

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**警告****■ システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自転車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自転車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

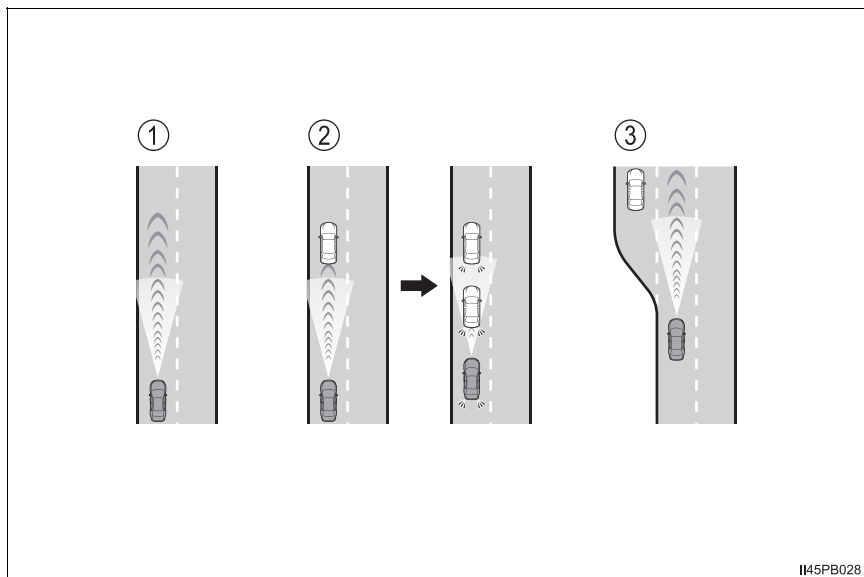
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 175
- システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 170

基本機能

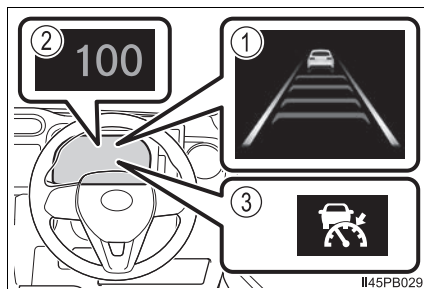


- ① 定速走行：
 先行車がないとき
 運転者が設定した速度で定速走行します。
 下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが
 吹鳴します。
- ② 減速走行・追従走行：
 設定した速度より、遅い先行車が現れたとき
 先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合は
 ブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車
 速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走
 行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接
 近警報を鳴らします。
 先行車が停止したときは、続いて停止し、停止後に制御が解除され
 ます。制御を再開させる場合は、再度“RES”もしくは“走行支
 援スイッチ”を操作する必要があります。
- ③ 加速走行：
 設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき
 設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

システムの構成部品

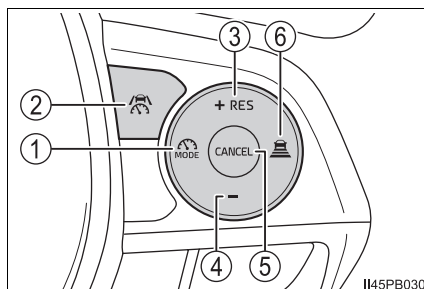
■ メーター表示

- ① マルチインフォメーションディスプレイ
- ② 設定速度
- ③ 表示灯



■ 操作スイッチ

- ① 走行支援モード選択スイッチ
- ② 走行支援スイッチ
- ③ +スイッチ、RES スイッチ
- ④ -スイッチ
- ⑤ キャンセルスイッチ
- ⑥ 車間距離切りかえスイッチ

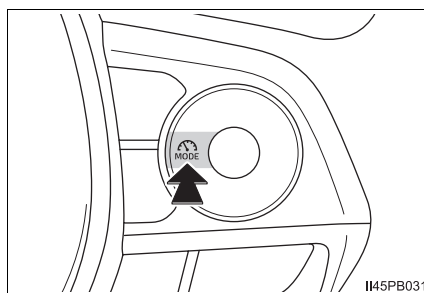


レーダークルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

- ① 走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズモードを選択する。

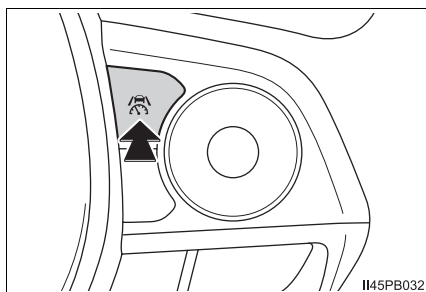
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで + スイッチまたは-スイッチを押します。

- ① 速度を上げる

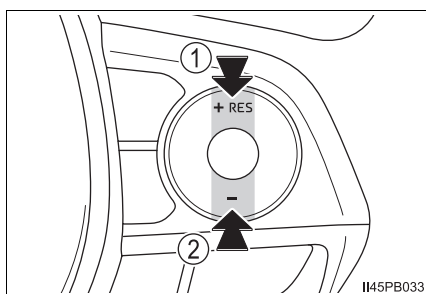
- ② 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す
長押し調整：スイッチを押しながら速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに 1km/h

長押し調整：スイッチを押しながら、5km/h ずつカスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。



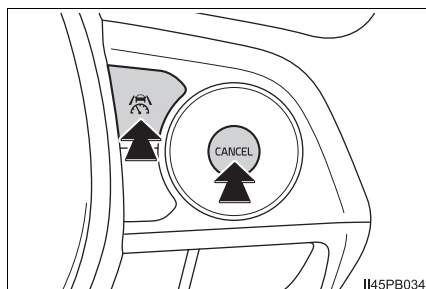
- アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- 2 + スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

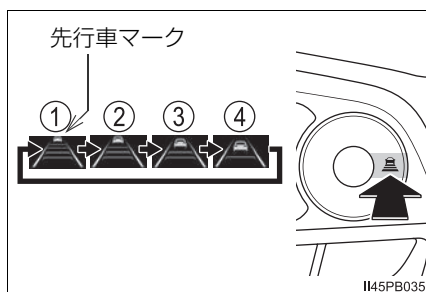


- 2 制御を復帰させるには、RES スイッチを押す

■ 車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安 (車速 100km/h の場合)
①	最長	約 70m
②	長	約 60m
③	中	約 45m
④	短	約 30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。

 知識

■ 設定条件について

- シフトポジションが D のとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
 - ・ 車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。
 - ・ 車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車両が停車したとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- パーキングブレーキが作動したとき
- 走行中に運転席シートベルトを着用していないとき
- プリクラッシュセーフティが OFF のとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→ P. 177

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→ P. 169

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 223）も作動しないおそれがあります。

- 割り込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- 自車が車線変更しているとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

■ システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 先行車が急ブレーキをかけたとき
- 渋滞時等、低速で車線変更したとき

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



知識

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

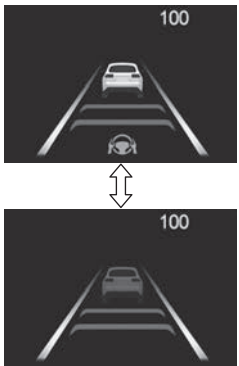
約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

レーダークルーズコントロールの設定を変更する

- レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。(→ P. 409)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーション ディスプレイ表示		状態
 白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行
 緑色		設定車間距離：橙色 点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅	接近警報

表示灯	マルチインフォメーション ディスプレイ表示		状態
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダル による加速中
 緑色		設定速度：緑色 反転表示	設定速度超過時

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

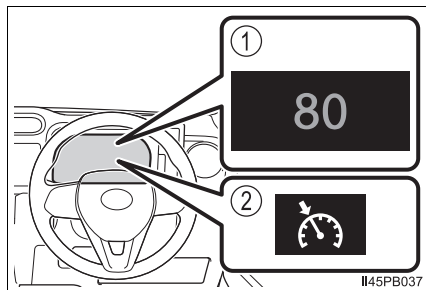
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 170

システムの構成部品

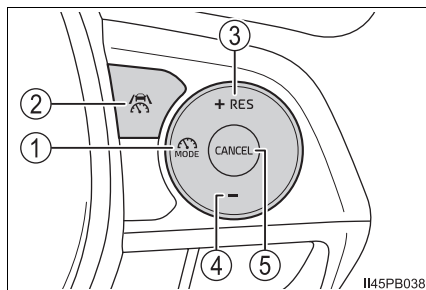
■ メーター表示

- ① 設定速度
- ② クルーズコントロール表示灯



■ 操作スイッチ

- ① 走行支援モード選択スイッチ
- ② 走行支援スイッチ
- ③ +スイッチ、RES スイッチ
- ④ -スイッチ
- ⑤ キャンセルスイッチ

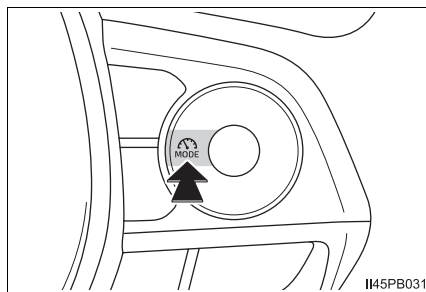


クルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

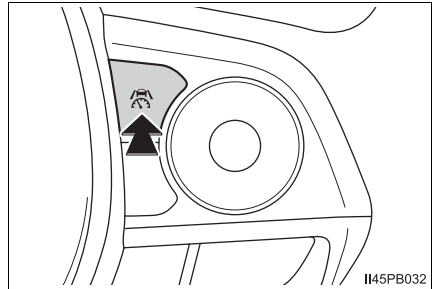
- ① 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択する。

クルーズコントロール表示灯
が点灯します。



- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

スイッチを離れたときの車速で定速走行できます。

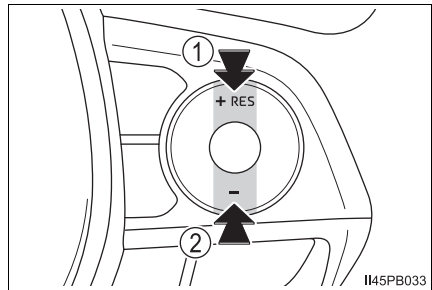


■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで + スイッチまたは-スイッチを押します。

- ① 速度を上げる
 - ② 速度を下げる
- 設定速度は、次のとおりに増減されます：
- 微調整：スイッチを押すごとに 1km/h
- 大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化



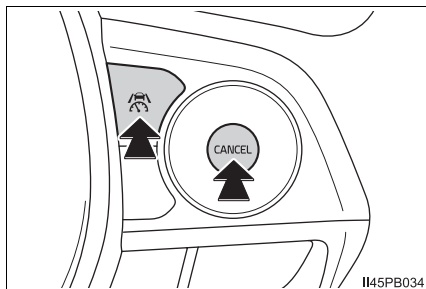
● アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- 2 + スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。



- 2 制御を復帰させるには、RES スwitchを押す

□ 知識

■ クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- パーキングブレーキが作動したとき
- 運転席シートベルトを着用していないとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→ P. 177

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーション ディスプレイ表示		状態
 白色		なし	クルーズコントロール OFF
 緑色		設定速度：緑色	定速走行
 緑色		設定速度：緑色 反転表示	設定速度超過時

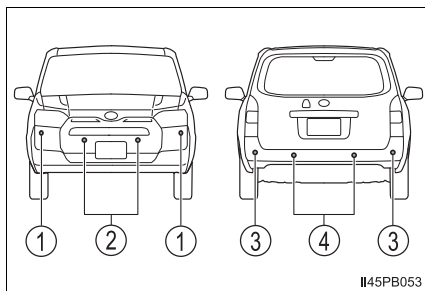
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類

- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンターセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ リヤセンターセンサー



■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイの表示



■ クリアランスソナー検知表示灯★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ クリアランスソナー検知表示灯の有無について**

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 233）が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON / OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→ P. 409）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 74）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→ P. 409）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを“LOCK”にしたあとで再度“ON”にしても、復帰しません）

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

 警告**■安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムをOFFしてください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けしないでください。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。
強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。
スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

 知識

■ 作動条件

- パワースイッチが“ON” のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：
 - ・ シフトポジションが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナー、リヤセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが R にあるとき
- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。
クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

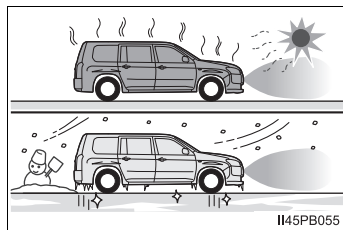
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



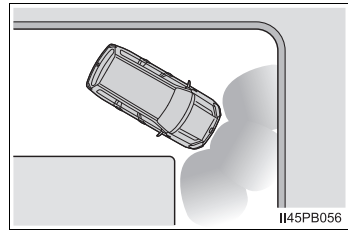
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

- 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパー・トリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けるとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

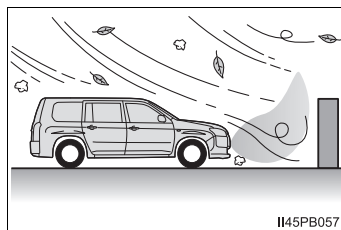
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

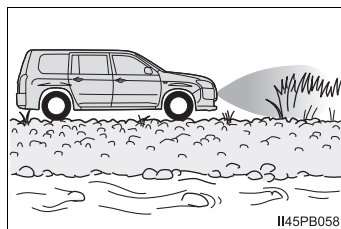


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴があるとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

● 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ 後退時のクリアランスソナー OFF 表示灯について

後退中に他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが車両後方に近づいたとき、クリアランスソナーが作動せず、クリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 233）が点灯する場合があります。

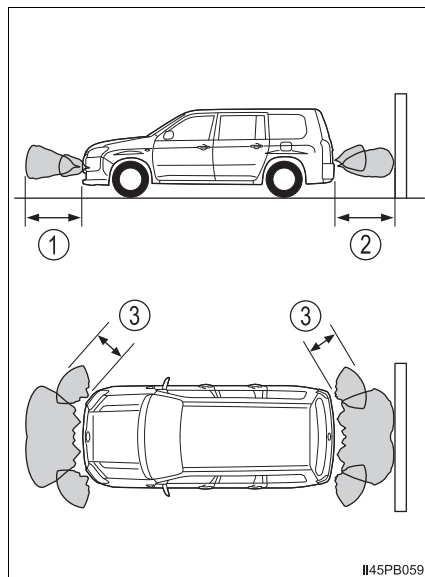
距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

- ① 約 100cm
- ② 約 150cm
- ③ 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。
ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり（→ P. 240）

ブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。
静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)

知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナーの音量を切りかえることができます。(→ P. 409)

■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチインフォメーションディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。一時ミュート（消音）スイッチを選択すると、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナーのブザー音がミュート（消音）されます。

- 次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。
 - ・ シフトポジションを切りかえたとき
 - ・ 車速が一定値以上になったとき
 - ・ センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
 - ・ 使用中の機能を OFF にしたとき
 - ・ パワースイッチを “LOCK” にしたとき

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

→ P. 247

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

 警告**■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき**

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 409)

PKSB (パーキングサポートブレーキ) が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→ P. 74) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

PKSB (パーキングサポートブレーキ) を OFF (非作動) にした場合、再度、カスタマイズメニュー (→ P. 409) から ON (作動) にしないとシステムは復帰しません。

(パワースイッチを “LOCK” にしたあとで再度 “ON” にしても、復帰しません)

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中 (加速制限制御)

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：「加速抑制中です」

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中 (出力最大抑制制御)

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：「ブレーキ！」

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー (単発音)

- ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：「ブレーキ！」

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

- システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：「アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください」、「ブレーキを踏んでください」

運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

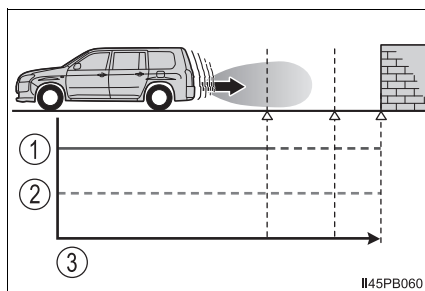
PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

- 図 1（PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

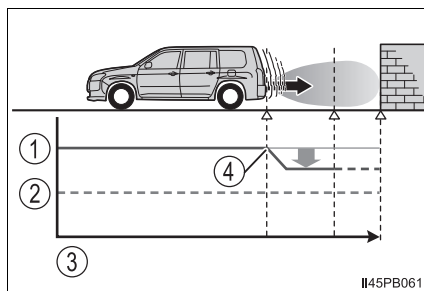
- ① ハイブリッドシステム出力
- ② 制動力
- ③ 時間



II45PB060

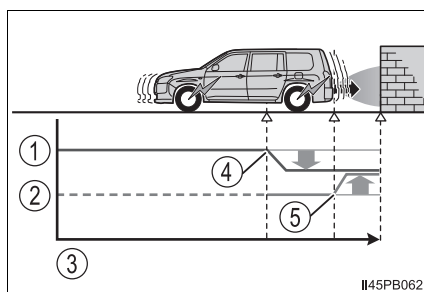
● 図 2 (ハイブリッドシステム出力抑制制御時)

- ① ハイブリッドシステム出力
- ② 制動力
- ③ 時間
- ④ ハイブリッドシステム出力抑制制御開始
(作動対象と衝突の可能性がある
とシステムが判断したとき)



● 図 3 (ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時)

- ① ハイブリッドシステム出力
- ② 制動力
- ③ 時間
- ④ ハイブリッドシステム出力抑制制御開始
(作動対象と衝突の可能性がある
とシステムが判断したとき)
- ⑤ ブレーキ制御開始
(作動対象と衝突の可能性が非常
に高いとシステムが判断したとき)



 知識**■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは**

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。

また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。

また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、パワースイッチをいったん“LOCK”にしてから、再度“ON”にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→ P. 74）

- シフトポジションを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■ クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON / OFF に関係なく（→ P. 233）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→ P. 243）、ブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

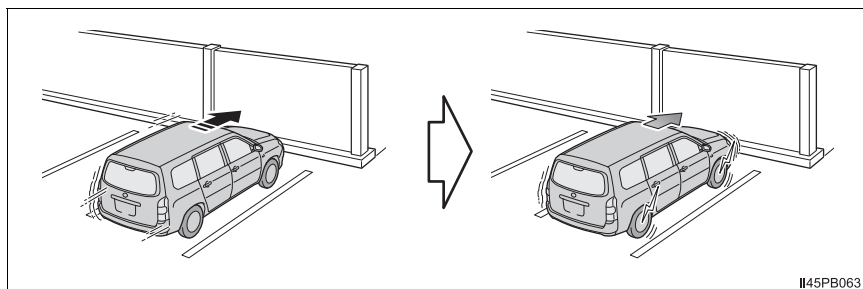
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

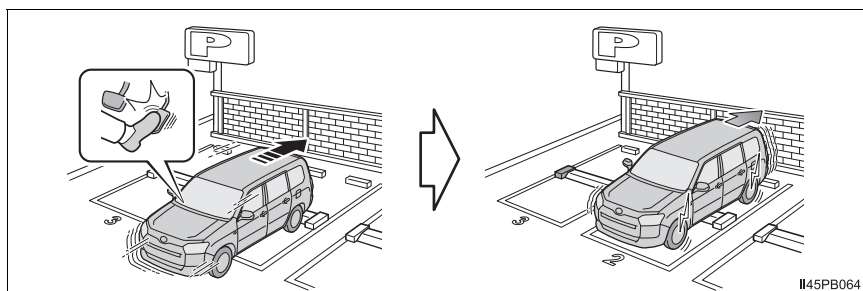
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

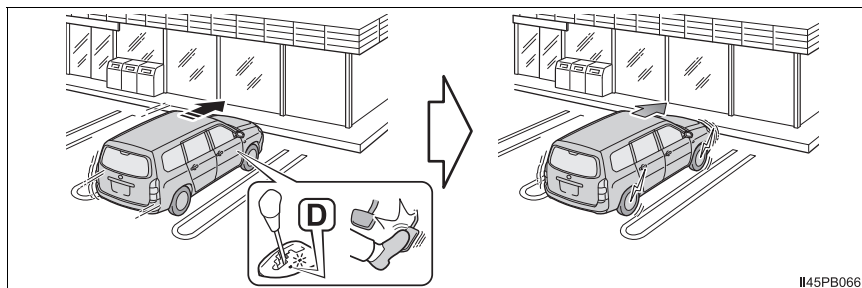
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



- アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき



センサーの種類

→ P. 232

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→ P. 234

■ 万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→ P. 246

■ 洗車時の注意

→ P. 234

 知識**■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯（→ P. 72）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 239）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 236

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 237

バックモニター★

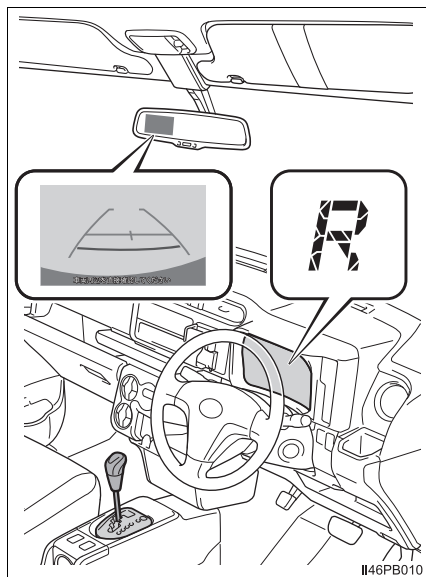
車両後方の映像とガイド線をモニター画面に映し出し、駐車時などの後退操作を補助する装置です。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

パワースイッチが“ON” のとき、シフトレバーを R にすると、バックモニターの画面が表示されます。

次のとき、バックモニターの画面が解除されます。

- ・ シフトレバーを R 以外にしたとき

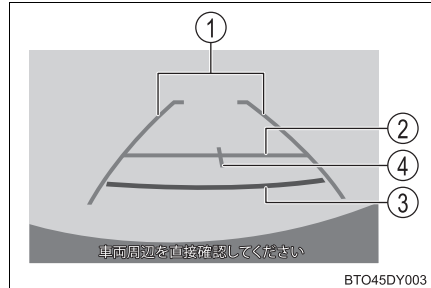


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

画面の見方について

ガイド線は画面に表示されます。
ガイド線は車両や路面の状況により、誤差を生じることがあります。

- ① 車幅延長線（青色）
車をまっすぐ後退させたときの
進路の目安を示します。
実際の車幅より広く表示します。
- ② 距離目安線（青色）
バンパー後端から約1m先を示し
ます。
- ③ 距離目安線（赤色）
バンパー後端から約0.5m 先を示します。
- ④ 車両中央線（青色）
車幅の中心を示します。

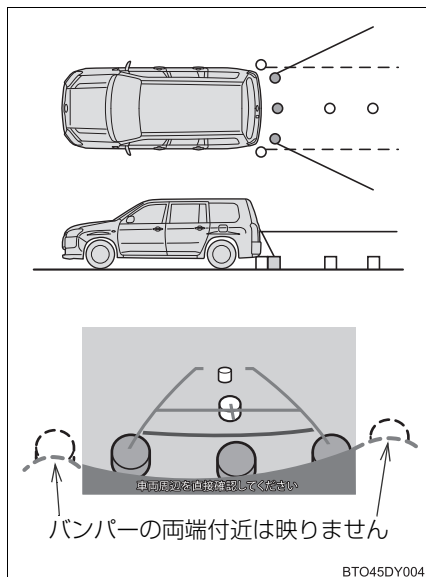


バックモニターの注意点について

■ 画面に映る範囲について

バックモニターは、バンパー後端から車の後方が映ります。

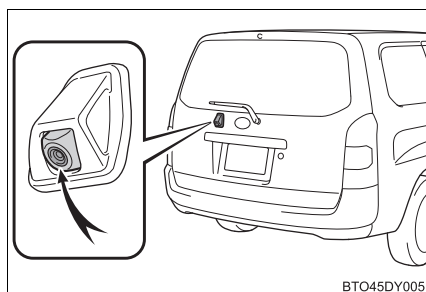
- ・ 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- ・ バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- ・ カメラのレンズの特性により、画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- ・ カメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- ・ 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。



BTO45DY004

■ カメラについて

バックモニターのカメラは、トヨタエンブレムの左側にあります。



BTO45DY005

● カメラのお手入れについて

カメラに水滴・雪・泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。

この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。

■ 画面と実際の路面との誤差について

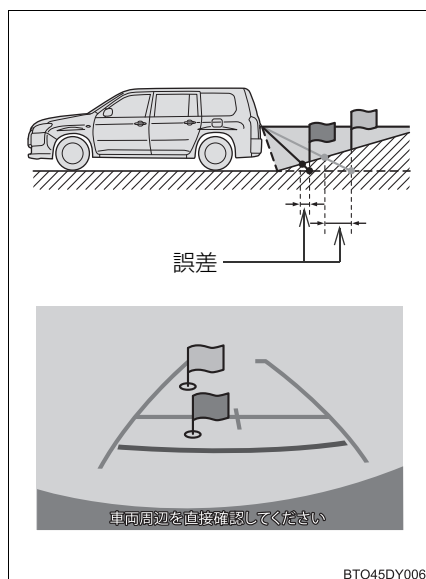
距離目安線や車幅延長線と駐車スペースの区画線が画面では平行に見えても、実際は平行ではないことがあります。必ず直接確かめてください。

車幅延長線と駐車スペース左右の区画線の間隔が画面では左右均等に見えても、実際は左右均等ではないことがあります。必ず直接確かめてください。

距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

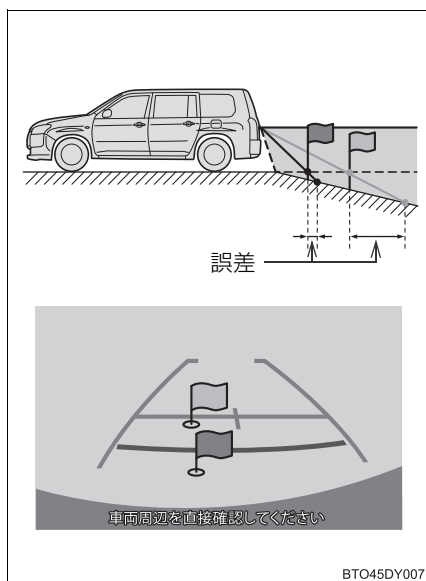
● 急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



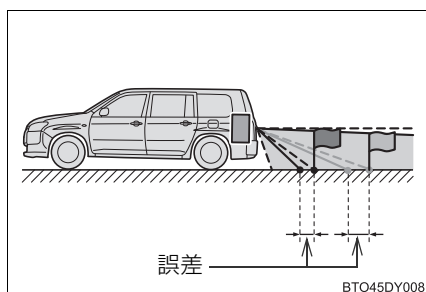
● 急な下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



● 車が傾いているとき

乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。

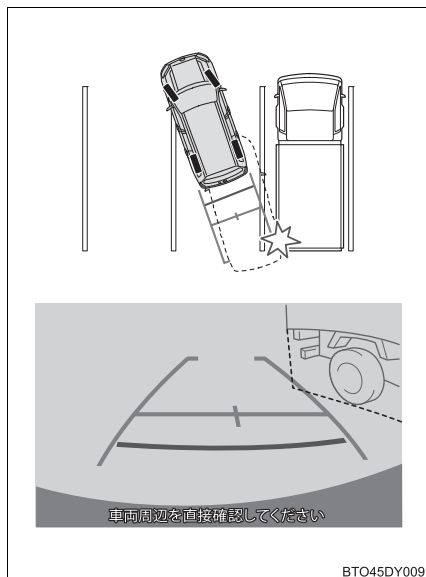


■ 立体物が近くにあるとき

車幅延長線・距離目安線は路面に対して表示されているため、立体物の距離を判断することができません。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次のことにご注意ください。

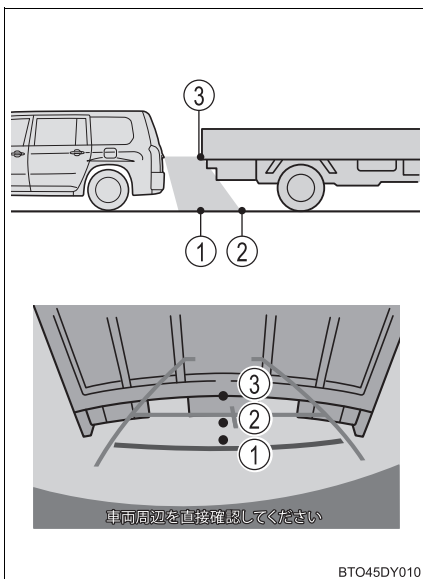
● 車幅延長線について

後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が車幅延長線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。



● 距離目安線について

後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により ② の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には ① の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では ①、②、③ の順に近く見えますが、実際の距離は ① と ③ は同じ距離で、② は ① と ③ より遠い距離にあります。



知っておいていただきたいこと

■ 故障とお考えになる前に

下記のような症状になったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

考えられる原因	処置
□ 画面が見にくい	
・ 夜間など暗いところで使用するとき ・ レンズ付近の温度が高い、または低いとき ・ 外気温が低いとき ・ カメラに水滴が付いたとき ・ 雨天時など湿度が高いとき ・ カメラ付近に異物（泥など）が付いたとき ・ カメラにすり傷が付いたとき ・ 白壁や明るいものが画面に映り込んだとき ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたったとき ・ 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明下で使用したとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、バックモニターをご使用ください）
□ 画面が不鮮明	
カメラのレンズに水滴・雪・泥など異物や汚れが付着しているとき	大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。
□ 画面がずれている	
カメラ部に強い衝撃が加わったとき	トヨタ販売店で点検を受けてください。
□ ガイド線が大きくずれる	
カメラの位置がずれているとき	トヨタ販売店で点検を受けてください。
・ 車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど） ・ 傾斜地で使用するとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

 知識

■バックモニターを使用するときは

インナーミラーの防眩機能が解除されます。

 警告

■バックモニターを使用するときは

バックモニターは、後退操作を補助する装置です。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に後退してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。
画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 後退するときは、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながら、ゆっくり後退してください。
- 駐車時の道路事情・路面や車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。十分理解したうえで、バックモニターをご使用ください。
- 駐車するときは、必ず駐車スペースに車を駐車できるかを確認してから後退してください。
- 次のような状況では、バックモニターを使用しないでください。
 - ・雪道、凍結した道などのすべりやすい路面
 - ・タイヤチェーンを使用しているとき
 - ・バックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・カーブや坂道など平坦・まっすぐではない道路
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れたりすることがあります。特に動いている物の映像が歪む、または画面から見えなくなることがあります。
- タイヤサイズを変更した場合、画面に表示されるガイド線の位置に誤差が生じることがあります。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。(→ P. 252)

 注意**■カメラの取り扱いについて**

- バックモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
 - ・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿せたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
 - ・カメラレンズ以外の黒色部分は樹脂でできていますので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
 - ・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラが故障したときは、画面が次のように表示されることがあります。
 - ・シフトレバーを R 以外にしたときに、カメラ映像が表示されたままになる
 - ・シフトレバーを R にしたときに、画面の一部、もしくはすべてが黒映像で表示される
 - ・シフトレバーを R にしたときに、カメラ映像に切りかわらない
 - ・カメラ映像にガイド線などが表示されない

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

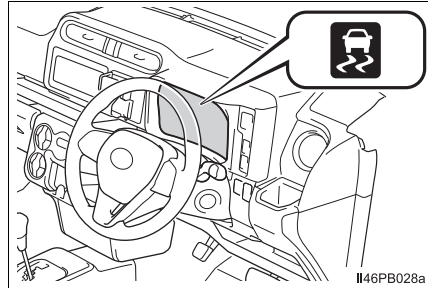
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

◆ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

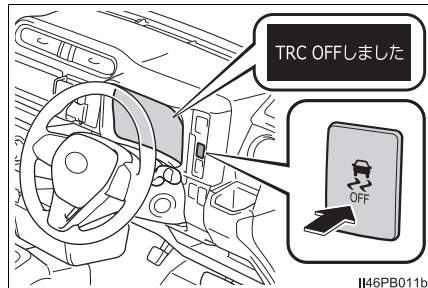
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がら

ず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるハイブリッドシステム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

システム作動時はブザー、マルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



II45PB022

知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に  を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します（衝突警報のみ作動可能状態になります）。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 184）

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 前進での上り坂発進時にシフトレバーが D などの前進シフトのとき、後退での上り坂発進時にシフトレバーが R のとき
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっている
- パワースイッチが“ON”

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 前進での上り坂発進時にシフトレバーが D などの前進シフト以外のとき、後退での上り坂発進時にシフトレバーが R 以外のとき
- アクセルペダルを踏んだ
- ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した
- パワースイッチが“LOCK”

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- ハイブリッドシステム停止後 1～2 分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを “LOCK” (OFF) にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55 km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■ セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。
ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■ セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます

- 車速が約 0km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

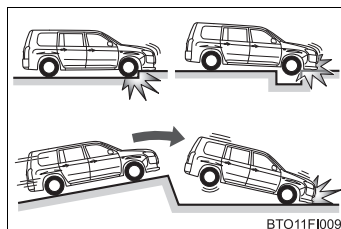
- 次の条件をすべて満たすと、システムが作動します

- ・ 車速が約 60km/h 以下のとき
- ・ SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
- ・ 衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
- ・ アクセルペダルを速く強く踏み込んだ※あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※とき

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

- 次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。

- ・ 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ・ 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ・ ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



- アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

 警告**■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 407）異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

 警告**■ セカンダリーコリジョンブレーキについて**

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン(暖房/冷房)の作動を抑え、燃費向上につながります。(→ P. 145)

◆ ハイブリッドシステムインジケータの利用

マルチインフォメーションディスプレイ内のハイブリッドシステムインジケータの表示をエコエリアの範囲に保つことで環境に配慮した走行が可能です。(→ P. 84)

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーをDにしましょう。また、駐車するときはシフトレバーをPにしましょう。シフトレバーをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON / OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせず降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりまますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 319）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

 注意**■タイヤチェーンの使用について**

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能**5****5-1. エアコン・デフォグガーの
使い方**

オートエアコン	274
シートヒーター	280

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	282
・フロントルームランプ・ リヤルームランプ	283

5-3. 収納装備の使い方

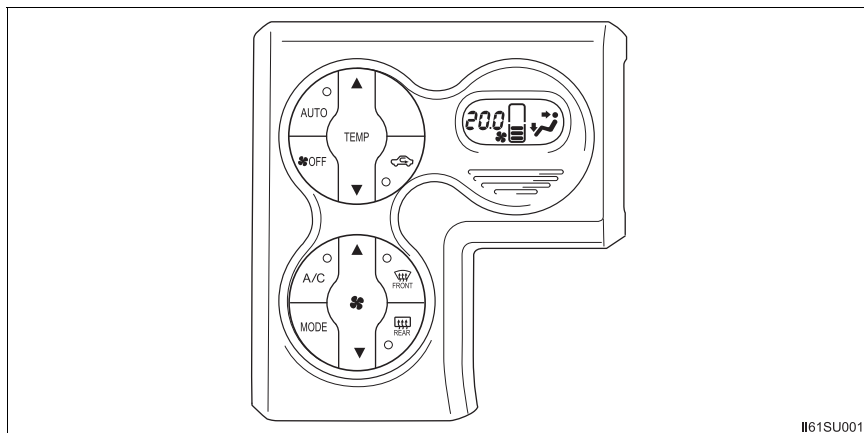
収納装備一覧	284
・センタートレイ （ドリンクホルダー付）	286
・マルチホルダー	288
・インパネトレイ	291
・開閉式 ワイドフリーラック	292
・センターボックス	292
・カップホルダー・ ボトルホルダー	293
・オーブントレイ・ ポケット・小物入れ	295

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	297
・サンバイザー	297
・アクセサリソケット・ アクセサリ コンセント	298
・充電用 USB Type-C 端子	300
・インパネテーブル	302
・コートフック	304
ステアリングスイッチ	305

オートエアコン

エアコン操作について

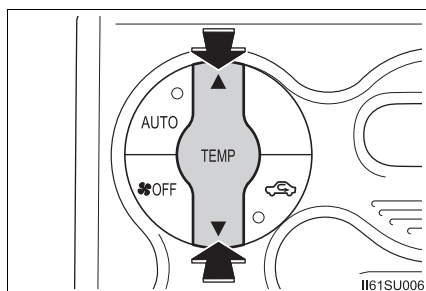


II61SU001

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは
“TEMP” の “▲” 側を、下
げるときは “▼” 側を押す

“A/C” が押されていない場合は、
送風または暖房で使用できます。

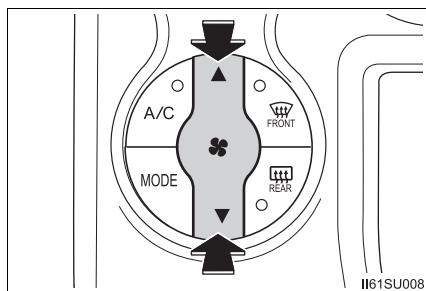


II61SU006

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは🌀の “▲”
側を、減らすときは “▼” 側を
押す

“OFF” を押すと、送風が止まりま
す。



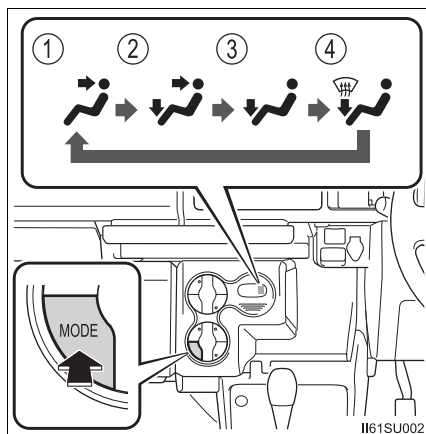
II61SU008

■ 吹き出し口を切りかえる

“MODE” を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

- 1 “AUTO” を押す

表示灯が点灯し、吹き出し口と風量が自動で調整されます。

- 2 温度を設定する

- 3 “A/C” を押す

押すたびにエアコンの ON / OFF が切りかわります。

ON のときは表示灯が点灯します。

- 4 送風を止めたいときは、“OFF” を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは表示灯が点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには

 を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

作動中は表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

 を押す

- ・ 押すごとに作動が切りかわり、作動中は表示灯が点灯します。
- ・ リヤウインドウデフォグガーは、しばらくすると自動的にオフになります。

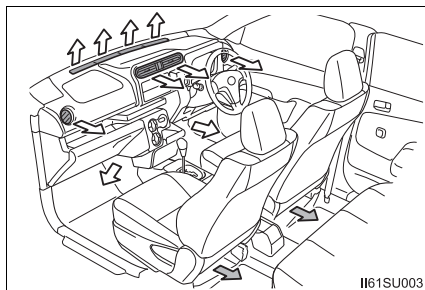
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

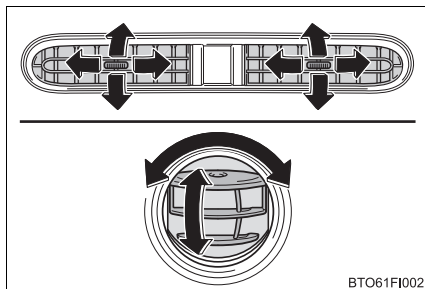
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。

←：寒冷地仕様車のみ

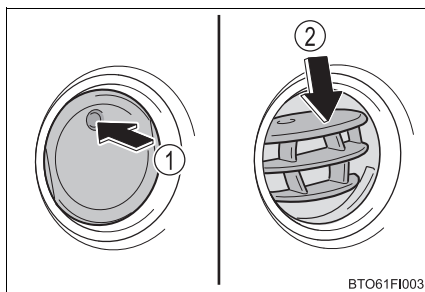


■ 風向きの調整



■ 吹き出し口の開閉

- ① 開ける
- ② 閉じる



 知識**■ オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、“AUTO” を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C” を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- “A/C” を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内気循環／外気導入について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃近くまで下がったとき

“A/C” を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ エコドライブモード（→ P. 145）のエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ 風量を調整する
 - ・ エコドライブモードを解除する
 - ・ 設定温度を調整する

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 325

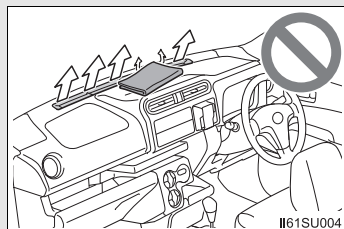
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→ P. 409)

 警告

■ フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウィンドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎするようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■ リヤウィンドウデフォグター&ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

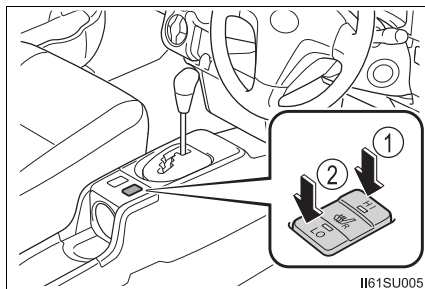
ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

シートヒーター★

シートを温めることができます。

- ① HI（強）
- ② LO（弱）

シートヒーターが作動しているときは、表示灯が点灯します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ 使用しないとき

スイッチを中立の位置にしてください。インジケーターが消灯します。

警告

■ やけどについて

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常加熱の原因になります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常加熱の原因になるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

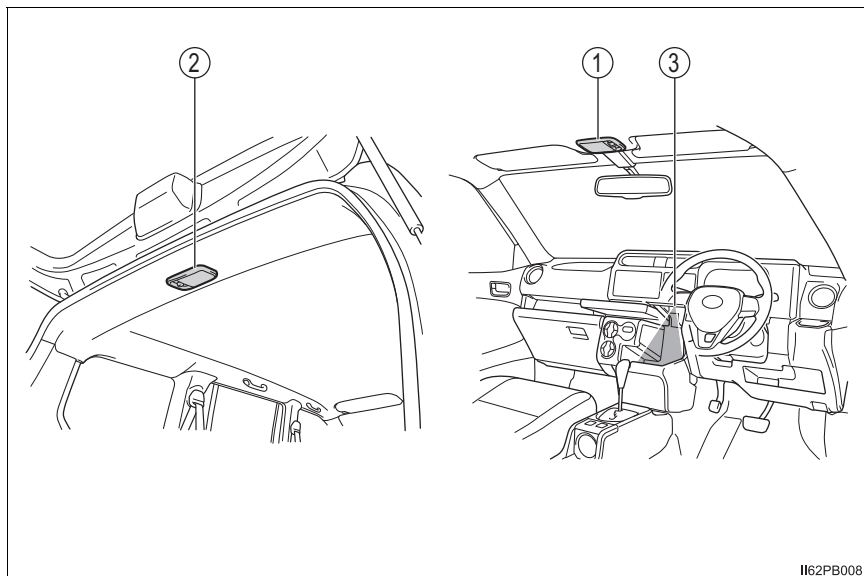
 注意**■ シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止しているときは、シートヒーターを使用しないでください。

室内灯一覧



① フロントルームランプ

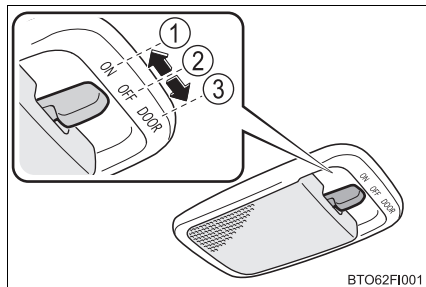
② リヤルームランプ

③ センタートレイ（ドリンクホルダー付）照明
（車幅灯が点灯しているとき）

フロントルームランプ・リヤルームランプ

- ① ランプを点灯する
- ② ランプを消灯する
- ③ ドアの開閉作動に連動して、ランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

リヤルームランプは、バックドアの開閉作動にのみ連動します。



BTO62F1001

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチの位置により、フロントルームランプが自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でフロントルームランプのスイッチがドアポジションのときに、フロントルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

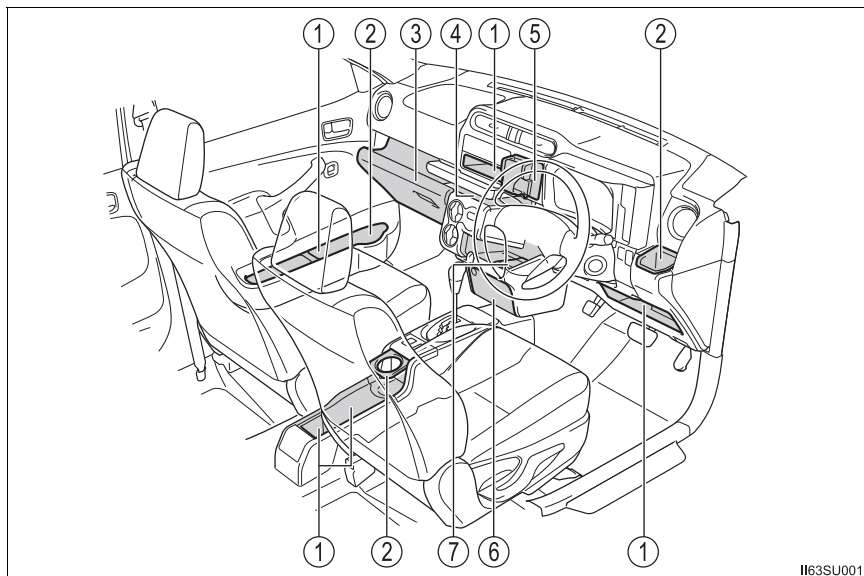
イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 409）

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



- ① オープントレイ・ポケット・小物入れ (→ P. 295)
- ② カップホルダー・ボトルホルダー (→ P. 293)
- ③ 開閉式ワイドフリーラック (→ P. 292)
- ④ インパネトレイ (→ P. 291)
- ⑤ マルチホルダー (→ P. 288)
- ⑥ センターボックス (→ P. 292)
- ⑦ センタートレイ (ドリンクホルダー付) (→ P. 286)

 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

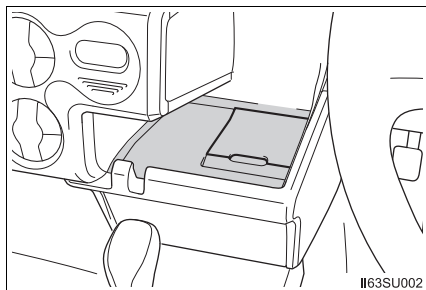
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

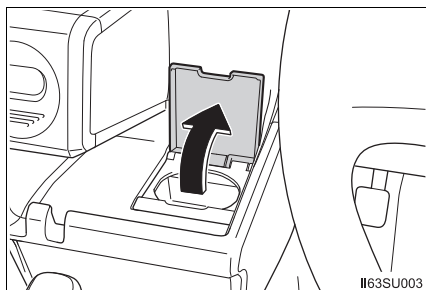
- 収納装備を使わないときは、必ずフタを閉じたり、格納してください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタや収納装備に体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

センタートレイ（ドリンクホルダー付）**■ オープントレイとして使う**

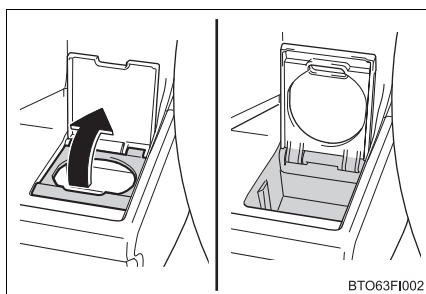
フタを閉める

**■ カップホルダーとして使う**

フタを開ける

**■ 1L 紙パックホルダーとして使う**

フタとカップホルダーを開ける



知識

■ カップホルダーとして使うときは

→ P. 294

■ 1L 紙パックホルダーとして使うときは

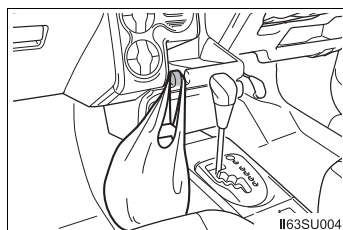
- 紙パックのフタを閉められるものは、必ずフタを閉めてから収納してください。
- 紙パックの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

■ センタートレイ（ドリンクホルダー付）照明

車幅灯が点灯しているとき、照明が点灯します。（→ P. 282）

■ 買い物フック

センタートレイ（ドリンクホルダー付）左側のフックには、袋などをかけることができます。



警告

■ オープントレイとして使うときは

→ P. 295

■ カップホルダーとして使うときは

→ P. 294

■ 1L 紙パックホルダーとして使うときは

1L 紙パックホルダーには紙パック以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

注意

- 1L 紙パックホルダーとして使うときは、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- 破損を防ぐために、センタートレイ（ドリンクホルダー付）左側のフックに 3kg をこえるものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

マルチホルダー

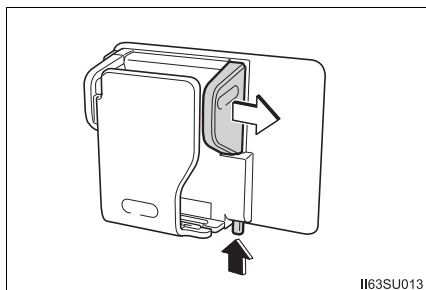
マルチホルダーは、スマートフォンなどの携帯機器やメモ用紙などを収納するための装備です。

携帯機器などを固定して画面を見たり操作するための装備ではありません。

■ スマートフォンなどの携帯機器やメモ用紙などを置く

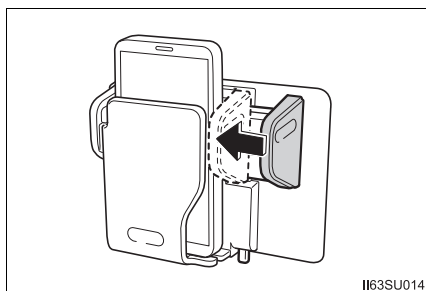
1 ボタンを押す

アジャスターが開きます。



2 アジャスターを閉める

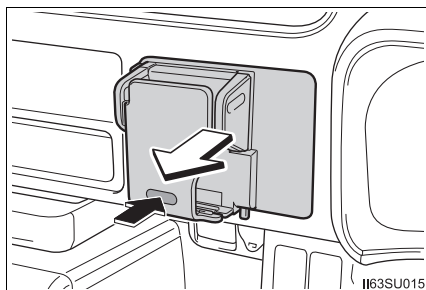
置いたものの大きさに合わせて閉めてください。



■ 小物入れとして使う

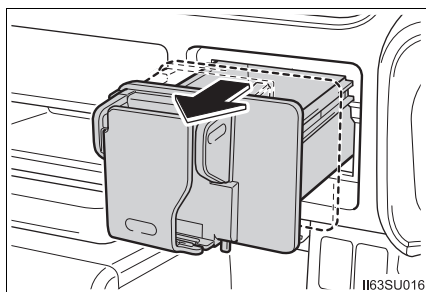
1 押して開ける

小物入れが少し開きます。



2 手前に引く

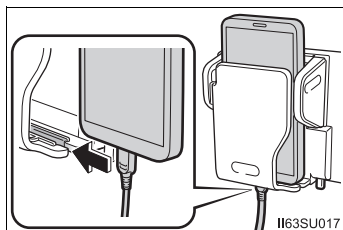
ストッパーにあたり止まるまで、小物入れを引き出すことができます。



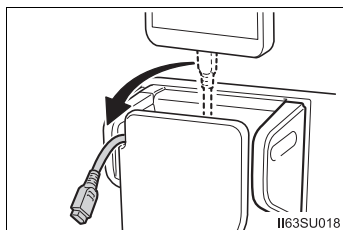
■ 知識

■ スマートフォンなどの携帯機器を置くときは

- 携帯機器に接続したケーブルは、マルチホルダー下部のスリットから出しておくことができます。ケーブルは、スリット右側から通すことができます。



- マルチホルダーから携帯機器を持ち出すときは、はずしたケーブルをホルダー左上のくぼみに引っかけておくことができます。



 警告

- アジャスターの操作時などマルチホルダーを使用するときは、ワイパー&ウォッシャースイッチに手があたらないように気を付けてください。
手があたりワイパー&ウォッシャーが不意に作動すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- マルチホルダーを小物入れとして使う場合、走行中は必ず閉じてください。
開いたマルチホルダーに手が当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

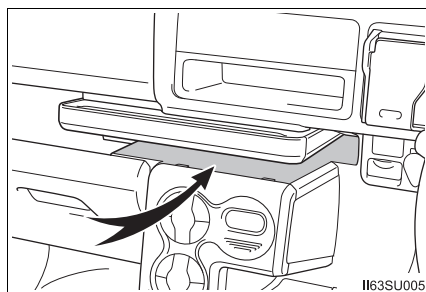
 注意

- エアコンの使用状況や車室内外の温度・湿度によっては、マルチホルダーに置いたスマートフォンなどの携帯機器内部が結露するおそれがあります。
それぞれの携帯機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。
- マルチホルダーを小物入れとして使う場合、重いものを入れないでください。
引き出しにくくなったり、変形するおそれがあります。

インパネトレイ

A4 サイズまでのバインダーや書類などを入れることができます。

A4 サイズのものは、横向きに入れてください。



⚠ 警告

インパネトレイには、トレイから大きくはみ出るようなものや、転がりやすいものを置かないでください。

急ブレーキ時などに、はみ出した部分に体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

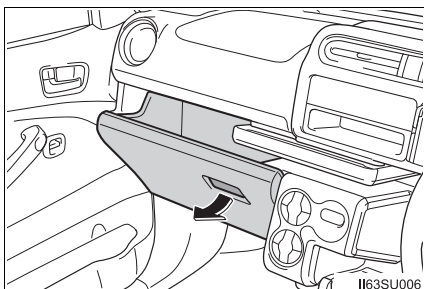
⚠ 注意

インパネトレイには、トレイから大きくはみ出るようなものを置かないでください。

インパネテーブル（→ P. 302）を引き出したときにあたり、破損するおそれがあります。

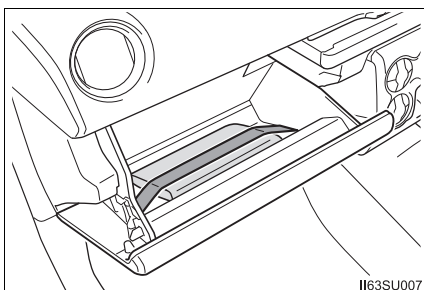
開閉式ワイドフリーラック

開口部を広げるには、レバーを引き上げる



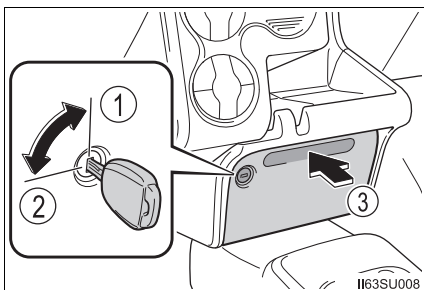
■ 車検証入れや取扱説明書などの収納

ラック内側のゴムバンドで留めることができます。



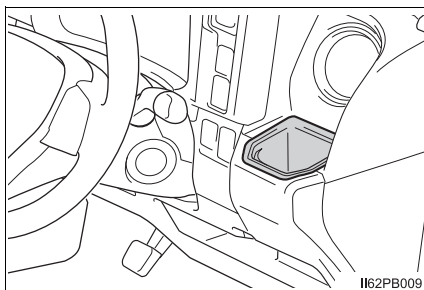
センターボックス

- ① 施錠
- ② 解錠
- ③ 押して開ける

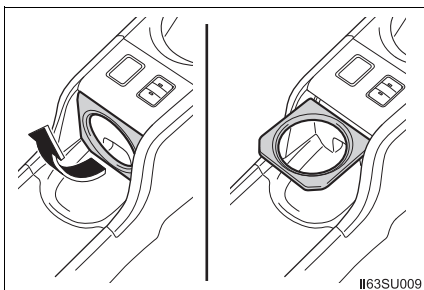


カップホルダー・ボトルホルダー**■ カップホルダー**

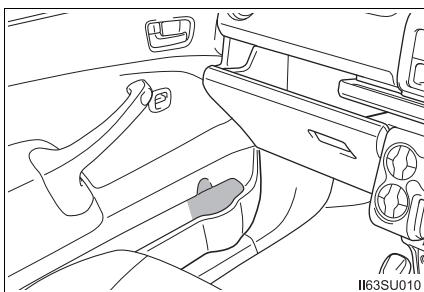
▶ 運転席右側



▶ センターコンソール

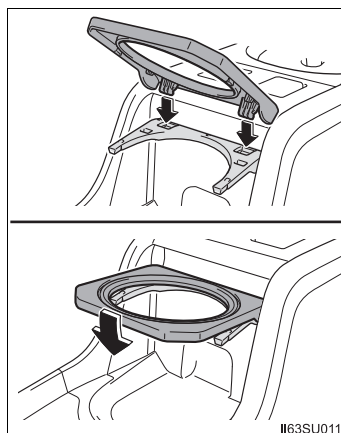


使用するときには、引き起こす

■ ボトルホルダー（助手席ドア）

 知識

- フタを閉められるものは、必ずフタを閉めてから収納してください。
- カップ・缶・ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。
- センターコンソールのカップホルダー部は、はずれてしまっても、再び取り付け使用することができます。

 警告

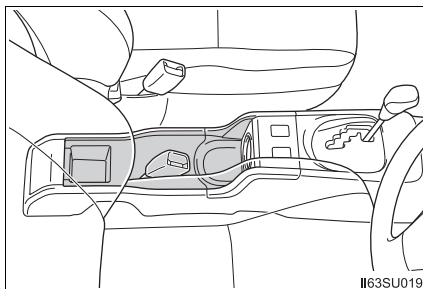
カップホルダー・ボトルホルダーにはカップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

 注意

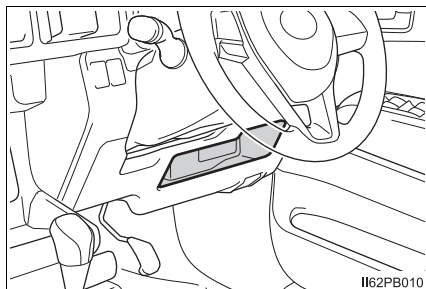
- センターコンソールのカップホルダーに手をついたり、ホルダーを足で踏んだりしないでください。
- 助手席ドアのボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

オープントレイ・ポケット・小物入れ

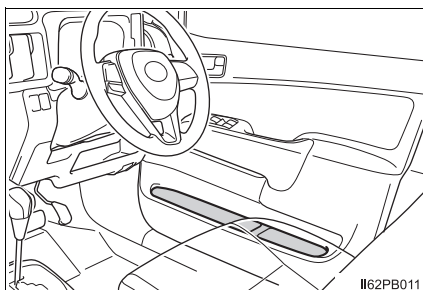
▶ センターコンソールトレイ



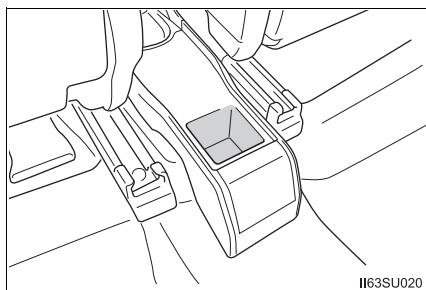
▶ 運転席ロアポケット



▶ ドアポケット



▶ センターコンソール小物入れ

**⚠ 警告**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出すなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センターコンソールトレイには、転がりやすいものなど不安定なものを置かない
- センターコンソールトレイにかばんなどを置く場合、走行中やブレーキをかけたときなどに、不安定にならないようにする
- ポケットには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かない

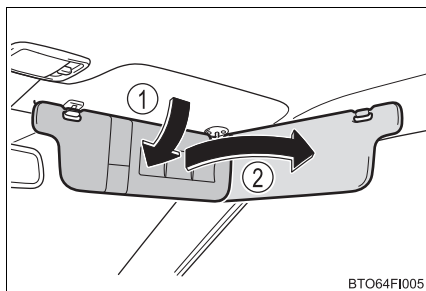
 注意

- センターコンソール小物入れはカップホルダー・ボトルホルダーとして使用しないでください。
飲み物などをこぼすとパーキングブレーキの故障へとつながるおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

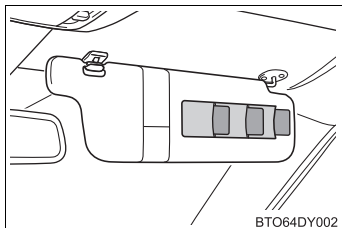
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



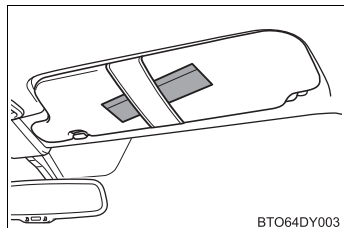
BTO64FI005

知識

■ チケットホルダー（運転席側）



BTO64DY002



BTO64DY003

アクセサリソケット・アクセサリコンセント★

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

アクセサリソケット：

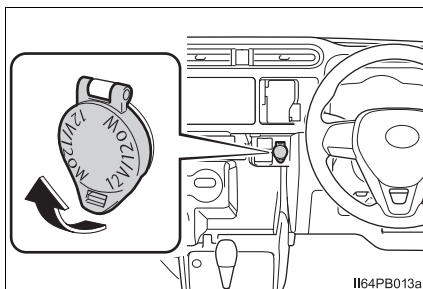
DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品

アクセサリコンセント：

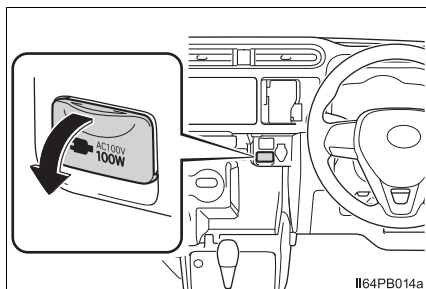
AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

▶ アクセサリソケット

▶ アクセサリコンセント



フタを開ける



フタを開ける

知識**■ 作動条件**

▶ アクセサリソケット

パワースイッチが“ACC” または “ON” のとき

▶ アクセサリコンセント

パワースイッチが “ON” のとき

■ ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ ショートや故障を防ぐために**

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために**▶ アクセサリーソケット**

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）をこえる電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力が 100W をこえる電気製品は使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケット・アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 / 60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

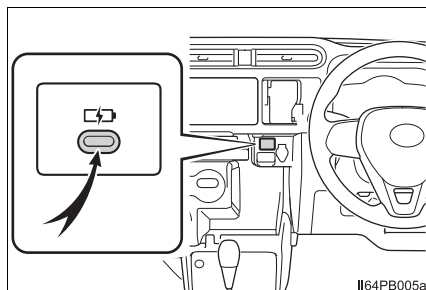
充電用 USB Type-C 端子

DC5V/3A（消費電力 15W）の電源としてお使いください。

この USBType-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB Type-C 端子を使用するには



知識

■ 充電用 USB Type-C 端子の作動条件

パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ 充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A（消費電力 15W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

 注意**■ 充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために**

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

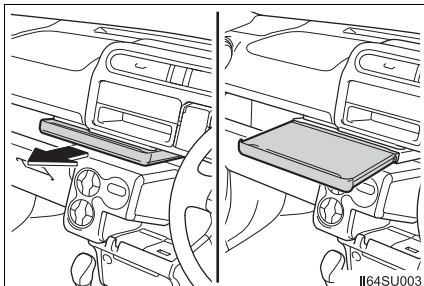
■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

インパネテーブル

引き出す

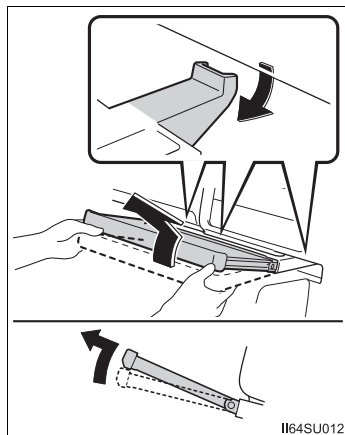
停車しているときに、引き出して使用してください。



知識

- インパネテーブルは、弁当の置き場所、車内での伝票書き、小型パソコンでの作業などに使用できます。
- インパネテーブルの奥にコインやカードなどが入り込んだ場合は、インパネテーブルを次のように取りはずし、入り込んだ物を取り出すことができます。

- 1 テーブルをすべて引き出す
- 2 上方向に力をかけながら手前に引き抜く
テーブルのツメ (3ヶ所) がストッパーからはずれます。



 警告

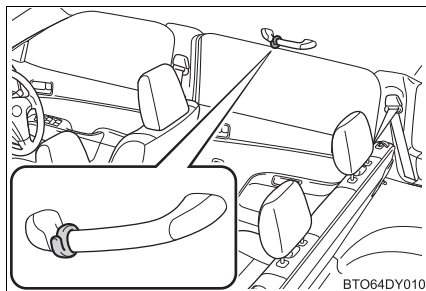
- 走行中は、インパネテーブルを必ず格納してください。
急ブレーキや急旋回時などに、テーブルに体があたったり、テーブルの上に置いているものが落ちたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- インパネテーブルにもたれかからないでください。
テーブルが破損し、けがをするおそれがあります。

 注意

- 破損を防ぐために、インパネテーブルに 10kg をこえるものを置いたり、過度の負荷をかけないでください。
- コインやカードなどを上に置いたまま、インパネテーブルを格納しないでください。
コインやカードなどが中に入り込んで取れなくなるおそれがあります。
(→ P. 302)

コートフック

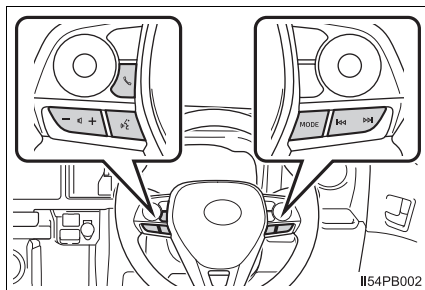
リヤの運転席側に付いています。



ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



⚠ 警告

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	308
内装の手入れ.....	312

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	314
ガレージジャッキ	317
ウォッシャー液の補給	318
タイヤについて	319
タイヤ空気圧について	323
エアコンフィルターの 交換	325
駆動用電池冷却用吸入口の 清掃	328
ワイヤレスキーの電池交換 ...	331
ヒューズの点検・交換	334
電球（バルブ）の交換	337

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかけてください。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

 知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラー・アンテナを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

 警告**■洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■フロントウィンドウガラスの前方センサー取り付け部について (Toyota Safety Sense 装着車)

→ P. 171

■リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- PKSB
- クリアランスソナー
- Toyota Safety Sense

 注意**■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

 注意**■ 高圧洗浄機を使うときは**

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラ★やカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。
水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により性能が劣化したり、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなどの樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

■ アンテナの損傷を防ぐために

→ P. 120

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→ P. 65)
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 35)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

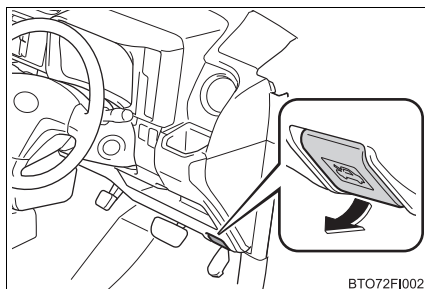
■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

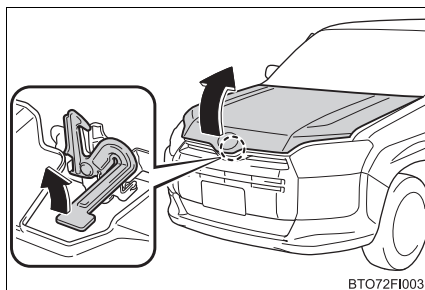
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

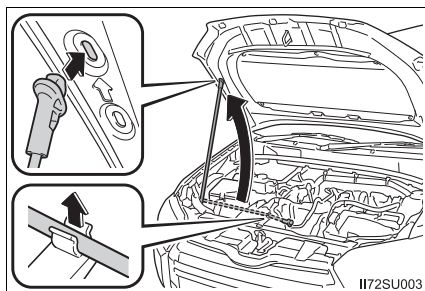
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

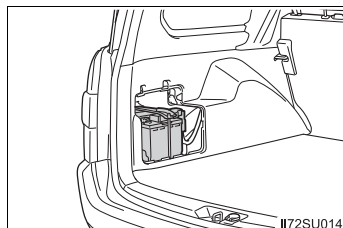


 知識

■ 補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（助手席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 391）

 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

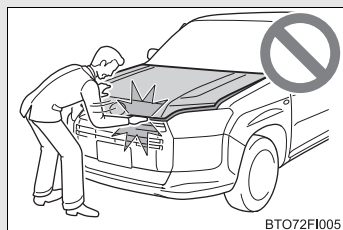
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



 注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

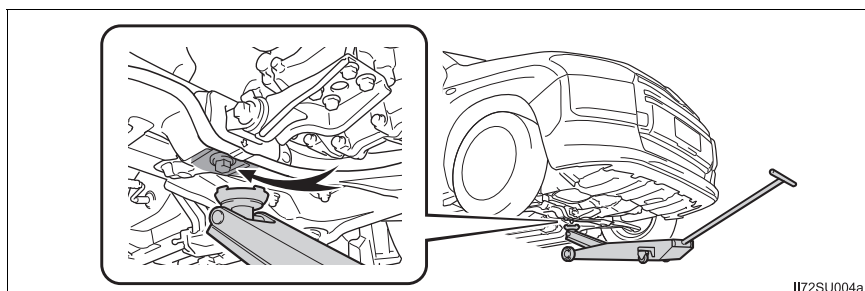
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

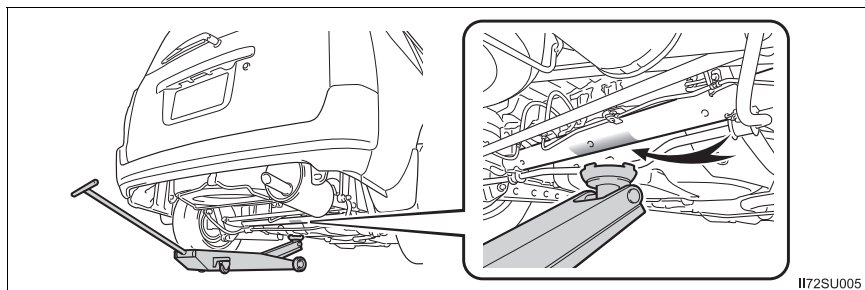
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側

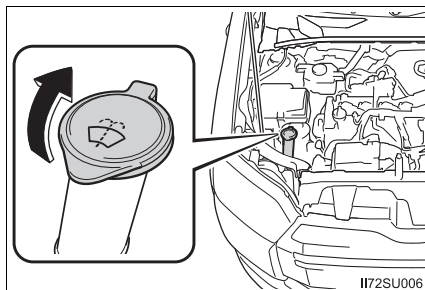


◆ リヤ側



ウォッシャー液の補給

タンク側面から液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けてウォッシャー液を補給する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補給するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補給しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付いたり、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

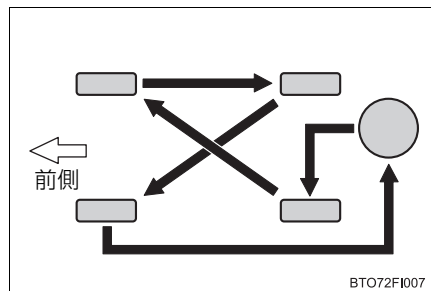
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



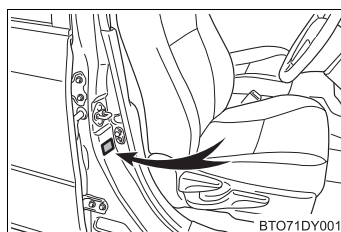
 知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)			
	前輪		後輪	
	空荷時	積荷時 ※	空荷時	積荷時 ※
155/ 80R14 88/86S LT	220 (2.2)	240 (2.4)	230 (2.3)	290 (2.9)

※ 100kg 以上または 4 名乗車以上

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。（→ P. 387）
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 407)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

- 1 パワースイッチを“LOCK”にする

- 2 開閉式ワイドフリーラックの開閉口を広げ、上部・下部のツメをはずして取りはずす

① 上部左側のツメを取りはずす

② 上部右側のツメを取りはずす

③ 下部のツメを取りはずす

上部のツメをはずすときは、開閉式ワイドフリーラック側面の「PUSH」の部分の内側に押し込んでください。

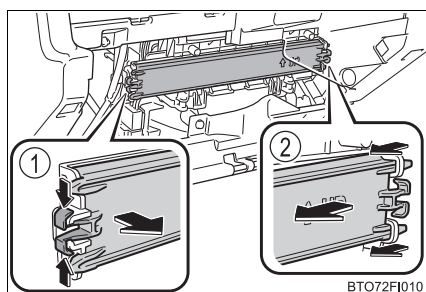
上部左側のツメをはずした状態で、上部右側のツメをはずしてください。



- 3 フィルターカバーを取りはずす

① カバーの固定を解除する

② カバーを矢印の方向にずらして抜く

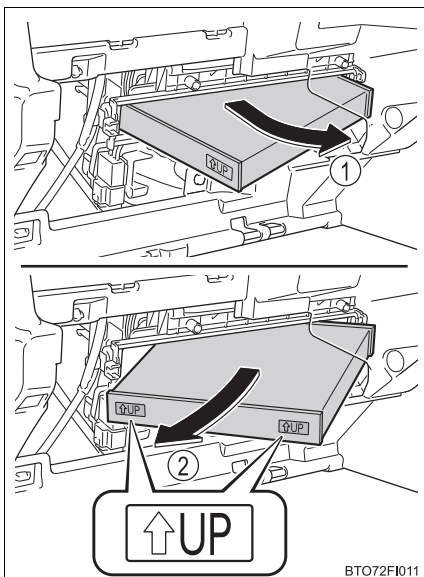


4 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

① 車両内側へまわすように引き出す

フィルターの左側面がすべて出るまで引き出してください。

② 車両外側へまわすように取りはずす



BTO72FI011

5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付け

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

 知識

■ **フィルターの交換について**

フィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km [10,000km[※]] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ **エアコンの風量が減少したときは**

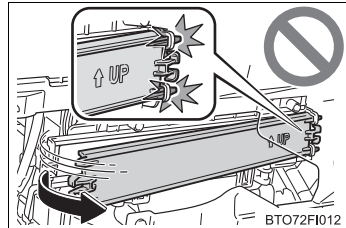
フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意**■ エアコンを使用するときの注意**

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーを取りはずすときは

フィルターカバーの固定を解除するために矢印の方向に動かすときは、カバー右端を固定している部分に無理な力がかからないよう注意してください。
破損するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口の清掃

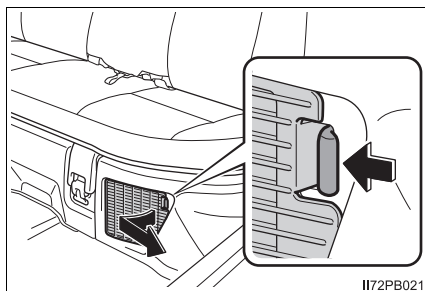
燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

清掃のしかた

- 1 パワースイッチを“LOCK”にする

- 2 吸入口カバーを取りはずす

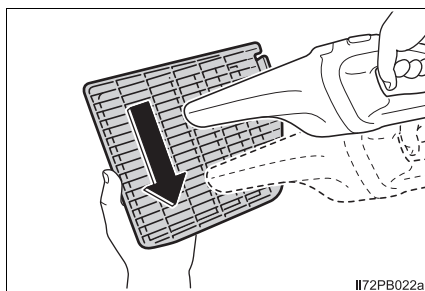
ツメを押しながら、吸入口カバーを手前に引いて取りはずしてください。



II72PB021

- 3 吸入口カバーからほこりや砂などを取り除く

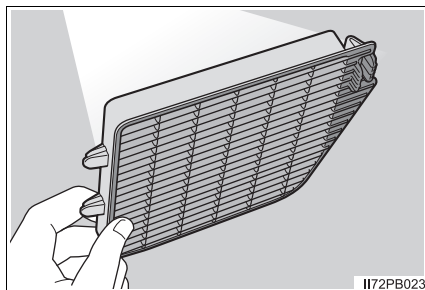
掃除機などを使用して、軽くなぞるように吸引してください。



II72PB022a

- 4 吸入口カバーを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。



II72PB023

- 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

▶ メンテナンス・点検警告灯が点灯していたとき

6 ハイブリッドシステムを始動し、警告灯が消えたことを確認する

警告灯が再度表示され、表示が消えるまで約 20 分ほど走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識

■ 定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000 km ごとを目安に吸入口カバーを清掃してください。

■ 吸入口の清掃について

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 吸入口カバーのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

 警告

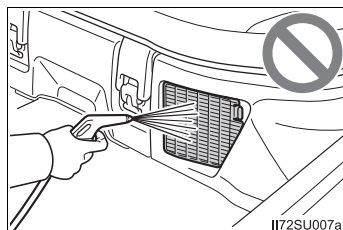
■ 吸入口の清掃をするときは

- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを“LOCK”にしてハイブリッドシステムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■ 吸入口の清掃をするときは**

エアブローなどを使用しないでください。

ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

**■ 車両の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

- 吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 清掃後は、必ず吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用の吸入口カバー以外のものを吸入口に取り付けたり、吸入口カバーを取りはずした状態で車を使用したりしない

■ 吸入口カバーの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。

吸入口カバーが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しい吸入口カバーに交換してください。

- エアブローなどを使用しない
- 掃除機などを吸入口カバーに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない

■ メンテナンス・点検警告灯が点灯したとき

すみやかに清掃してください。

警告灯が点灯している状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

ワイヤレスキーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

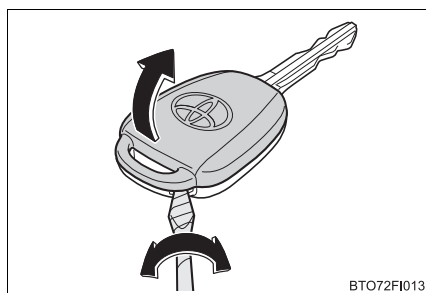
- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR2016

電池交換のしかた

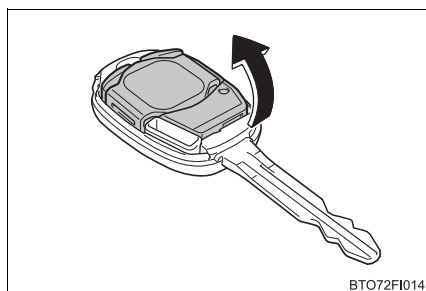
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

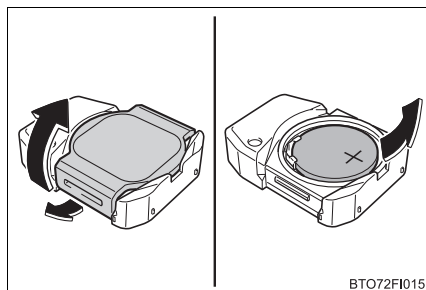


2 モジュールを取り出す



3 モジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR2016 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ ワイヤレスキーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- ワイヤレスキーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 注意**■交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

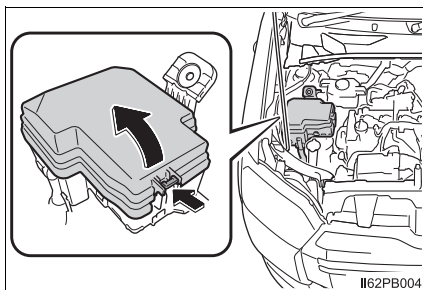
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

① パワースイッチを“LOCK”にする

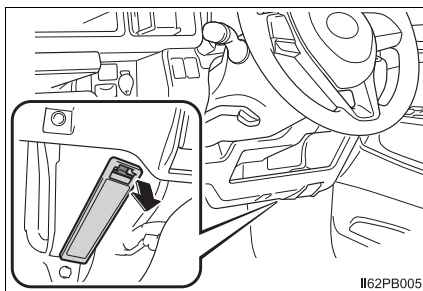
② ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（運転席側）



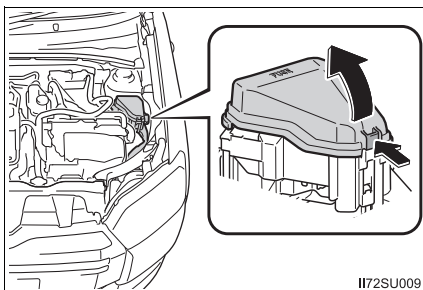
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 運転席足元



カバーをはずす

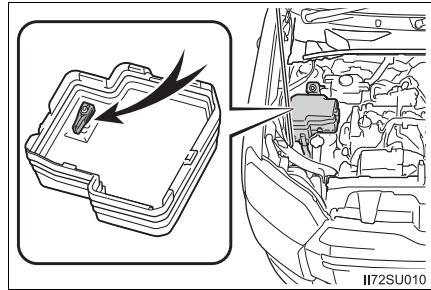
▶ エンジンルーム（助手席側）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

3 ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしは、エンジンルーム（運転席側）にあるヒューズボックスのカバーに付いています。

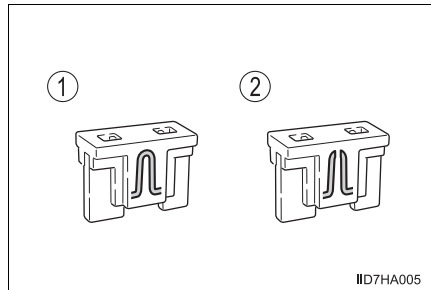


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 337）
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

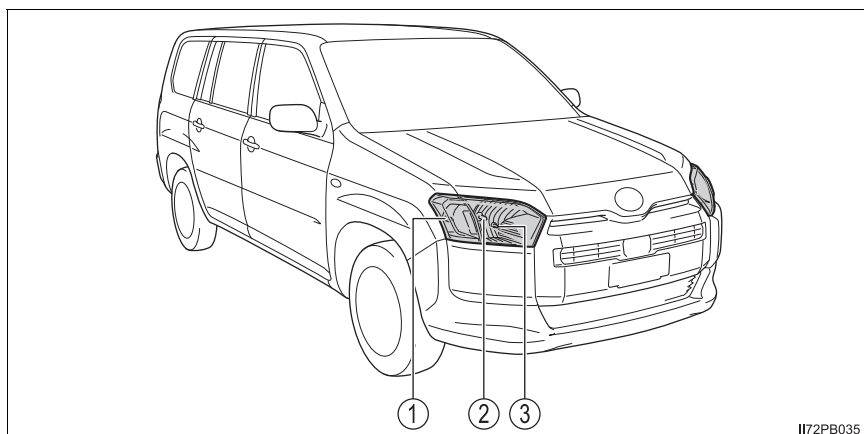
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 408）

バルブ位置

■ フロント

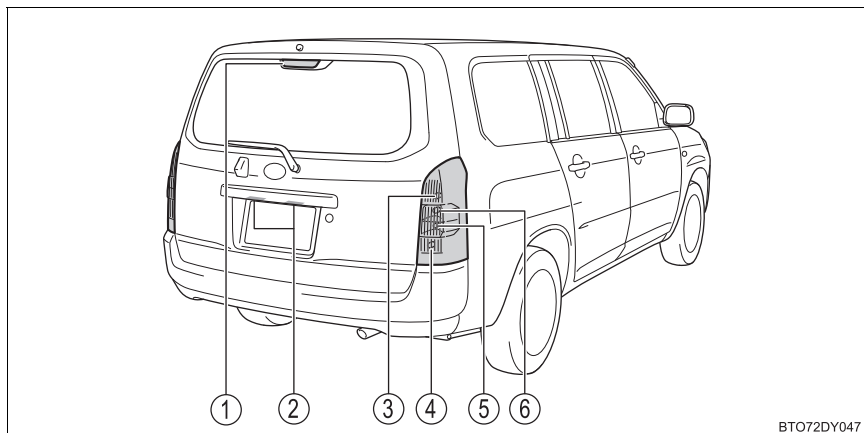


① フロント方向指示灯／
非常点滅灯

② ヘッドランプ

③ 車幅灯

■ リヤ



BTO72DY047

① ハイマウントストップランプ

② 番号灯

③ 制動灯／尾灯

④ リヤフォグランプ★

⑤ 後退灯

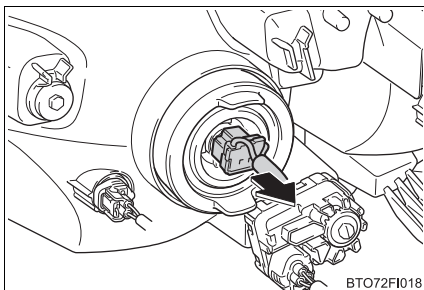
⑥ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

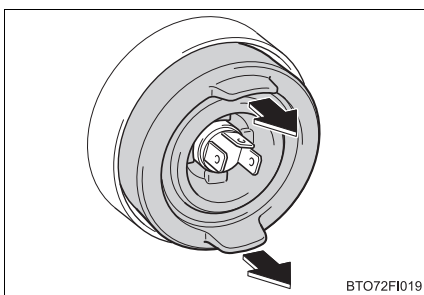
電球交換のしかた

■ ヘッドランプ

- 1 ボンネットを開け、コネクターを取りはずす

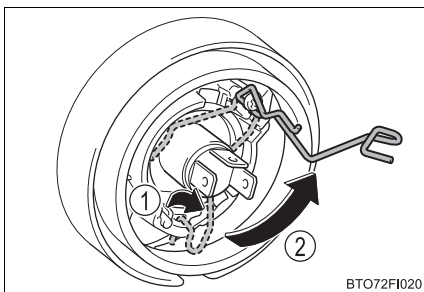


- 2 ゴムカバーを取りはずす

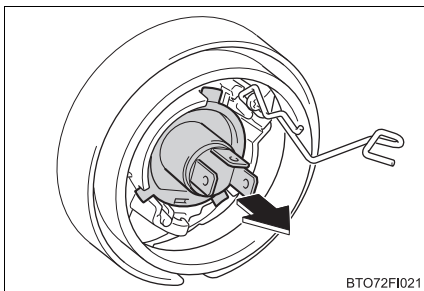


- 3 留め金をはずす

- ① フックからはずす
- ② 開く



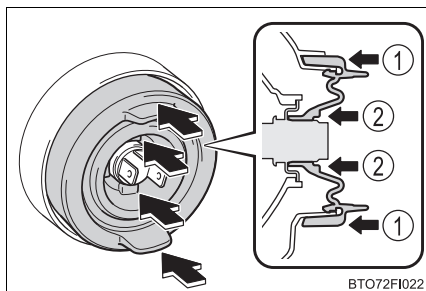
- 4 電球を取りはずす



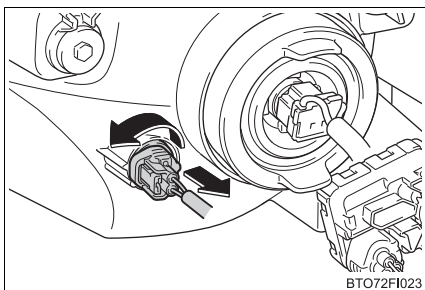
- 5 新しい電球を取り付け、留め金をかける

6 ゴムカバーを取り付ける

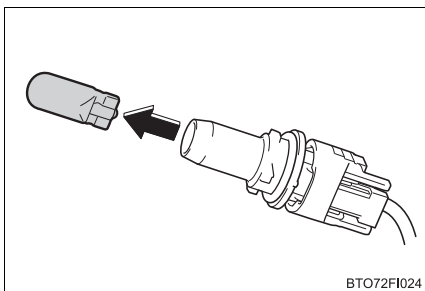
- ① 外周をしっかりとめ込む
- ② 内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む

**7** コネクターを取り付け、ボンネットを閉める**■ 車幅灯**

- 1** ボンネットを開け、ソケットを取りはずす



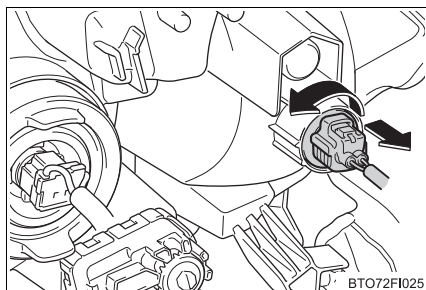
- 2** 電球を取りはずす



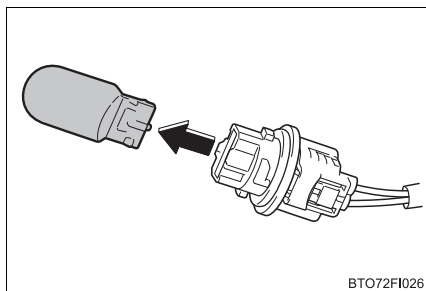
- 3** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

- 1 ボンネットを開け、ソケットを取りはずす



- 2 電球を取りはずす

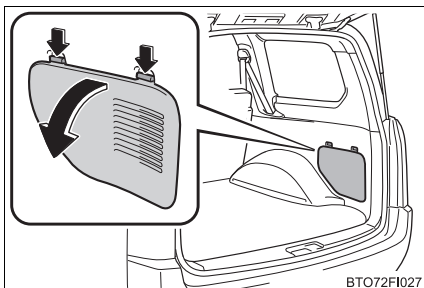


- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

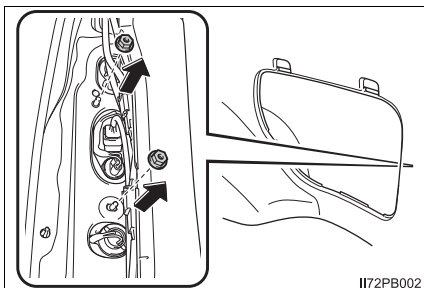
■ 制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯・リヤフォグランプ★

交換には、トヨタ販売店で部品（ガスケット）の購入が必要となります。交換作業が難しいと感じられる場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

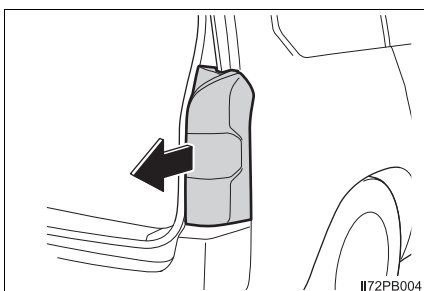
- 1 バックドアを開け、カバーを取りはずす



- 2 ナット（2 個）をはずす

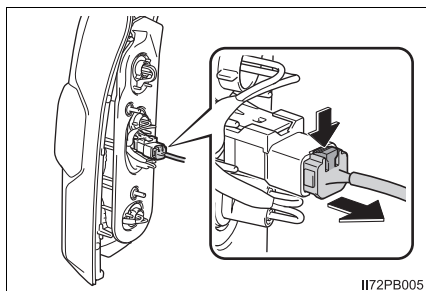


- 3 ランプ本体を手前に引き出し取りはずす



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

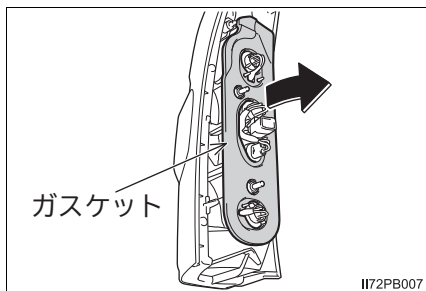
4 コネクターを取りはずす



5 ガasketをはがす

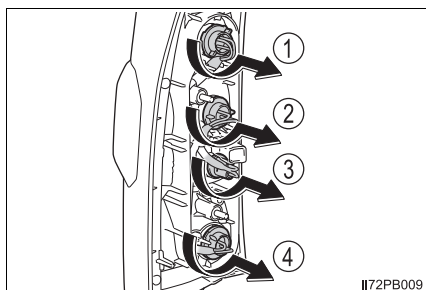
確実にもとの状態にもどせるように
ガスケットをはがす前には、ガス
ケットの貼り付け位置をよく確認し
ておいてください。

また、ボデー側に残ったガスケット
はすべてはがしてください。



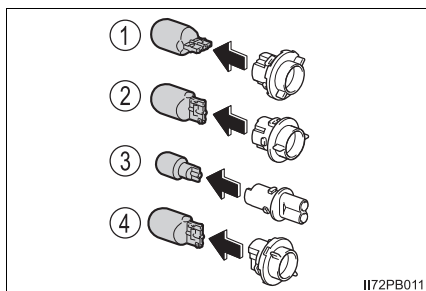
6 ソケットを取りはずす

- ① 制動灯／尾灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅
灯
- ③ 後退灯
- ④ リヤフォグランプ★



7 電球を取りはずす

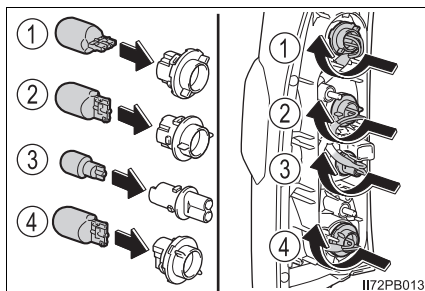
- ① 制動灯／尾灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅
灯
- ③ 後退灯
- ④ リヤフォグランプ★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

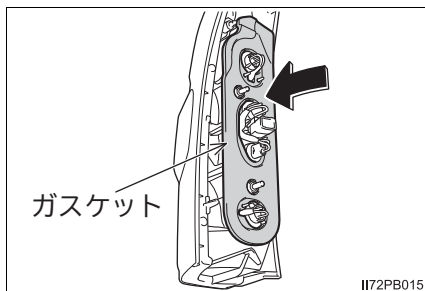
- 8 新しい電球を取り付け、ソケットを取り付ける

- ① 制動灯／尾灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ③ 後退灯
- ④ リヤフォグランプ★

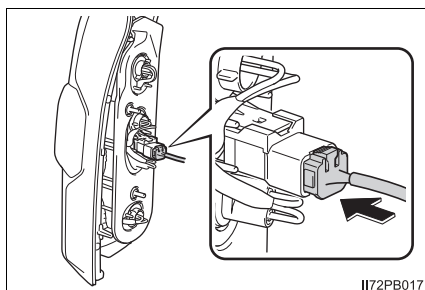


- 9 新品のガスケットを貼り付ける

手順 5 で確認した貼り付け位置に確実に貼り付けてください。



- 10 コネクターを取り付ける



- 11 ランプ本体を取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

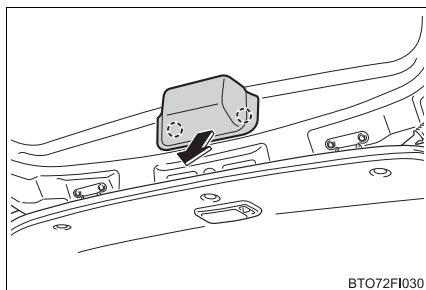
ボデーとのあいだに配線が挟まっていないことを確認の上、突起部をしっかりとめ込んでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

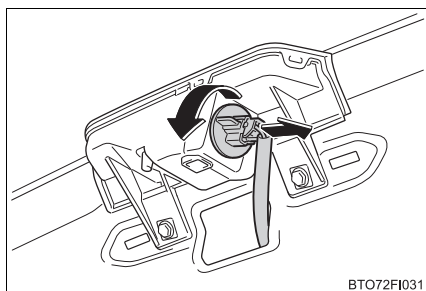
■ ハイマウントストップランプ

- 1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

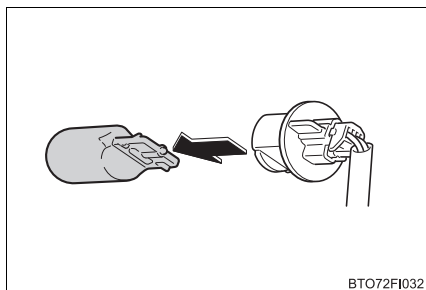
カバー裏に固定具（2 個）があります。



- 2 ソケットを取りはずす



- 3 電球を取りはずす



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

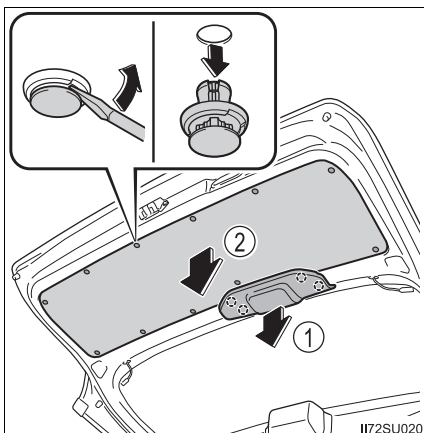
- 1 バックドアを開け、カバーと内張りを取りはずす

① カバー裏に固定具（4 個）があります。

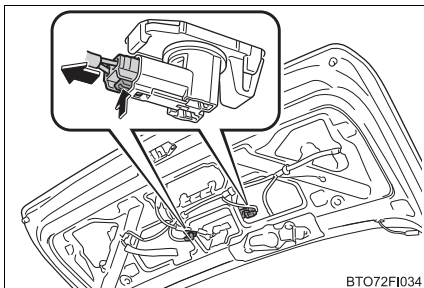
② クリップ（11 個）をはずします。

マイナスドライバーで中央部を引き出し、クリップを引き抜きます。

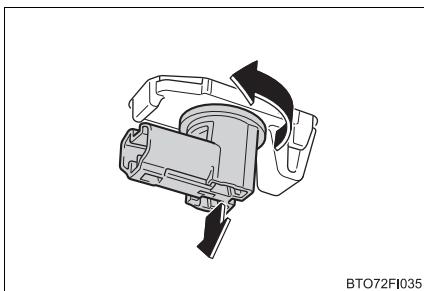
クリップをはずすときは、内張りが落下しないように、手で支えてください。



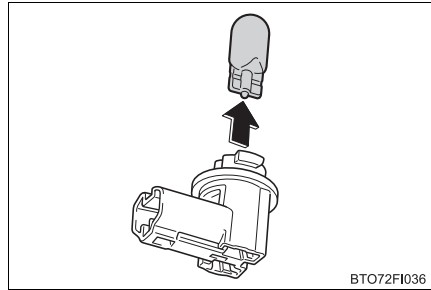
- 2 コネクターを取りはずす



- 3 ソケットを取りはずす



4 電球を取りはずす



BTO72FI036

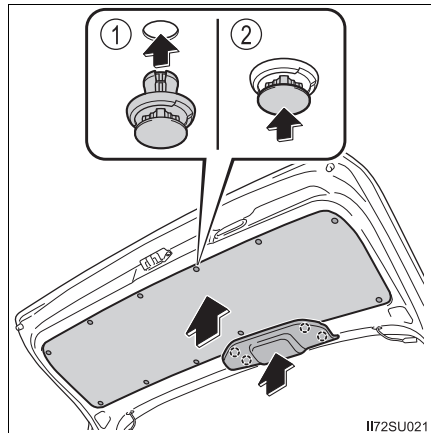
5 新しい電球を取り付け、ソケットを取り付ける

6 コネクターを取り付ける

7 内張りとカバーを取り付け、バックドアを閉める

① クリップを挿し込む

② 中央部を押す



II72SU021

■ サイド方向指示灯／非常点滅灯の電球が切れたときは

トヨタ販売店で交換してください。

知識

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

⚠ 警告

■電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

⚠ 注意

■制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯／リヤフォグランプ★の交換について

制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯／リヤフォグランプ★の交換には、新品のガスケットが必要となります。ガスケットをはがすときは、次のことをお守りください。ランプ内へ水が浸入するおそれがあります。

- 一度でも使用したガスケットは絶対に再使用しないでください。
- ガスケットを貼り付けるときは、制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯／リヤフォグランプ★の交換手順 **5** で確認した貼り付け位置に確実に貼り付けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	350
非常点滅灯 (ハザードランプ)	351
発炎筒	352
車両を緊急停止するには	354
水没・冠水したときは	356
車中泊が必要なときは	357

7-2. 緊急時の対処法

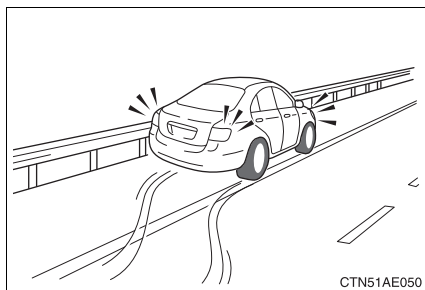
けん引について	358
警告灯がついたときは	365
警告メッセージが 表示されたときは	370
パンクしたときは	379
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	390
補機バッテリーが あがったときは	391
オーバーヒートしたときは ...	397
スタックしたときは	401

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

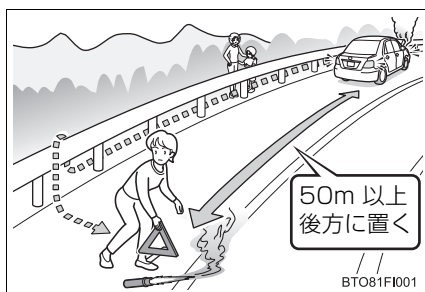
非常点滅灯（→ P. 351）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

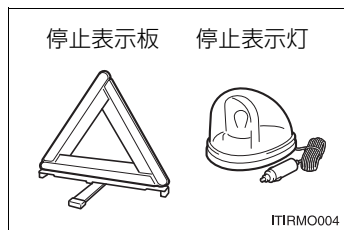
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 352）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

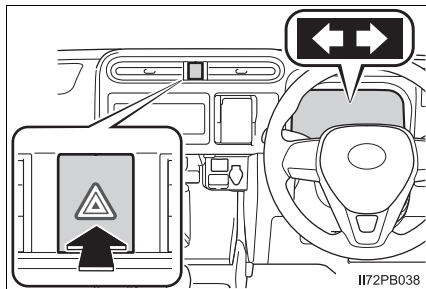


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

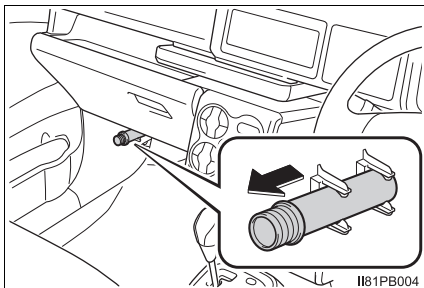
■非常点滅灯について

- ハイブリッドシステムが停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

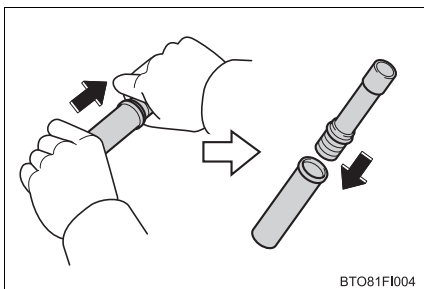
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す

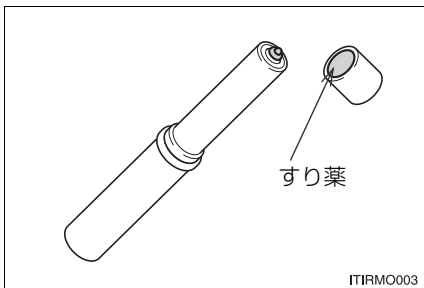


- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けて
しないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告**■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

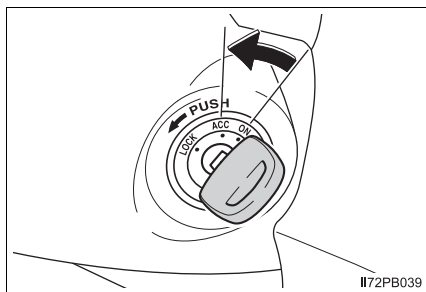
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
 - ▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 ハイブリッドシステムを停止する
 - ▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 パワースイッチを“ACC”にして、ハイブリッドシステムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

知識

■緊急停止したときは

補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

**警告****■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは**

- 走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。

車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスとリヤウィンドウガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- 詳しい注意事項などを以下のURLで確認することができます。

[https://www.toyota.co.jp/ipn/
sustainability/social_contribution/
tdrs/emergency](https://www.toyota.co.jp/ipn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency)



けん引について

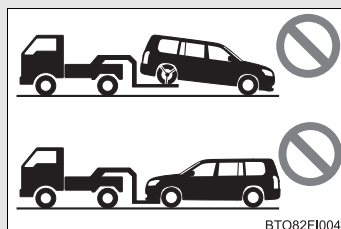
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

！ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを“LOCK” にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けしていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■車両の損傷を防ぐために**

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）（寒冷地仕様車の助手席側）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

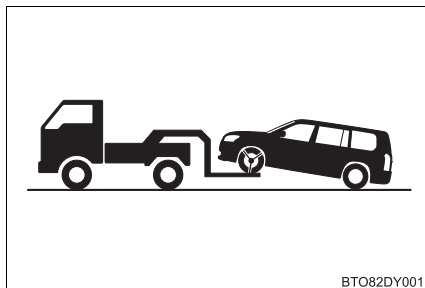
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステム異常警告灯が点灯し、車が動かない
- 異常な音がする

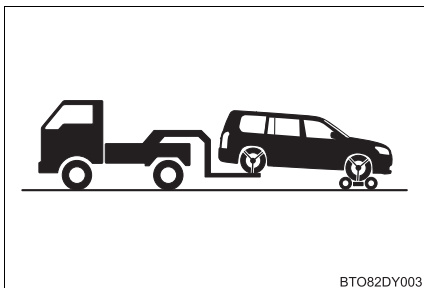
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

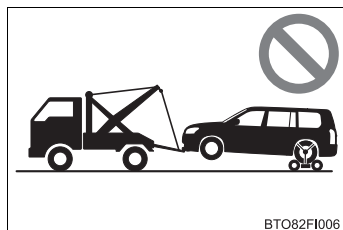
▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

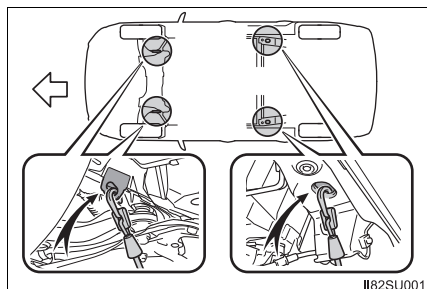
⚠ 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

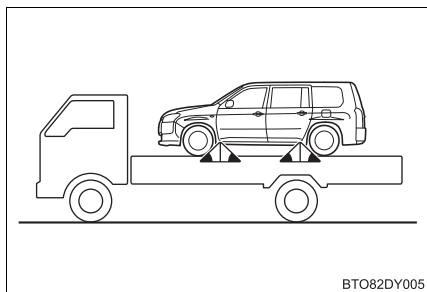


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の
場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両
を固縛する場合は図に黒く示す角
度が 45° になるように固縛する



上記の方法で固縛できない場合は、タイヤ固縛ベルトを使用してください。

⚠ 注意**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

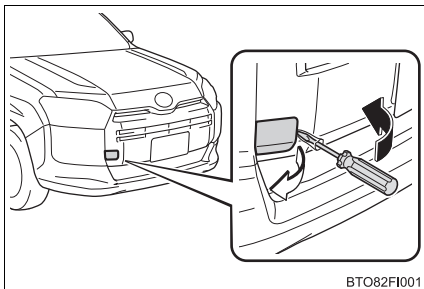
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

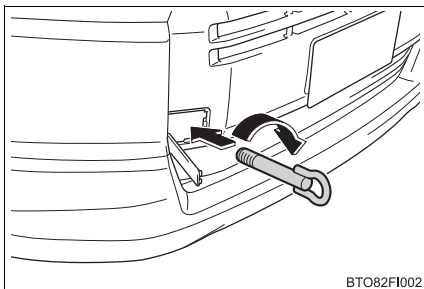
- 1 ホイールナットレンチ・けん引フックを取り出す (→ P. 380)

- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

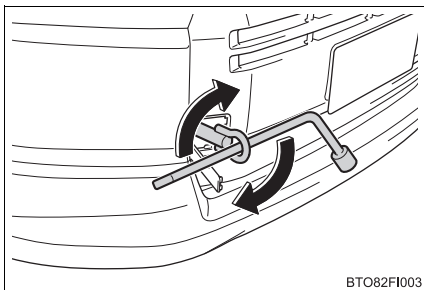
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



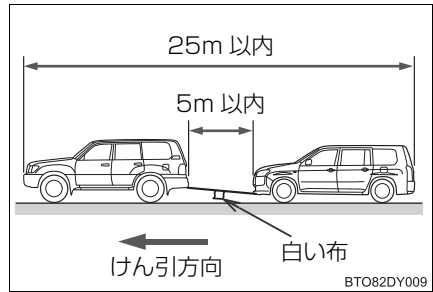
- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方（30cm×30cm）以上



- 7** 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する
ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを“ON”にしてください。

- 8** けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 146

 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

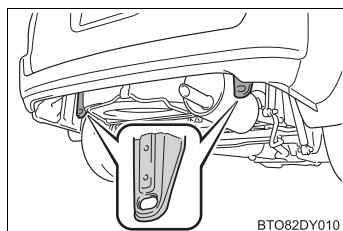
■ホイールナットレンチについて

工具袋に収納されています。(→ P. 380)

■輸送用フックについて

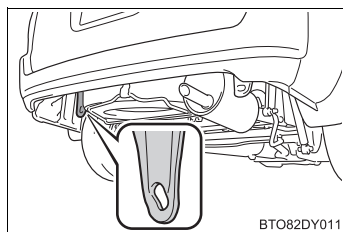
このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。

(寒冷地仕様車の助手席側は、緊急用フックとして使用することができます)



■リヤ側けん引フックについて(輸送用フック／緊急用フック)(寒冷地仕様車の助手席側)

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するために、または雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯（警告ブザー ※¹） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
	油圧警告灯（警告ブザー） エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
	高水温警告灯 エンジン冷却水高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、「オーバーヒートしたときは」（→ P. 397）に従ってください。
	エンジン警告灯 ・ ハイブリッドシステムの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (赤色／黄色)	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	スリップ表示灯 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC・ABS の作動時には、点滅します。(→ P. 261) → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	PCS 警告灯（警告ブザー） PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。
 (黄色)	AHB 表示灯 AHB（オートマチックハイビーム）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
 (黄色)	LDA 表示灯（警告ブザー） LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
 (黄色)	LTA 表示灯（警告ブザー） LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
 (黄色)	PDA 表示灯（警告ブザー） PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (黄色)	クルーズコントロール表示灯 (警告ブザー) クルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
 (黄色)	レーダークルーズコントロール表示灯 (警告ブザー) レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
	運転支援情報表示灯 次のシステムに異常が考えられます。 ・ PCS (プリクラッシュセーフティ) ・ LDA (レーンディパーチャーアラート) → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 次のシステムのいずれかが異常、停止、または設定が OFF になっています。 ・ PKSB (パーキングサポートブレーキ) → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
	クリアランスソナー OFF 表示灯 (警告ブザー) クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
	ペダル誤操作警告灯 (警告ブザー) ブザーが鳴った場合： ・ ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ ドライブスタートコントロールの異常 ・ ドライブスタートコントロール作動時 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 6.3 L 以下になった → 燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2） 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
 （黄色）	電子制御ブレーキ警告灯 ・ 回生ブレーキシステムの異常 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	駆動用電池残量低下警告灯（警告ブザー） 一定時間シフトレバーがNになっているため駆動用電池が充電できず駆動用電池の残量が低下した → 停車するときはシフトレバーをPにする → READY インジケーターが消灯しているときは、シフトレバーをPにしてハイブリッドシステムを再始動する
	ハイブリッドシステム過熱警告灯（警告ブザー） ハイブリッドシステムの過熱 → 安全な場所に停車し、対処方法（→ P. 399）に従ってください。

※1 ブレーキ警告ブザー：

ブレーキ液が不足しているときに車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※2 シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

 注意

■ 充電警告灯がひんぱんに点滅するときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりをおこすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

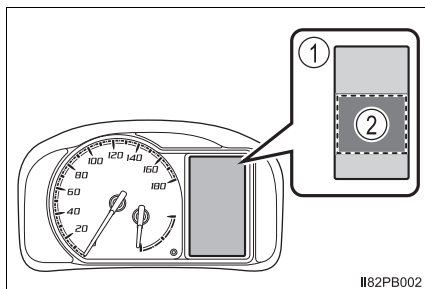
警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

- ① マルチインフォメーションディスプレイ

- ② 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。



II82PB002

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
—	あり	- 走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 - 車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	- 電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 - 車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、警告ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対処してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、個別の専用警告表示をおこないます。

- 「ABS 故障 販売店で点検してください」が表示されている：
ABS& ブレーキアシスト警告灯が点灯します。(→ P. 366)
- 「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示されている：
充電警告灯が点灯します。(→ P. 365)
- 「EV モードが解除されました」が表示されている：
EV ドライブモード表示灯が点灯します。(→ P. 74)
- 「燃料が少なくなりました」が表示されている：
燃料残量警告灯が点灯します。(→ P. 368)

■「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→ P. 399

■「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示されたときは

- 数秒後※ に表示が消えたときは

約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

- 表示が消えないときは

「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 391）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

■「駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください」が表示されたとき

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

■「駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください」が表示されたとき

一定期間シフトレバーが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを再起動してください。

■「始動時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトレバーが P 以外の状態でハイブリッドシステムを始動しようとしたときにメッセージが表示されます。

シフトレバーを P にしてからハイブリッドシステムを始動してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトレバーが P 以外でパワースイッチを“LOCK” にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時は P にしてください。

■「N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください」が表示されたとき

シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D・B または R にしてください。

■「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたとき

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「充電システム故障」が表示されたとき

充電システムが故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは

● 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。

・「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」
(→ P. 397)

・「補機バッテリー(始動用) 充電不足 取扱書を確認してください」(→ P. 391)

・「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」(→ P. 328)

● 「ハイブリッドシステム故障 安全な場所に停車して取扱書を確認」が表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● 次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・「故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認」

・「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」

● 「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。

・ 駆動用電池冷却用吸入口を清掃する (→ P. 328)

駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります」が表示されたとき

ハンドル操作が非常に重くなる場合があります。ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■シフトレバーの操作を指示するメッセージが表示されたときは

誤操作や車両の意図せぬ動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■「販売店で点検してください」が表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告ブザーについて

→ P. 369

■「機能停止 ソナーに水滴、雪等が付着しています」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「機能故障 販売店で点検」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知機能
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■「機能停止 取扱書を確認」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

画面に表示されているアイコンを確認して、次の対処法に従ってください。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知機能
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）

次の対処法に従ってください。

- ・ 補機バッテリー電圧を確認する
- ・ Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合は取り除いてください。（→ P. 171）
- ・ センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。（→ P. 236）
- ・ センサーとカメラに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてください。（→ P. 232）
- ・ センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

■「機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  LDA (レーンディパーチャーアラート)
-  LTA (レーントレーシングアシスト)
-  AHB (オートマチックハイビーム)
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA (ロードサインアシスト)
-  発進遅れ告知機能
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。
- ・エアコン機能を使って、フロントウインドウガラスの曇りを取り除く。
- ・ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

■「機能停止 前方カメラ作動温度範囲外常温までお待ちください」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  LDA (レーンディパーチャーアラート)
-  LTA (レーントレーシングアシスト)
-  AHB (オートマチックハイビーム)
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA (ロードサインアシスト)
-  発進遅れ告知機能
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
- ・特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
- ・極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

■「機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知機能
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

- ・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→ P. 172）
- ・砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。
車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■「機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知機能
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■「機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知機能
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

- ・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→ P. 172）
- ・レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■「クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。

走行支援スイッチを短く確実に押してください。

⚠ 注意**■「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認してください」がひんばんに表示されるときは**

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 319 を参照してください)

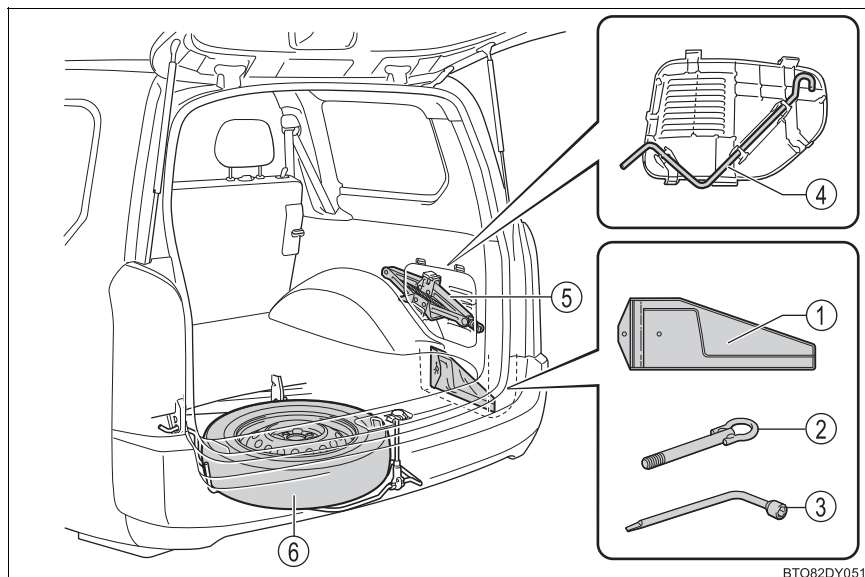
警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 351)

スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置

- | | |
|--------------|------------|
| ① 工具袋 | ④ ジャッキハンドル |
| ② けん引フック | ⑤ ジャッキ |
| ③ ホイールナットレンチ | ⑥ スペアタイヤ |

 警告**■ ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

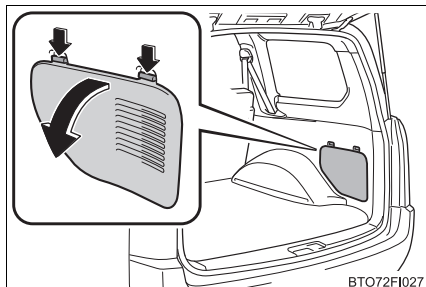
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使
用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に
使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり
車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけ
てから下げる

工具・ジャッキの取り出し方

- 1 ツメを押しながら、カバーを取りはずす**

カバーの裏側にジャッキハンドルが取り付けられています。(→ P. 380)

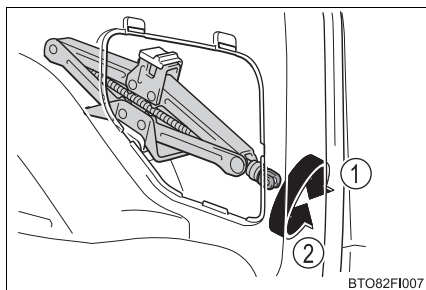
裏側のスペースに工具袋が収納されています。(→ P. 380)



- 2 ジャッキをゆるめて取りはずす**

- ① 締まる
- ② ゆるむ

使用後はもとの位置にもどし、確実に固定してください。



知識

■ 停止表示板の収納について

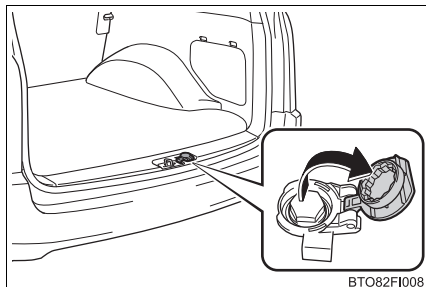
カバー裏側のスペースに停止表示板を収納することができます。

ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

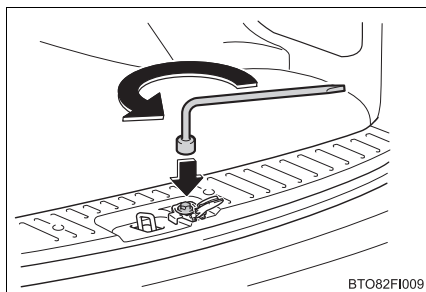
警告

■ カバー裏側のスペースについて

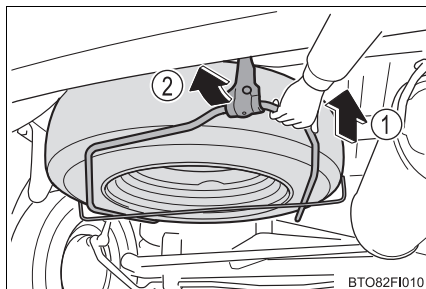
- カバー裏側のスペースには、換気用の弁が取り付けられています。次の理由から工具袋・停止表示板以外のものを収納しないでください。
 - ・ 荷物が弁をふさぎ、換気性能が悪化し、ドアの閉りが悪くなるおそれがあります。
 - ・ 荷物が弁が押し開かれたままの状態になり、車内に排気ガスが侵入したり水が浸入するおそれがあります。
- 工具袋は、収納スペースの最深部に横向きにして収納してください。

スペアタイヤの取り出し方**1** カバーを開ける**2** スペアタイヤ格納具がフックからはずせる程度にボルトをゆるめる

ボルトをゆるめすぎると、格納具が落下するおそれがあるため注意してください。

**3** スペアタイヤ格納具を少し持ち上げ (①)、フックを手前に引いてはずす (②)

格納具が落下しないように、手でしっかり支えてください。

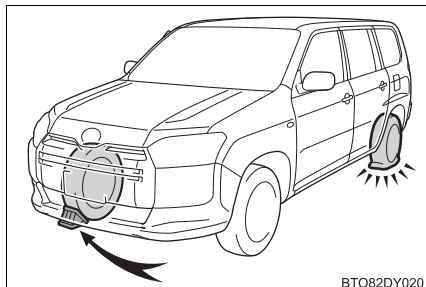
**4** スペアタイヤ格納具を地面に降ろして、スペアタイヤを取り出す**5** スペアタイヤ格納具をいったんもとにもどす

格納具をフックにかけ、ボルトを締め付けてもとにもどします。
スペアタイヤを格納するときは：→ P. 388

パンクしたタイヤの取りはずし

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

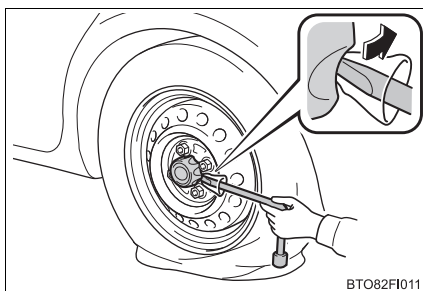


BTO82DY020

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪のうしろ
	右側	左側後輪のうしろ
後輪	左側	右側前輪の前
	右側	左側前輪の前

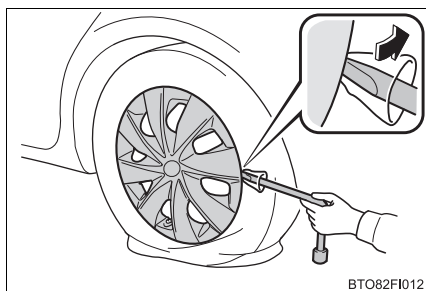
2 ホイールキャップをはずす

▶ センターキャップ装着車



BTO82FI011

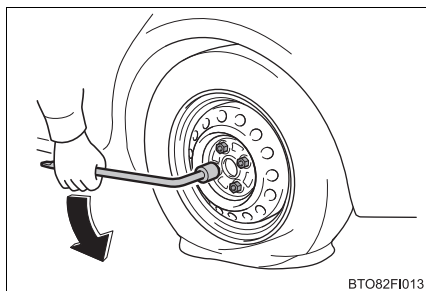
▶ フルキャップ装着車



BTO82FI012

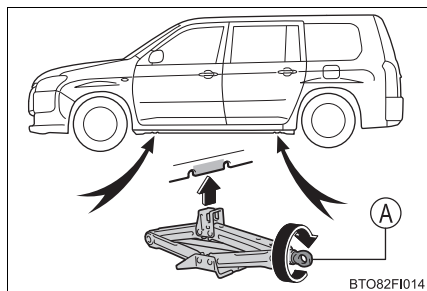
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。

3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

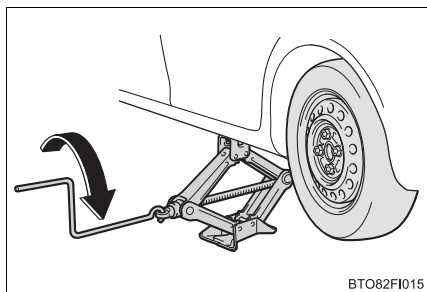


BTO82FI013

- 4 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

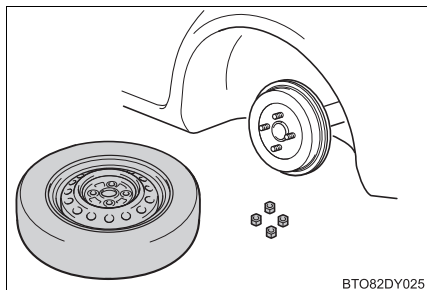


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



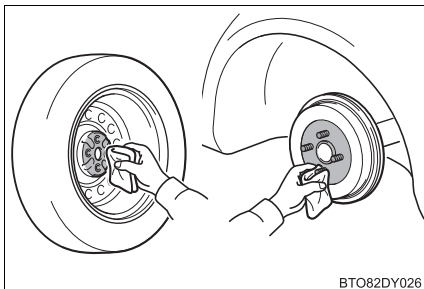
 警告**■タイヤ交換について**

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
 - ・ スペアタイヤ格納具を操作するときは、可動部分やスペアタイヤのあいだに手や足などを挟まないように注意する
 - ・ スペアタイヤ格納具を降ろす、または持ち上げるときは、足の上などに落とさないよう、手でしっかり支える
 - ・ スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
 - ・ ホイールキャップは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパ部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

- 1** ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

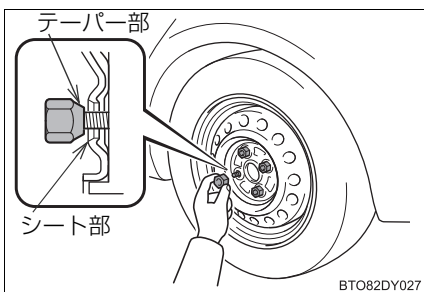


BTO82DY026

- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

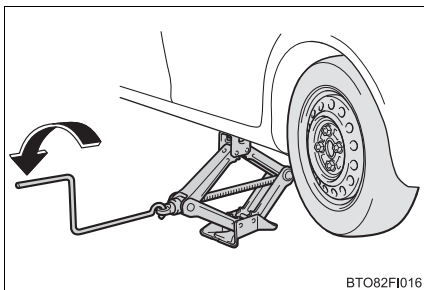
ホイール取り付けボルト・ナットのねじ部・ナットのテーパ部（テーパ部）の汚れ、異物を取り除いてください。

ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



BTO82DY027

- 3** 車体を下げる

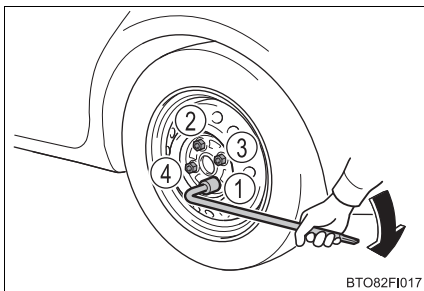


BTO82FI016

- 4** ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

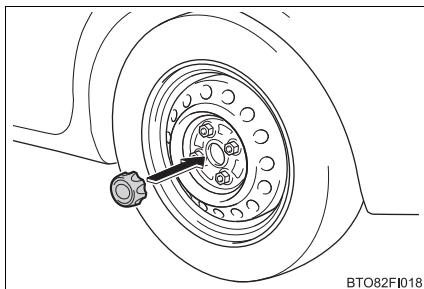
103 N・m (1050 kgf・cm)



BTO82FI017

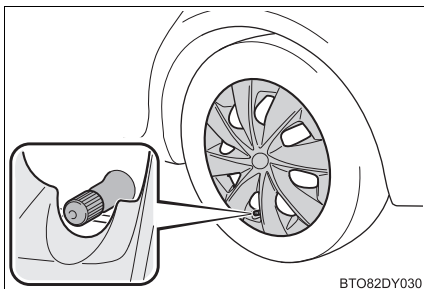
5 ホイールキャップを取り付ける

▶ センターキャップ装着車



BTO82FI018

▶ フルキャップ装着車



BTO82DY030

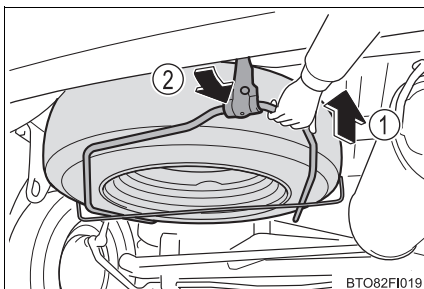
タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを格納する

スペアタイヤの格納

- 1 スペアタイヤ格納具にタイヤを載せて持ち上げ（①）、フックをかけてボルトを締め付ける（②）
フックを格納具にかけるときは、はずした場所と同じ位置にかけてください。

格納具に載せたタイヤががたつかないことを確認してください。

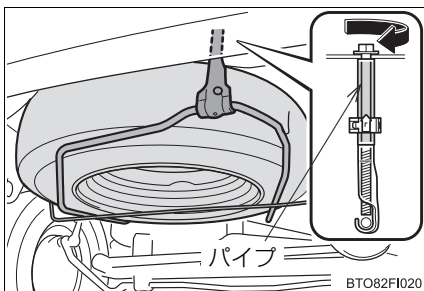


BTO82FI019

- 2 パイプががたつかなくなるまでボルトを締め付けたあと、さらに1/4回転以上締め付ける

参考：締め付けトルク

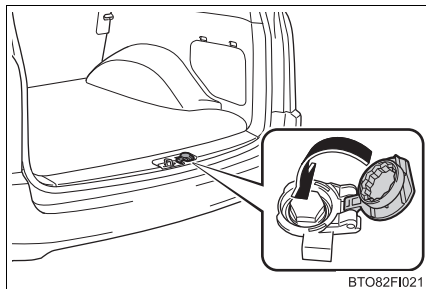
16.2 N・m (165.3 kgf・cm) 以上



BTO82FI020

3 カバーを閉める

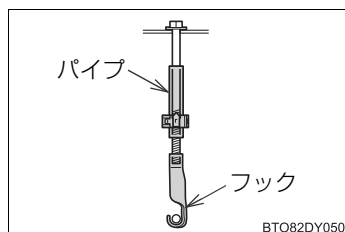
カバーを閉めたあとは、ボルト回転方向にゆさぶり、ボルトの先端に確実にハマっていることを確認してください。

**知識****■ スペアタイヤについて**

空気圧を必ず点検してください。(→ P. 407)

■ スペアタイヤ格納具のフックについて

スペアタイヤ格納具を降ろす際に、ボルトをゆるめすぎてフックが脱落した場合は、図のようにパイプが入っているのを確認してからフックを取り付けてください。

**⚠ 注意****■ スペアタイヤを格納するときは**

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。
固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。
- インパクトレンチを使用する場合は、締めすぎに注意し、本締めはホイールナットレンチで行ってください。
インパクトレンチで本締めを行うと、格納具を損傷するおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことを確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 138）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 70）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 391）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
（→ P. 315）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーン鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 391）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
（→ P. 315）

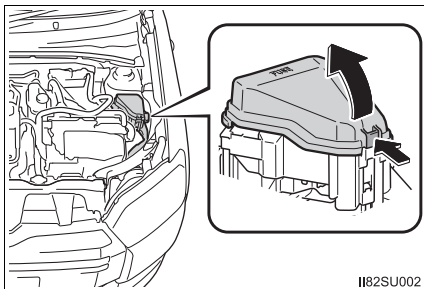
対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

補機バッテリーがあがったときは

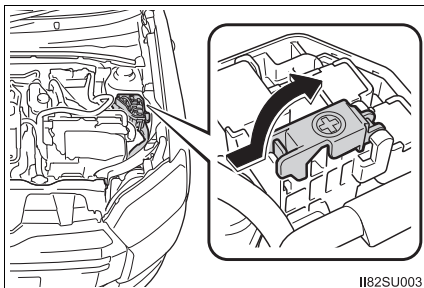
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

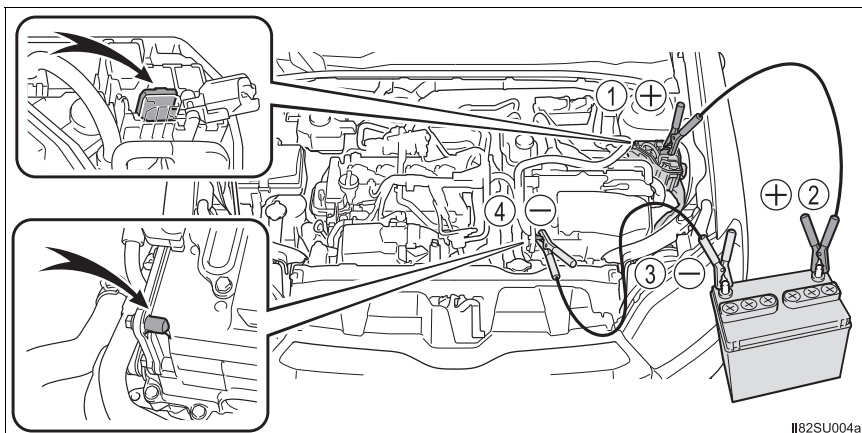
- 1 ボンネットを開け、ヒューズボックスのカバーをはずす
→ P. 334



- 2 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける
ツメを軽く引きながら、カバーを開けます



3 ブースターケーブルを次の順につなぐ



II82SU004a

- ① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、図に示す金属部につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所へ届くものを使用してください。

- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する
- 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん“ON”にしてからハイブリッドシステムを始動する
- 6 READY インジケータが点灯することを確認する
点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。
- 7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
- 8 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ヒューズボックスのカバーは奥にあるツメ（2ヶ所）を先に引っかけてから取り付けてください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識

■ 補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ 補機バッテリーがあがってしまったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 補機バッテリーについて

→ P. 315

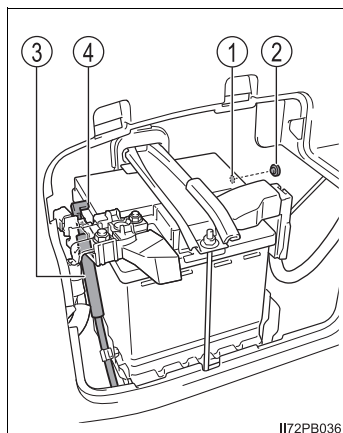
■ 補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーを交換するときは

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
 - 交換前と同一のケースサイズ (LNO)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (35Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (240A) 以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・ ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
 - 一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。
 - 取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。
 - 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください
 - ・ 排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ エルボが排気ホースと補機バッテリー排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ 排気穴栓がエルボが接続しない側の排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ エルボ / 排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。(交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります)
- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

- ① 排気穴
- ② 排気穴栓
- ③ 排気ホース
- ④ 排気穴



1172PB036

 警告**■補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

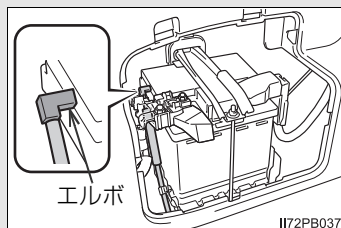
■補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

- 早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
- 補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ 補機バッテリーの交換について

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 補機バッテリー交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースとつながったエルボと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。



■ 補機バッテリーの一端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ 救援用端子について

救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 72, 365）が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- ハイブリッドシステム過熱警告灯（→ P. 368）が点灯している。
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

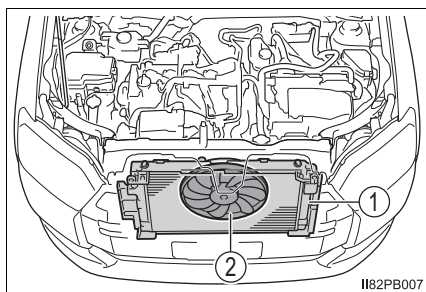
■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

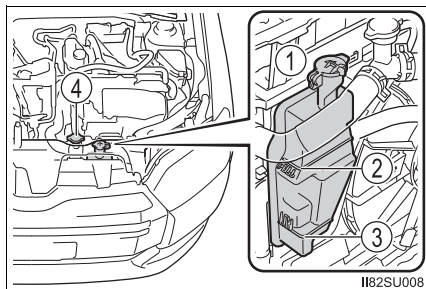
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



- 4 冷却水の量がリザーバタンクの “FULL”（上限）と “LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

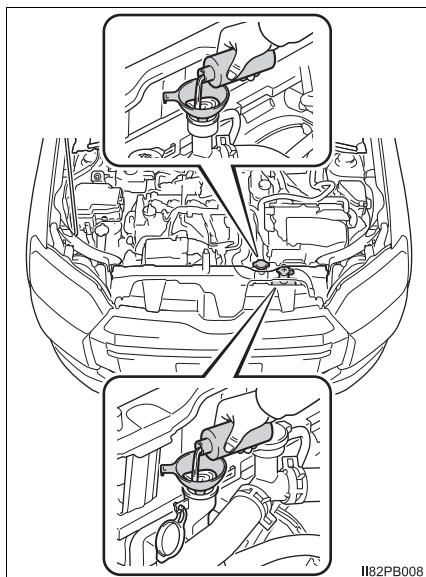
- ① リザーバタンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）
- ④ ラジエーターキャップ



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



- 6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
- ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

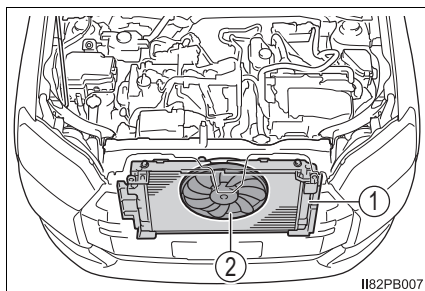
■ ハイブリッドシステム過熱警告灯が点灯したとき

- 1 安全な場所に停車する
- 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

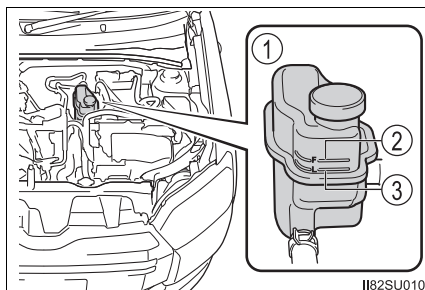
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



- 4 冷却水の量がリザーバタンクの“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する

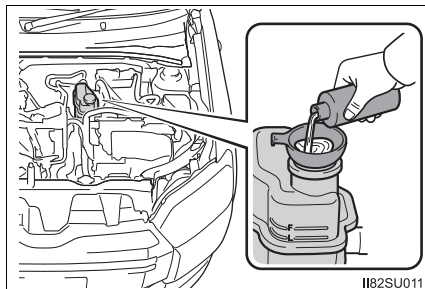
- ① リザーバタンク
- ② “F”（上限）
- ③ “L”（下限）



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



- 6 ハイブリッドシステムを始動し、メーターを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：

最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

 警告**■ エンジンルームを点検するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ベルトやファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーター・リザーバータンクが熱いうちは、ラジエーターキャップおよびリザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ 冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

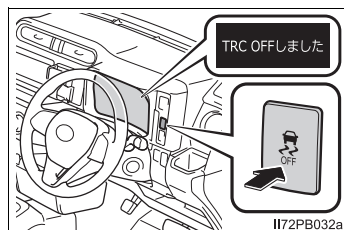
- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいときは



を押してTRCをOFFにしてください。



警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もいないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	404
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	409
--------------------------	-----

**8-3. フリー／オープンソース
ソフトウェア**

フリー／オープンソース ソフトウェア情報	416
-------------------------------	-----

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものををご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	42

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

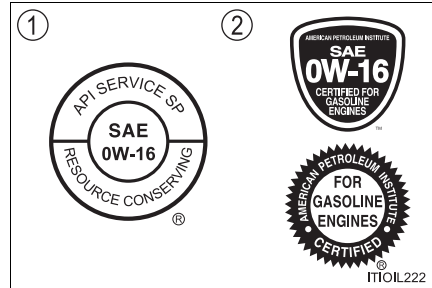
指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.4	3.7

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

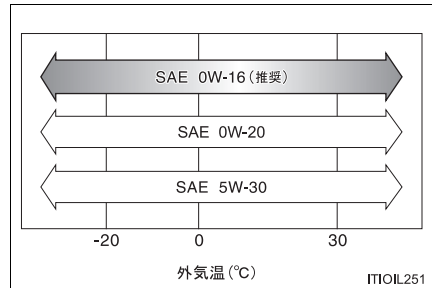
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- ・ 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント	ガソリンエンジン	4.5
凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	インバーター	1.6

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正オートフルード WS	3.3

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	70 以上

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
踏みしろ 操作力 300 N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	7 ~ 10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.3

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイール サイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)			
		前輪		後輪	
		空荷時	積荷時※	空荷時	積荷時※
155/80R14 88/86S LT	14×5J	220 (2.2)	240 (2.4)	230 (2.3)	290 (2.9)

※ 100kg 以上または 4 名乗車以上

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]	
標準タイヤ	103 (1050)
スペアタイヤ	

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（バルブタイプ：H4）	60 / 55
	車幅灯	5
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5
	制動灯／尾灯	21 / 5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	リヤフォグランプ★	21
	ハイマウントストップランプ	21
	番号灯	5
車内	フロントルームランプ	8
	リヤルームランプ	8

※ 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
NHP160V	1NZ-FXE（1.5L ガソリン）	1LM	FF（前輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更できる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにします。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 88

車両カスタマイズ設定一覧

① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

② トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 77, 81)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
言語	・ 日本語 ・ 英語	○	—
単位	・ km/h ・ L/100km	○	—
EV インジケーター	・ ON ・ OFF	○	—
デジタル車速	・ ON ・ OFF	○	—
アクセルガイド	・ ON ・ OFF	○	—
燃費グラフ	・ 始動後平均燃費 ・ リセット間平均燃費 ・ 給油後平均燃費	○	—
エネルギーモニター	・ ON ・ OFF	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
制動灯表示灯	・ あり ・ なし	○	—
ドライブインフォタイプ	・ 始動後 ・ リセット間	○	—
ドライブインフォ項目選択（上段）	・ 走行距離 ・ 走行時間 ・ 平均車速	○	—
ドライブインフォ項目選択（下段）	・ 走行距離 ・ 走行時間 ・ 平均車速	○	—
今回の走行	・ ドライブインフォ ・ エコジャッジ	○	—

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 94）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
ワイヤレス機能	・ あり ・ なし	—	○
作動の合図（非常点滅灯）	・ あり ・ なし	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	・ 30 秒 ・ 60 秒 ・ 120 秒	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 150）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
ライトセンサーの感度	・ -2 ～ +2	—	○
消し忘れ防止機能	・ パワースイッチを“LOCK”にしたとき消灯 ・ フロントドアまたはリヤドアを開けたとき消灯	—	○

■ レーンディパーチャーアラート (LDA) (→ P. 197)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
レーンディパーチャーアラート (LDA)	・ ON ・ OFF	○	—
警報タイミング	・ 標準 ・ 早い	○	—
警報手段	・ ハンドル振動 ・ ブザー	○	—
低車速支援	・ ON ・ OFF	○	—

■ 休憩提案 (→ P. 200)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
休憩提案	・ ON ・ OFF	○	—

■ プリクラッシュセーフティ (→ P. 178)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
プリクラッシュセーフティ	・ ON ・ OFF	○	—
警報タイミング	・ 遅い ・ 標準 ・ 早い	○	—

■ レーダークルーズコントロール (DRSS) (→ P. 216)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
加速度設定	・ 弱 ・ 中 ・ 強	○	—
速度設定 (短押し)	・ 1km/h ・ 5km/h ・ 10km/h	○	—
速度設定 (長押し)	・ 1km/h ・ 5km/h ・ 10km/h	○	—
ガイド文言表示	・ ON ・ OFF	○	—
カーブ速度抑制	・ OFF ・ 弱 ・ 中 ・ 強	○	—

■ プロアクティブドライビングアシスト (→ P. 203)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
プロアクティブドライビングアシスト (PDA)	・ ON ・ OFF	○	—
支援感度	・ 低い ・ 中間 ・ 高い	○	—
操舵アシスト (SA)	・ ON ・ OFF	○	—
減速アシスト (DA)	・ ON ・ OFF	○	—
障害物先読みアシスト (OAA)	・ ON ・ OFF	○	—

■ 発進遅れ告知 (→ P. 210)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
先行車	・ ON ・ OFF	○	—
信号	・ ON ・ OFF	○	—
告知タイミング	・ 早い ・ 標準 ・ 遅い	○	—

■ クリアランスソナー (→ P. 232)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
クリアランスソナー機能	・ あり ・ なし	○	—
ブザー音量	・ 小 ・ 中 ・ 大	○	—

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→ P. 241)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
PKSB (パーキングサポートブレーキ) 機能	・ ON ・ OFF	○	—

■ ロードサインアシスト (→ P. 212)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
ロードサインアシスト	・ ON ・ OFF	○	—
速度標識超過告知方法	・ 無 ・ 表示 ・ 表示とブザー	○	—
その他告知方法	・ 無 ・ 表示 ・ 表示とブザー	○	—
速度超過告知車速	・ 10km/h ・ 5km/h ・ 2km/h	○	—

■ オートエアコン (→ P. 274)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	・ する ・ しない	—	○

■ ドライブスタートコントロール (→ P. 128)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
後退速度の抑制制御	・ あり ・ なし *	○	—

* “なし” に変更しても、パワースイッチを“ON”にするたびに“あり”にもどります。

■ イルミネーション (→ P. 282)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
フロントルームランプの消灯までの時間	・ 7.5 秒 ・ 15 秒 ・ 30 秒	—	○
解錠時のフロントルームランプの作動	・ ON ・ OFF	—	○
パワースイッチ “LOCK” 後のフロントルームランプの作動	・ ON ・ OFF	—	○

■ リヤシートリマインダー (→ P. 100)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
後席置き忘れ防止の表示	・ あり ・ なし	○	—

■ リヤワイパー (→ P. 163)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
バックドアを開けたときのリヤワイパー停止	・ あり ・ なし	—	○
ウォッシャー液を出したときのリヤワイパー作動	・ あり ・ なし	—	○
作動シフトレバーを R にしたときのリヤワイパー作動	・ 1 回作動 ・ 連続作動 ・ なし	—	○

 知識

■ 車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」の設定に依存します。

 警告

■ カスタマイズを行うとき

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ カスタマイズを行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

フリー／オープンソースソフトウェア情報

クリアランスソナー

本製品にはフリー／オープンソースソフトウェア (FOSS) が含まれています。

該当 FOSS のライセンス情報およびソースコードは、以下の URL でご覧いただけます。

<http://car.panasonic.jp/oss/o04d6c00/>

さくいん

こんなときは （症状別さくいん）.....	418
車から音が鳴ったときは （音さくいん）	421
アルファベット順さくいん.....	422
五十音順さくいん	424

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーを作ることができます。（→ P. 95）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 331）
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 99）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 99）

故障かな？と思ったら**ハイブリッドシステムが始動しない**

- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 138）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 391）

**ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーが P から動かない**

- パワースイッチの位置が “ON” になっていますか？
パワースイッチの位置が “ON” でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 146）

**パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 122）

**警告音が鳴りだした**

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 421）をご確認ください。

**警告灯や警告メッセージが表示されたとき**

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 365, 370 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 379）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 401）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／車から降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	パワースイッチにキーが挿してある	P. 140
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 153

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 99
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 149
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 368
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 132
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P. 223
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 179
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P. 191
	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P. 197
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P. 212
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P. 232

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 274

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 260, 366

ACC

(アクセサリ) 139

AHB

(オートマチックハイビーム) 154

ECB

(エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム) 260

ECO

(エコノミー／エコロジー) 145

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング) 260, 366

FF

(フロントエンジンフロントドライブ) 408

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 405

INT

(インターミッテント) 160

LDA

(レーンディパーチャーアラート) 197, 366

LTA

(レーントレーシングアシスト) 191

PCS

(プリクラッシュセーフティ) 178, 366

PDA

(プロアクティブドライビングアシスト) 203

PKSB

(パーキングサポートブレーキ) 241

RSA

(ロードサインアシスト) 212

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 35, 365

Toyota Safety Sense 169

AHB (オートマチックハイビーム) 154

LDA (レーンディパーチャーアラート) 197

LTA (レーントレーシングアシスト) 191

PCS (プリクラッシュセーフティ) 178

PDA (プロアクティブドライビングアシスト) 203

RSA (ロードサインアシスト) 212

クルーズコントロール 227

発進遅れ告知機能 210

レーダークルーズコントロール 216

TRC

(トラクションコントロール) 260, 366

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 260, 366

五十音順さくいん

あ

アースポイント (補機バッテリーあがりの 処置)	391
アウターミラー (ドアミラー) ...	118
操作	118
格納のしかた	119
ミラーヒーター	276
アクセサリーコンセント	298
アクセサリーソケット	298
アクセサリーモード	139
アンチロックブレーキ システム (ABS)	260
アンテナ ラジオ	120

い

イグニッションスイッチ (パワースイッチ)	138
位置交換 (タイヤローテーション)	319
EV ドライブモード	142
イベントデータレコーダー (EDR)	8
イモビライザーシステム	70
イルミネテッドエントリー システム	283
インジケーター (表示灯) ハイブリッドシステム インジケーター	84
表示灯	74
READY	138
インナーミラー	116
インパネテーブル	302
インパネトレイ	291

う

ウインカー（方向指示灯）.....	148
電球（バルブ）の交換.....	337
方向指示レバー.....	148
ワット数.....	408
ウインドウ.....	121
ウォッシャー.....	160, 163
パワーウインドウ.....	121
リヤウインドウ	
デフォッガー.....	276
ウインドウロックスイッチ.....	122
ウォーニングランプ	
（警告灯）.....	72, 365
ウォッシャー.....	160, 163
液の補給.....	318
スイッチ.....	160, 163
タンク容量.....	407
冬の前の準備・点検.....	270
動けなくなったときは	
（スタック）.....	401
運転.....	126
雨の日の運転.....	128
運転を補助する装置.....	260
寒冷時の運転.....	270
正しい運転姿勢.....	28
手順.....	126
運転席ロアポケット.....	295

え

エアコン.....	274
曇り取り（フロント	
ウインドウガラス）.....	276
フィルターの交換.....	325
エアバッグ.....	35
SRS エアバッグ警告灯.....	365
お子さまのための注意.....	36
改造・廃棄.....	38
作動条件.....	39
正しい姿勢.....	28
配置.....	35
エコドライブモード.....	145
エレクトリックパワー	
ステアリング（EPS）.....	260
エンジン	
イモビライザーシステム.....	70
エンジン警告灯.....	365
オーバーヒート.....	397
ハイブリッドシステムが	
始動できない.....	390
ハイブリッドシステムの	
始動方法.....	138
緊急時の停止方法.....	354
パワー（イグニッション）	
スイッチ.....	138
ボンネット.....	314
エンジンオイル.....	404
冬の前の準備・点検.....	270
メンテナンスデータ.....	404
油圧警告灯.....	365
容量.....	404
エンジンフード（ボンネット）	
開け方.....	314

お

オイル（エンジンオイル）.....	404
応急用タイヤ	379
空気圧.....	407
交換方法.....	379
オートエアコン.....	274
オートマチックハイビーム	154
オーバーヒート.....	397
オープナー	
給油扉.....	167
ボンネット.....	314
オープントレイ.....	295
お子さまを乗せるとき	42
ウインドウロックスイッチ	122
エアバッグ	36
お子さまの安全のために.....	42
キーの電池.....	332
子供専用シート	43
シートの取り扱いに	
関する警告	105, 110
シートベルトの着用	32
チャイルドシートの取り付け ...	56
チャイルドプロテクター.....	99
発炎筒の取り扱いに	
関する警告	353
バックドアに関する警告.....	102
パワーウインドウに	
関する警告	123
オドメーター	
機能	77
表示切りかえボタン	78

か

カーベット	
洗浄.....	312
フロアマットの取り付け方	26
外気温度表示	77
回生ブレーキ	61
外装の電球（バルブ）	
交換要領	337
ワット数	408
開閉式ワイドフリーラック	292
買い物フック	287
カスタマイズ機能	409
ガソリンスタンドでの情報.....	444
型式	408
カップホルダー	293
カメラ	
前方カメラ	171
バックモニター.....	250
ガラスの曇り取り（リヤ	
ウインドウデフォグガー）.....	276
ガレージジャッキ	317
冠水路走行	136
寒冷時の運転	270

き

キー	94
キーナンバープレート	94
キーの構成	94
キーレスエントリー	94
キーをなくした	95
電池が切れた	331
ワイヤレスリモコン	94
キーレスエントリー	
ワイヤレスドアロック	94
給油	165
給油のしかた	165
メンテナンスデータ	404
緊急時シートベルト固定機構	32
緊急時の対処	
オーバーヒートした	397
キーの電池が切れた	331
キーをなくした	95
緊急用フック	364
警告灯がついた	365
けん引	358
故障したときは	350
車中泊が必要なときは	357
車両を緊急停止する	354
水没・冠水したときは	356
スタックした	401
ハイブリッドシステムが	
始動できない	390
発炎筒	352
パンクした	379
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	351
補機バッテリーがあがった	391
緊急ブレーキシグナル	260

く

空気圧 (タイヤ)	407
空調	
フィルターの交換	325
オートエアコン	274
区間距離計 (トリップメーター)	
機能	77
表示切りかえボタン	78
曇り取り	
フロントウインドウガラス	276
リヤウインドウ	
デフォッガー	276
クラクション (ホーン)	114
クリアランスソナー	232
クリアランスランプ (車幅灯)	150
スイッチ	150
電球 (バルブ) の交換	340
ワット数	408
クリップ	
フロアマット	26
クルーズコントロール	
クルーズコントロール	227
レーダークルーズ	
コントロール	216
グローブボックス	292

け

警音器（ホーン）..... 114

計器類（メーター）

警告灯／表示灯 72

マルチインフォメーション

ディスプレイ 81

メーター..... 77

警告灯 72, 365

ABS & ブレーキアシスト..... 366

SRS エアバッグ 365

エンジン..... 365

オートマチックハイビーム.... 366

駆動用電池残量低下 368

クリアランスソナー 367

クルーズコントロール..... 367

高水温..... 365

シートベルト非着用 368

充電 365

スリップ..... 366

ドライブスタート

コントロール 367

燃料残量..... 368

ハイブリッドシステム過熱.... 368

パワーステアリング 366

ブリクラッシュセーフティ366

プリテンショナー.....365

ブレーキ365

ブレーキオーバーライド

システム367

プロアクティブドライビング

アシスト366

油圧.....365

レーダークルーズ

コントロール.....367

レーンディパーチャー

アラート366

レーントレーシング

アシスト366

警告ブザー

キー抜き忘れ 140

シートベルト非着用368

車線逸脱警報（LDA） 197

衝突警報（PCS）..... 179

接近警報（レーダークルーズ

コントロール）.....223

手放し運転警告（LDA）200

手放し運転警告（PDA）209

パーキングブレーキ

未解除走行時..... 149

パワーステアリング366

半ドア走行時99

ブレーキ365

油圧.....365

ランプ消し忘れ..... 153

リバース 145

けん引.....358

けん引のしかた.....358

フック362

こ

交換	
エアコンフィルター	325
キーの電池	331
タイヤ	379
電球（バルブ）	337
ヒューズ	334
工具（ツール）	380
光軸調整ダイヤル	152
航続可能距離	82
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換	342
ワット数	408
高電圧部位	64
コートフック	304
子供専用シート	43
選択方法	48
取り付け方	56
コンセント	298
コンソールトレイ	295
コンライト	
（自動点灯・消灯機能）	150

さ

サイド方向指示灯	148
方向指示レバー	148
ワット数	408
サイドミラー（ドアミラー）	118
格納のしかた	119
操作	118
ミラーヒーター	276
三角表示板収納スペース	382
サンバイザー	297

し

シート	105, 106
子供専用シート	43
正しい運転姿勢	28
調整	105, 106
手入れ	312
ヘッドレスト	112
リヤシートの前倒し	106
シートベルト	30
お子さまの着用	32
緊急時シートベルト固定機構	32
シートベルト非着用警告灯	368
正しく着用するには	30
着け方・はずし方	30
手入れ	312
妊娠中の方の着用	33
シートベルト非着用警告灯	368
シートベルトプリテンショナー	31
機能	31
プリテンショナー警告灯	365
室内灯（ルームランプ）	282
始動のしかた	138
シフトポジション	144
シフトレバー	144
シフトロックシステム	
（解除ボタン）	146
操作	144
リバース警告ブザー	145

シフトレバーがシフト

できないときは.....	146
シフトロックシステム.....	145
締め付けトルク	
(ホイール).....	387, 407
車線逸脱警報機能.....	197
車中泊が必要なときは.....	357
ジャッキ	
ガレージジャッキ.....	317
車載ジャッキ.....	380
ジャッキハンドル.....	380
車幅灯.....	150
電球 (バルブ) の交換.....	340
ランプスイッチ.....	150
ワット数.....	408
車両型式.....	408
車両仕様 (スペック).....	404
車両データの記録.....	8
車両を緊急停止するには.....	354
収納装備.....	284
手動光軸調整ダイヤル.....	152
ジュニアシート.....	43
充電用 USB 端子.....	300
瞬間燃費.....	83
仕様 (車両仕様).....	408

す

水温

高水温警告灯.....	365
-------------	-----

スイッチ

イグニッション.....	138
EV ドライブモード.....	142
ウインドウロック.....	122
ウォッシャー.....	160, 163
エコドライブモード.....	145
LTA.....	194
オートマチックハイビーム.....	154
クルーズコントロール.....	228
車間距離切りかえ	
(レーダークルーズ	
コントロール).....	219
ドアミラー.....	118
ドアロック.....	98
TRC OFF.....	261
ハザードランプ.....	351
パワーウインドウ.....	121
パワースイッチ.....	138
非常点滅灯	
(ハザードランプ).....	351
VSC OFF.....	261
フォグラмп.....	158
方向指示レバー.....	148
ホーン (警音器).....	114
メーター表示切りかえ.....	78
ランプ.....	150
リヤウインドウ	
デフォッガー.....	276
ルームランプ.....	283
レーダークルーズ	
コントロール.....	219
ワイパー.....	160, 163

スタック	401
ステアリングホイール（ハンドル）	
位置調整	114
スイッチ	305
ストップランプ（制動灯）	
電球（バルブ）の交換	342
ワット数	408
スノータイヤ（冬用タイヤ）	270
スピードメーター	77
スペアタイヤ	379
空気圧	407
交換方法	379
スペック（車両仕様）	404
スモールランプ（車幅灯）	150
電球（バルブ）の交換	340
ランプスイッチ	150
ワット数	408

せ

清掃	308, 312
外装	308
駆動用電池冷却用吸入口／	
吸入口カバー	328
シートベルト	312
内装	312
制動灯	
電球（バルブ）の交換	342
ワット数	408
セカンダリーコリジョン	
ブレーキ	260
接近警報（レーダークルーズ	
コントロール）	223
積算距離計（オドメーター）	
機能	77
表示切りかえボタン	78
先行車発進告知機能	210
センサー	
インナーミラー	117
オートマチックハイビーム	154
クリアランスソナー	232
前方カメラ	171
前方レーダー	171
パーキングサポートブレーキ	
（前後方静止物）	232
ライトセンサー	152
レーンディパーチャー	
アラート	197
洗車	308

前照灯（ヘッドランプ）	150
オートマチックハイビーム	154
手動光軸調整ダイヤル	152
電球（バルブ）の交換	339
ライトセンサー	152
ランプ消し忘れ警告ブザー	153
ランプ消し忘れ防止機能	153
ランプスイッチ	150
ワット数	408
センターコンソールトレイ	295
センターコンソール小物入れ	295
センタートレイ	
（ドリンクホルダー付）	286
照明	282
センターボックス	292

そ

速度計	
（スピードメーター）	77

た

ターンシグナルランプ

（方向指示灯）	148
電球（バルブ）の	
交換	341, 342
方向指示レバー	148
ワット数	408

タイヤ

空気圧	323, 407
交換	379
締め付けトルク	387, 407
チェーン	270
点検	319
パンクしたときは	379
冬用タイヤ	270
ホイールサイズ	407
ローテーション	

（位置交換）	319
--------------	-----

タイヤが空まわりする

（スタックした）	401
タイヤチェーン	270

ち

チェーン（タイヤチェーン）	270
チケットホルダー	297
チャイルドシート	43
規格	48
シートベルトでの固定	56
知っておいて	
いただきたいこと	43
選択方法	48
取り付け方	56
チャイルドプロテクター	99
駐車ブレーキ	
（パーキングブレーキ）	149
操作	149
冬季の注意	271
パーキングブレーキ表示灯	74
未解除走行時警告ブザー	149
メンテナンスデータ	406

つ

ツール（工具）	380
---------------	-----

て

停止表示板収納スペース	382
手入れ	308, 312
外装	308
シートベルト	312
内装	312
テーブル	302
テールランプ（尾灯）	150
電球（バルブ）の交換	342
ランプスイッチ	150
ワット数	408
デフォグガー（リヤウインドウ	
デフォグガー）	276
電球（バルブ）	
交換要領（外装バルブ）	337
ワット数	408
点検基準値	
（メンテナンスデータ）	404
電池交換（キー）	331

と

ドア	97
チャイルドプロテクター	99
ドアガラス	121
ドアロックスイッチ	98
バックドア	101
半ドア警告メッセージ	99
半ドア走行時警告ブザー	99
ロックレバー	98
ワイヤレスリモコン	97
ドアガラス	121
ドアポケット	295
ドアミラー	118
格納のしかた	119
操作	118
ミラーヒーター	276

盗難防止装置

イモビライザーシステム.....	70
ドライブスタート	
コントロール.....	127
トラクションコントロール	
(TRC).....	260
トランスミッション.....	144
メンテナンスデータ.....	406
トリップメーター	
機能.....	77
表示切りかえボタン.....	78
ドリンクホルダー.....	286

な

内装

収納装備.....	284
手入れ.....	312

に

荷物

積むときの注意.....	137
リヤシートの前倒し.....	106

ぬ

ぬかるみにはまった

(スタック).....	401
-------------	-----

ね

燃費

瞬間燃費.....	83
平均燃費.....	83
燃料.....	404
ガソリンスタンドでの情報....	444
給油.....	165
種類.....	404
燃料残量警告灯.....	368
容量.....	404
燃料計.....	77

は

パーキングサポートブレーキ

(PKSB).....	241
-------------	-----

パーキングサポートブレーキ

(前後方静止物).....	247
---------------	-----

パーキングブレーキ.....

操作.....	149
---------	-----

冬季の注意.....	271
------------	-----

パーキングブレーキ表示灯.....	74
-------------------	----

未解除走行時

警告ブザー.....	149
------------	-----

メンテナンスデータ.....	406
----------------	-----

排気ガス.....

ハイビーム (ヘッドランプ).....	150
---------------------	-----

オートマチックハイビーム....	154
------------------	-----

電球 (バルブ) の交換.....	339
-------------------	-----

ランプスイッチ.....	150
--------------	-----

ワット数.....	408
-----------	-----

ハイブリッドシステム

EV ドライブモード	142
運転のアドバイス	268
オーバーヒート	397
回生ブレーキ	61
ガス欠になったとき	66
緊急時の停止方法	354
緊急停止システム	65
駆動用電池冷却用吸入口	65
高電圧部位	64
サービスプラグ	67
事故が発生したとき	67
始動できないときは	390
始動方法	138
車両接近通報装置	61
充電	62
注意	64
特徴	60
特有の音と振動	63
パワー（イグニッション）	
スイッチ	138
補機バッテリーがあがった	391
メンテナンス・	
修理・廃車するとき	63

ハイブリッドシステム

インジケーター	84
ハイマウントストップランプ	
電球（バルブ）の交換	345
ワット数	408

ハザードランプ（非常点滅灯） 351

スイッチ	351
電球（バルブ）の	
交換	341, 342
ワット数	408

挟み込み防止機能

運転席ドアガラス	123
----------------	-----

発炎筒 352**バックアップランプ（後退灯）**

電球（バルブ）の交換	342
ワット数	408

バックドア 101

バックドアグリップ	102
バックドアハンドル	101
半ドア警告メッセージ	99
半ドア走行時警告ブザー	99

バックモニター 250**発進遅れ告知機能** 210**バッテリー（駆動用電池）** 64

充電について	62
搭載位置	64
冷却用吸入口	65

バッテリー（補機バッテリー）

交換するとき	394
搭載位置	315
補機バッテリーがあがった	391
冬の前の準備	270

バルブ（電球）

交換要領（外装のバルブ）.....	337
ワット数.....	408
パワーウィンドウ	121
ウィンドウロックスイッチ....	122
操作.....	121
挟み込み防止機能.....	123
パワースイッチ	138
位置の切りかえ.....	139
車両を緊急停止するには.....	354
ハイブリッドシステム	
始動のしかた.....	138
パワーステアリング	260
EPS.....	260
パワーステアリング警告灯....	366
パンクした	379
番号灯（ライセンスプレート	
ランプ）.....	150
電球（バルブ）の交換.....	346
ランプスイッチ.....	150
ワット数.....	408
ハンドル	
（ステアリングホイール）.....	114
位置調整.....	114

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール（VSC）.....	260
ヒーター	
オートエアコン.....	274
シートヒーター.....	280
ミラーヒーター.....	276
非常点滅灯（ハザードランプ）	351
スイッチ.....	351
電球（バルブ）の	
交換.....	341, 342
ワット数.....	408
尾灯（テールランプ）	150
電球（バルブ）の交換.....	342
ランプスイッチ.....	150
ワット数.....	408
ヒューズ	334
表示灯	74
日よけ（サンバイザー）	297
ヒルスタートアシスト	
コントロール.....	260

ふ

ブースターケーブルの	
つなぎ方.....	391
フォグラмп	158
スイッチ.....	158
電球（バルブ）の交換.....	342
ワット数.....	408

ブザー

キー抜き忘れ警告	140
休憩提案機能 (LDA)	198
クリアランスソナー	240
シートベルト非着用警告	368
車線逸脱警報 (LDA)	197
衝突警報 (PCS)	179
接近警報 (レーダークルーズ コントロール)	223
手放し運転警告 (LDA)	200
手放し運転警告 (PDA)	209
パーキングサポートブレーキ (PKSB)	243
パーキングブレーキ	
未解除走行時警告	149
発進遅れ告知機能	210
パワーステアリング警告	366
半ドア走行時	99
ブレーキ警告	365
油圧警告	365
ランプ消し忘れ警告	153
リバース警告	145
フック	
買い物フック	287
けん引フック	362
コートフック	304
フロアマット固定フック	26
フューエルメーター (燃料計)	77
フューエルリッド (給油口)	
給油のしかた	165
冬の前の準備 (寒冷時の運転) ...	270
冬用タイヤ	270
プリクラッシュセーフティ (PCS)	178

ブレーキ

回生ブレーキ	61
パーキングブレーキ	149
ブレーキ警告灯	365
メンテナンスデータ	406
ブレーキアシスト	260
ABS & ブレーキアシスト	
警告灯	366
機能	260
ブレーキオーバライド システム	128
ブレーキ付近から	
キーキー音が聞こえる	132
ブレーキフルード	406
プロアクティブドライビング アシスト (PDA)	203
フロアマット	26
フロントシート	105
正しい運転姿勢	28
調整	105
手入れ	312
ヘッドレスト	112
フロント方向指示灯	148
電球 (バルブ) の交換	341
方向指示レバー	148
ワット数	408
フロントルームランプ	283

へ

平均燃費	83
ヘッドランプ	150
オートマチックハイビーム	154
手動光軸調整ダイヤル	152
電球（バルブ）の交換	339
ライトセンサー	152
ランプ消し忘れ警告ブザー	153
ランプ消し忘れ防止機能	153
ランプスイッチ	150
ワット数	408
ヘッドレスト	112
ベビーシート	43

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）	379
メンテナンスデータ	407
ホイールナットレンチ	380
方向指示灯	148
電球（バルブ）の	
交換	341, 342
方向指示レバー	148
ワット数	408
ホーン（警音器）	114
補機バッテリー	
交換するとき	394
補機バッテリーが	
あがったときは	391
補機バッテリーについて	315
ポケット	295
保証	11
ボトルホルダー	293
ボンネット	
開け方	314

ま

マルチインフォメーション	
ディスプレイ	81
カスタマイズモード	88
マルチホルダー	288

み

ミラー	
インナーミラー	116
ドアミラー	118
ミラーヒーター	276

め

メーター（計器類）	
カスタマイズモード	88
警告灯	72, 365
照度調整	78
表示切りかえボタン	78
表示灯	74
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	81
メーター	77
メーター照度調整	78
メンテナンスデータ	404

も

モーター（電気モーター）	64
モーターでの走行	
（EV ドライブモード）	142

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	409
雪道ですべて動けない	
（スタックした）	401
油脂類	404

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	150
電球 (バルブ) の交換	346
ランプスイッチ	150
ワット数	408
ラゲージルーム 補機バッテリー	315
ラジエーター オーバーヒート	397
メンテナンスデータ	406
ランプ オートマチックハイビーム	154
室内灯	282
センタートレイ (ドリンク ホルダー付) 照明	282
電球 (バルブ) の交換	337
非常点滅灯 (ハザードランプ)	351
ヘッドランプ (前照灯)	150
方向指示灯 (ターンシグナル ランプ/ウインカー)	148
ライトセンサー	152
ランプ消し忘れ警告ブザー	153
ランプ消し忘れ防止機能	153
リヤフォグランプ	158
ルームランプ	283
ワット数	408
ランプ消し忘れ警告ブザー	153
ランプ消し忘れ防止機能	153

り

リヤウインドウデフォグガー	276
リヤシート クッション固定式シート	106
クッション引き起こし式 シート	107
リヤフォグランプ	158
スイッチ	158
電球 (バルブ) の交換	342
ワット数	408
リヤ方向指示灯	148
電球 (バルブ) の交換	342
方向指示レバー	148
ワット数	408
リヤルームランプ	283

る

ルームミラー (インナーミラー)	116
ルームランプ	283

れ

冷却水	406
高水温警告灯	365
冬の前の準備	270
メンテナンスデータ	406
冷却装置 (ラジエーター)	406
オーバーヒート	397
メンテナンスデータ	406
レーダークルーズ コントロール	216
レーンディパーチャー アラート (LDA)	197
レーントレーシングアシスト (LTA)	191

レバー

シフト	144
ハンドル位置調整	114
方向指示	148
ボンネット解除	314
ロック (ドア)	98

ろ

ロアポケット	295
--------------	-----

ロック

ウインドウロック	122
シフトロック	145
チャイルドプロテクター	99
ドア	97
バックドア	101
ワイヤレスリモコン	97

ロードサインアシスト

(RSA)	212
-------------	-----

わ

ワイドフリーラック	292
-----------------	-----

ワイパー & ウォッシャー

ウォッシャー液の補給	318
フロント	160
リヤ	163

ワイパーブレード (寒冷地用) ...

271

ワイヤレスリモコン	94
-----------------	----

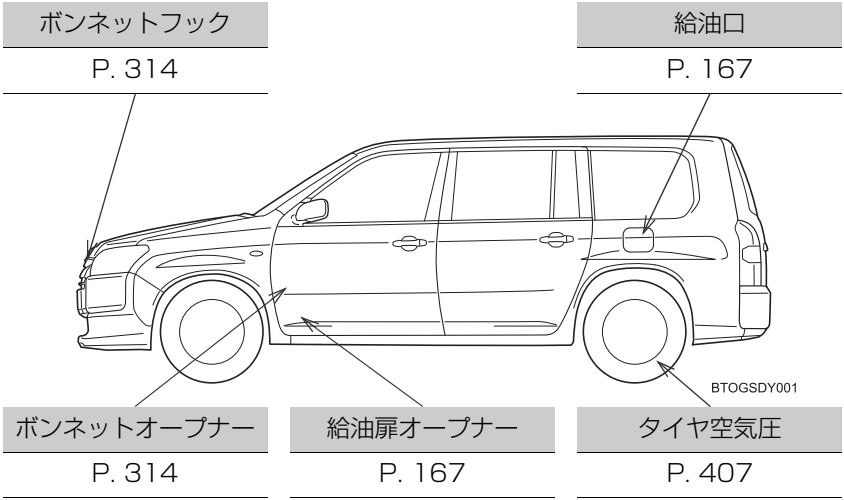
作動の合図	98
操作	97
電池の交換	331

ワックス	308
------------	-----

ワット数	408
------------	-----

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	42L			
燃料の種類	・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。			
タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	前輪		後輪	
	空荷時	積荷時※	空荷時	積荷時※
	220 (2.2)	240 (2.4)	230 (2.3)	290 (2.9)
※ 100kg 以上または 4 名乗車以上				
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：3.4L オイルとフィルター交換時：3.7L			
エンジンオイルの種類	推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 (API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16) 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 (API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20) トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 (API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30)			

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証） をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

